

Honeywell

Xenon™ 1900/1902

エリアイメージングスキャナ

ユーザーズガイド

免責事項

Honeywell International Inc. (以下、ハネウェル社)は、本書に記載された仕様およびその他の情報を事前に断り無く変更することがあります。何か変更があったかどうかを確認するときは、かならずハネウェル社にお問い合わせください。本書の情報について、ハネウェル社では一切の保証をいたしません。

本書に技術的または編集上の誤りや記載漏れがあった場合、また本書の内容の保管、実施、あるいは使用の結果生じた事故や損害については、ハネウェル社では一切の責任を負いません。

本書には著作権で保護された情報が含まれ、著作権法の対象となります。本書のどの部分も、ハネウェル社の文書による事前承諾を得ずに複製、編集、または多言語への翻訳を行うことはできません。

© 2010 Honeywell International Inc. All rights reserved.

本書に記載されたその他の製品名やマークは各社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれ所有者が権利を有しています。

ウェブアドレス: www.honeywellaidc.com

Microsoft® Windows®, Windows NT®, Windows 2000, Windows ME, Windows XP、ならびに Windows ロゴは Microsoft Corporationの商標または登録商標です。

Bluetooth® マークとロゴはBluetooth SIG, Inc.の所有です。

本書に記載されたその他の製品名やマークは各社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれ所有者が権利を有しています。

Xenon 1900製品のコンプライアンス情報

アメリカ向け

FCCパート15 サブパートBクラスB適合について

この装置はFCC規制のパート15に適合しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

この装置はFCC規制のパート15に準拠するクラスBデジタル機器に対する制限に適合することがテストで確認されています。これらの制限は、居住地域に設置したときに妨害を適切に防止できるように設定されています。この装置はラジオ周波数のエネルギーを発生、使用、また場合によっては放射します。指示通りに設置して使用しなければ、ラジオ受信を妨害することがあります。ただし、個々の設置例で妨害が起きないという保証はありません。この装置がラジオやテレビ受信への妨害の原因になった場合、妨害しているかどうかは装置のオン/オフにて確認可能です。使用者は以下の対策を一つまた複数試して妨害を解消してください。

- 受信アンテナの方向または位置を変える。
- 装置と受信機の間を離す。
- 装置を受信機とは別の回路のコンセントに接続する。
- 販売店あるいは経験のあるラジオ・テレビ技術者に相談する。

必要な場合には、販売店もしくは経験のあるラジオやテレビの技術者にさらなるアドバイスをお受けください。また、「インターフェースについて」というブックレットもご参考ください。これはFCCの現地オフィスにて入手可能です。ハネウェル社は当製品の無断の変更やハネウェル社からの指定を受けていない接続ケーブルや機器の置換や取り付けによるラジオやテレビへの妨害についての責任を追いません。その処理はユーザー様のご責任となります。

このシステムにはシールドデータケーブルをお使いください。

注： ハネウェル社から明確に認可されていない変更や修正を機器に対して行った場合は、FCCからのこの機器操作への保障対象外になることもあります。

ULについて

ULはUL60950-1に適合しています。

カナダ

Industry Canada ICES-003

このクラスBデジタル装置はCanadian ICES-003に対応しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

Conformité à la réglementation canadienne

Cet appareil numérique de la Classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada. Son fonctionnement est assujéti aux conditions suivantes :

1. Cet appareil ne doit pas causer de brouillage préjudiciable.
2. Cet appareil doit pouvoir accepter tout brouillage reçu, y compris le brouillage pouvant causer un fonctionnement indésirable.

cULについて

cULは CSA C22.2 No.60950-1-03に適合しています。

ヨーロッパ



製品についているCEマークはEN55022 CLASS B、EN55024、EN61000-3-2、EN61000-3-3基準による2004/108/EC EMC Directiveに適合していることを示しています。また、推奨される電源で出荷されている場合は2006/95/EC Low Voltage Directiveに適合しています。

詳細については、以下にお問い合わせください。

Honeywell Imaging & Mobility Europe BV
Nijverheidsweg 9-13
5627 BT Eindhoven
The Netherlands

ハネウェル社は、当社の製品をCEマークが無く、Low Voltage Directiveに適合しない機器(電源装置、パーソナルコンピュータなど)と使用された場合の一切の責任を負いません。

廃電気電子機器について

ハネウェル製品は2003年1月27日の廃電気電子機器(WEEE)指令、2002/96/EC OF THE EUROPEAN PARLIAMENT AND OF THE COUNCIL に適合しています。

この製品は製造につき、天然資源の抽出と使用を求められています。この製品には、適切に処理しなければ、健康と環境に影響を及ぼすおそれのある有害物質が含まれている場合があります。

有害物質が環境に散布されないよう、また天然資源に対する圧力を軽減するため、製品の廃棄には適切な回収システムを利用されることをお勧めします。そのような回収システムでは、安全な方法で廃棄される製品のほとんどの材料が再使用またはリサイクルされます。



— 車輪付きゴミ箱にバツ印がついた記号は、製品を都市ゴミとともに廃棄してはならないことを示すものであり、製品の廃棄には適切な分別回収システムの利用が望まれるものです。収集、再使用、およびリサイクルの各システムの詳細が必要な場合は、地方自治体の廃棄物管理局にお問い合わせください。

また、この製品の環境パフォーマンスの詳細については、購入先にお問い合わせください。

ドイツ



お使いの製品にGSマークが付いている場合は、その製品がGS認証を受け、IEC60950-1に適合していることを示しています。

オーストラリア・ニュージーランド

C-Tickについて



AS/NZS 3548 EMCの要求に合致

メキシコ



NOM-019に合致

ロシア



Gost-R認証

MJ104

韓国



世界各国向け

目への安全性について:LED

この装置はIEC60825-1 LED 安全規格に従ってテストされ、クラス1 LED装置の限度内であることが確認されています。

CB スキーム

IEC60950-1 (2001) First Editionに適合

特許

特許の一覧については、製品のパッケージを参照のこと。

防塵防水

Xenon 1900は IP41 等級で、外部粒子と水滴に対して耐性があります。

製品コンプライアンス Xenon 1902 ならびにCCB01-010BT について

アメリカ

FCC パート15 サブパートC

この装置はFCC規制のパート15に適合しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

注： ハネウェル社から明確に認可されていない変更や修正を機器に対して行った場合は、FCCからのこの機器操作への保障対象外となることもあります。



UL はUL60950-1に適合しています。

カナダ

Industry Canada

この装置はCanadian RSS-210に適合しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

Conformité à la réglementation canadienne

Cet appareil ISM est conforme à la norme CNR-210 du Canada. Son fonctionnement est assujéti aux conditions suivantes :

1. Cet appareil ne doit pas causer de brouillage préjudiciable.
2. Cet appareil doit pouvoir accepter tout brouillage reçu, y compris le brouillage pouvant causer un fonctionnement indésirable.



C-ULについては、I.T.E 製品安全性のCSA C22.2 No.60950-1-03に適合しています。

Europe



製品についているCEマークは1999/5/EC R&TTE Directiveの必須条件を満たしていることを示しています。また、また、推奨される電源で出荷されている場合は2006/95/EC Low Voltage Directiveに適合しています。詳細については、以下にお問い合わせください。

Honeywell Imaging & Mobility Europe BV
International Inc.
Nijverheidsweg 9-13
5627 BT Eindhoven
The Netherlands

ハネウェル社は、当社の製品をCEマークが無く、Low Voltage Directiveに適合しない機器(電源装置、パーソナルコンピュータなど)と使用された場合の一切の責任を負いません。この製品はECでの使用を前提としたもので、以下の基準に適合しています。

EN 300 328
EN 301 489-1
EN 301 489-17
EN60950-1
EN60825-1

廃電気電子機器について

ハネウェル製品は廃電気電子機器 (WEEE) 指令、2002/96/EC OF THE EUROPEAN PARLIAMENT AND OF THE COUNCIL に適合しています。

この製品は製造につき、天然資源からの抽出や使用を求められていますが、この製品には、適切に処理しなければ、健康と影響に影響を及ぼすおそれのある有害物質が含まれている場合があります。

有害物質が環境に散布されないよう、また天然資源に対する圧力を軽減するため、製品の廃棄には適切な回収システムを利用されることをお勧めします。そのような回収システムでは、安全な方法で廃棄される製品のほとんどの材料が再使用またはリサイクルされます。



車輪付きゴミ箱にバツ印がついた記号は、製品を都市ゴミとともに廃棄してはならないことを示すものであり、製品の廃棄には適切な分別回収システムの利用が望まれるものです。

収集、再使用、およびリサイクルの各システムの詳細が必要な場合は、地方自治体の
廃棄物管理局にお問い合わせください。

また、この製品の環境パフォーマンスの詳細については、購入先にお問い合わせください。

ドイツ



お使いの製品にGSマークが付いている場合は、その製品が
GS認証を受け、IEC60950-1に適合していることを示しています。

オーストラリア・ニュージーランド

C-Tick について



AS/NZS 3548 EMCの要件に適合

ロシア



МЛ04

世界各国向け

目の安全性について

LED

この装置はIEC60825-1: 1993+A1+A2 LED 安全規格に従ってテストされ、クラスI LED装置の
限度内であることが確認されています。

無線技術



CB スキーム

CB スキームIEC 60950-1に適合

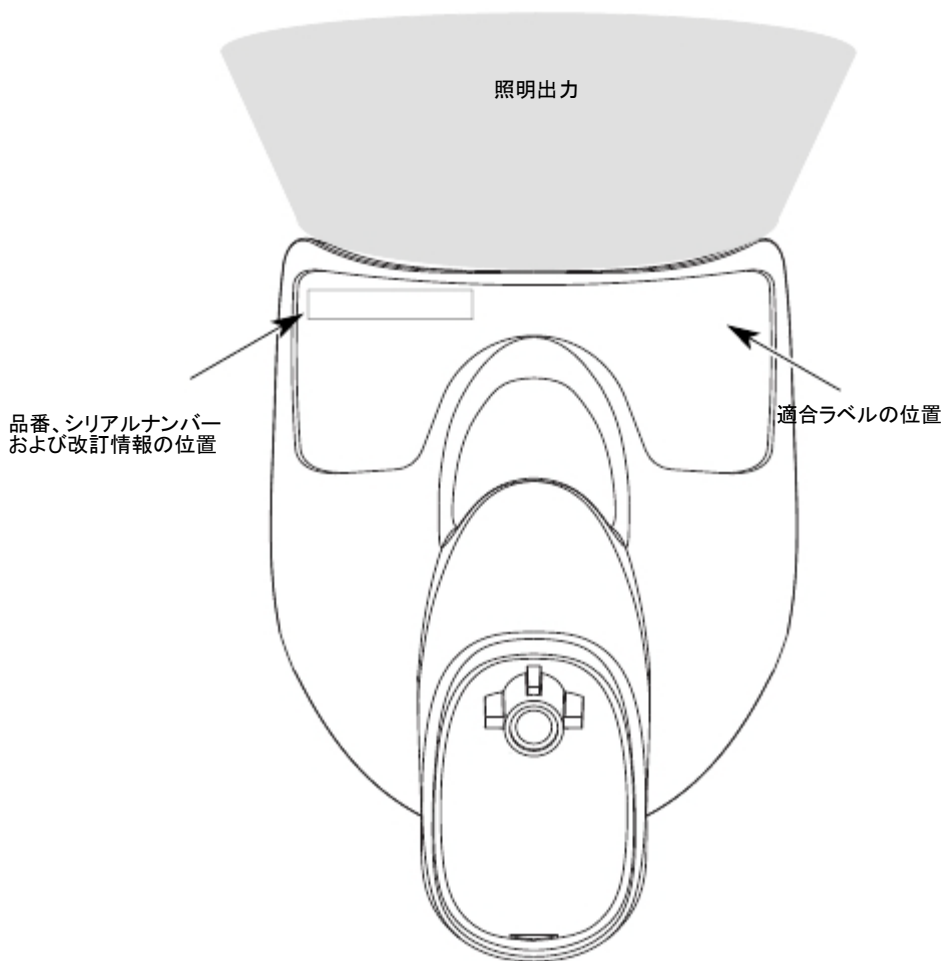
防塵防水

The Xenon 1902は IP41等級で、外部粒子と水滴に対して耐性があります。

特許

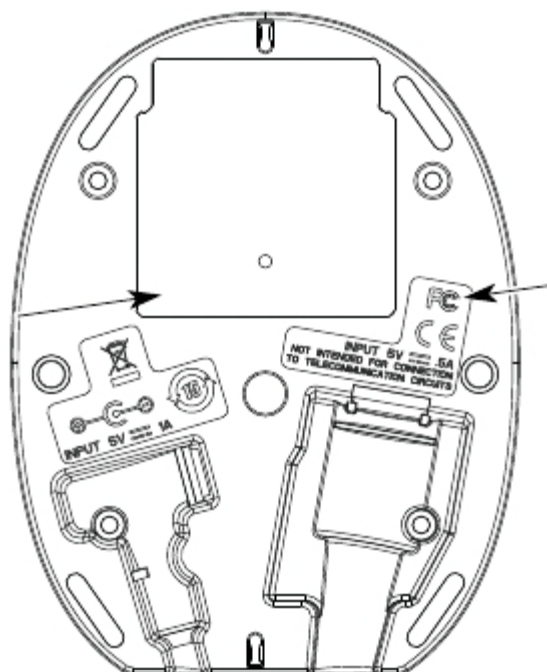
特許の一覧については、製品のパッケージを参照のこと。

求められる安全ラベル ハンディスキャナ



CCB01-010BT ベース

品番、シリアル
ナンバー
および改訂
情報の位置



適合ラベルの位置

目次

第1章- はじめに

本マニュアルについて	1-1
製品の開梱	1-1
接続	1-2
USBでの接続	1-2
キーボードウェッジでの接続	1-2
RS232シリアルポートでの接続	1-5
RS485での接続	1-6
読み取り方法	1-8
メニューバーコードのセキュリティ設定	1-8
カスタムデフォルトの設定	1-9
カスタムデフォルトの再設定	1-9
初期設定の再設定	1-10

第2章- インターフェースの設定

はじめに	2-1
インターフェースの設定—プラグ & プレイ	2-1
キーボードウェッジ	2-1
ラップトップとの直接接続	2-1
RS232シリアルポートの場合	2-2
RS485の場合	2-2
RS485パケットモードの場合	2-3
IBM SurePosUSBの場合	2-4
パソコンUSBもしくはマッキントッシュキーボードの場合	2-4
USB HIDの場合	2-5
USB シリアルの場合	2-5
Verifone® Ruby 端末の初期設定	2-6
Gilbarco® 端末の初期設定	2-7
Honeywell バイオプティックスキャナの補助ポート設定	2-7
Datalogic™ Magellan® バイオプティックスキャナの 補助ポート設定	2-7
NCR バイオプティックスキャナの補助ポート設定	2-8
Wincor Nixdorf 端末の初期設定	2-8

Wincor Nixdorf Beetle™ 端末の初期設定	2-9
国別キーボード	2-10
キーボードスタイル	2-17
キーボード転換	2-18
コントロールキャラクタの出力.....	2-19
キーボード調節	2-19
RS232ボーレート.....	2-22
RS23 2ワード長: データビット、ストップビット、 パリティ	2-23
RS232レシーバタイムアウト.....	2-24
RS232ハンドシェイク	2-24
RS232タイムアウト.....	2-25
XON/XOFF	2-25
ACK/NAK	2-25
スキャナのバイオプティックとの交信.....	2-26
スキャナーバイオプティックパケットモード.....	2-26
スキャナーバイオプティックACK/NAK モード.....	2-27
スキャナーバイオプティックACK/NAK タイムアウト..	2-27

第3章-コードレスシステム操作

コードレスチャージベース/ アクセスポイントの仕組み.....	3-1
スキャナのチャージベースへのリンク	3-1
スキャナとアクセスポイントのリンク	3-2
コードレスシステムと ホスト間の通信.....	3-2
RF(無線周波)モジュールの操作.....	3-3
システム条件.....	3-3
リンクプロセス	3-3
スキャナが通信可能範囲外にあるとき.....	3-4
スキャナが通信可能範囲内へ戻ったとき.....	3-4
バッチモードがオン状態での 通信可能範囲への出入り.....	3-4
ページ(呼出し)ボタン	3-4
バッテリーについて	3-4

充電について.....	3-5
バッテリーについての推奨事項.....	3-5
バッテリーの適切な処分.....	3-6
ブザー・LEDのシーケンスと意味.....	3-6
スキヤナLEDシーケンスと意味.....	3-7
ベース／アクセスポイント	
LEDシーケンスと意味.....	3-7
ベースパワー通信インジケータ.....	3-8
スキヤナのリセット.....	3-8
ベースクレードル内での読み取り.....	3-8
ページング(呼出し).....	3-9
ページング(呼出し)モード.....	3-9
ページング(呼出し)音のピッチ.....	3-9
エラー・インジケータ.....	3-9
ブザー音ピッチ —ベースのエラー.....	3-9
ブザー回数 —ベースのエラー.....	3-10
スキヤナレポート.....	3-10
スキヤナのアドレス.....	3-11
ベースないしアクセスポイントのアドレス.....	3-11
スキヤナモード.....	3-11
チャージオンリーモード.....	3-11
リンクモード.....	3-12
スキヤナのリンク解除.....	3-13
ロックされたスキヤナの上書き.....	3-13
通信可能範囲外アラーム.....	3-13
アラーム音の種類.....	3-14
フレキシブル出力管理.....	3-15
バッチモード.....	3-16
バッチモードブザー音.....	3-17
バッチモード保存.....	3-17
バッチモード個数.....	3-18
バッチモード出力順序.....	3-20
最後のコード削除.....	3-20
全コード削除.....	3-20
記録のホストへの送信.....	3-21
バッチモード送信ディレイ.....	3-21
複数台スキヤナでの操作.....	3-21

スキャナ名.....	3-22
アプリケーションワークグループ.....	3-24
アプリケーションワークグループの選定.....	3-25
初期設定へのリセット:	
(全アプリケーションワークグループ).....	3-25
カスタムデフォルトへのリセット:	
(全アプリケーションワークグループ).....	3-26
スキャナのBluetooth対応機器との使用.....	3-26
PC/ラップトップ.....	3-26
PDA/モビリティ・システム・デバイス.....	3-27
スキャナのBluetooth暗証コード変更.....	3-27
Bluetooth/ISM帯域ネットワーク干渉の最小化.....	3-27
自動再接続モード.....	3-28
リンク試行最高限度回数.....	3-29
再リンクタイムアウト.....	3-30
Bluetooth/ISMネットワークアクティビティの例.....	3-30
ホストコマンド認知.....	3-31

第4章- 入力・出力設定

起動ブザー.....	4-1
ブザーオン-BELキャラクタ.....	4-1
トリガークリック.....	4-2
グッドリードインジケータ.....	4-2
ブザー - グッドリード.....	4-2
ブザー音量 - グッドリード.....	4-3
ブザーピッチ - グッドリード.....	4-3
ブザーピッチ - エラー.....	4-4
ブザー長 - グッドリード.....	4-4
LED - グッドリード.....	4-4
ブザー回数 - グッドリード.....	4-5
ブザー回数 - エラー.....	4-5
グッドリードディレイ.....	4-6
ユーザ指定のグッドリードディレイ.....	4-6
マニュアル/シリアルトリガーマード.....	4-6
マニュアルトリガー.....	4-6
シリアルトリガー.....	4-7

プレゼンテーションモード	4-9
デコード後のプレゼンテーションLEDの動作	4-9
プレゼンテーション感度	4-10
スタンド内センサーモード	4-10
ストリーミングプレゼンテーション™モード	4-10
ストリーミングプレゼンテーションのスタンド内設定	4-11
携帯電話読み取りモード	4-11
画像撮影と送信	4-12
ハンズフリータイムアウト	4-12
リリードディレイ	4-12
ユーザ指定のリリードディレイ	4-13
照明ライト	4-13
エイマーディレイ	4-14
ユーザ指定のエイマーディレイ	4-14
スキャナのタイムアウト	4-14
エイマーモード	4-15
センタリング	4-15
優先シンボル	4-17
優先度高シンボル	4-17
優先度低シンボル	4-18
優先シンボルのタイムアウト	4-18
優先シンボルのデフォルト	4-18
アウトプットシーケンスの概要	4-19
アウトプットシーケンス条件	4-19
アウトプットシーケンスエディタ	4-19
アウトプットシーケンスの追加	4-19
他のプログラミング設定	4-20
アウトプットシーケンスエディタ	4-21
パーティカルシーケンス	4-21
アウトプットシーケンス条件	4-22
マルチプルシンボル	4-22
No Read	4-23
ビデオリバーズ	4-24

第5章- データ編集

プレフィックス／サフィックスについて	4-9
--------------------------	-----

プレフィックスまたはサフィックスの追加手順.....	5-1
1つまたはすべてのプレフィックス・サフィックスの削除.....	5-1
キャリッジリターンサフィックスを 全シンボルに追加する.....	5-3
プレフィックスの選択肢.....	5-3
サフィックスの選択肢.....	5-4
ファンクションコード送信.....	5-4
キャラクタ間、ファンクション間、および メッセージ間ディレイ.....	5-4
キャラクタ間ディレイ.....	5-5
ユーザ指定のキャラクタ間ディレイ.....	5-5
ファンクション間ディレイ.....	5-6
メッセージ間ディレイ.....	5-6

第6章- データフォーマット

データフォーマットエディタについて.....	6-1
データフォーマットの追加.....	6-1
他のプログラム設定.....	6-3
ターミナルID表.....	6-4
データフォーマットエディタコマンド.....	6-4
移動コマンド.....	6-5
検索コマンド.....	6-6
その他のコマンド.....	6-7
データフォーマッタ.....	6-8
データフォーマット非適合エラーブザー.....	6-9
基準/代用データフォーマット.....	6-10
シングルスキャンデータフォーマット変更.....	6-10

第7章- シンボル

全シンボル.....	7-2
読み取り桁数について.....	7-2
コーダバー.....	7-3
コーダバー連結機能.....	7-4
Code 39.....	7-6
Code 32 Pharmaceutical (PARAF).....	7-8
Full ASCII.....	7-9

Code 39 コードページ.....	7-9
インターリーブド2 of 5	7-10
NEC 2 of 5.....	7-12
Code 93.....	7-14
Code 93 Code Page.....	7-14
Straight 2 of 5 Industrial (three-bar start/stop)	7-15
Straight 2 of 5 IATA (two-bar start/stop).....	7-16
マトリックス 2 of 5	7-17
Code 11.....	7-18
Code 128.....	7-19
ISBT 128 Concatenation	7-19
Code 128 Code Page.....	7-20
GS1-128	7-21
Telepen	7-22
UPC-A	7-23
拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13	7-25
UPC-E0	7-26
UPC-E1	7-29
EAN/JAN-13	7-29
ISBN 変換	7-31
EAN/JAN-8	7-32
MSI	7-34
GS1 DataBar Omnidirectional	7-36
GS1 DataBar Limited	7-36
GS1 DataBar Expanded.....	7-37
Trioptic Code	7-38
Codablock A	7-38
Codablock F	7-40
PDF417	7-41
MicroPDF417	7-42
GS1 Composite Codes	7-43
UPC/EAN Version	7-43
GS1 エミュレーション.....	7-44
TCIF Linked Code 39 (TLC39)	7-45
QRコード	7-45
Data Matrix	7-47

マキシコード.....	7-48
アズテックコード.....	7-49
中国 (Han Xin = 漢信)コード	7-50
ポスタルコード - 2D.....	7-51
2Dポスタルコード(単独)	7-51
2Dポスタルコード(組み合わせ).....	7-52
ポスタルコード - 1次元バーコード	7-54
中国邮政 (Hong Kong 2 of 5)	7-54
韓国郵政	7-56

第8章- イメージングコマンド

シングル使用ベース	8-1
コマンドシンタクス	8-1
イメージスナップ - IMGSNP	8-2
IMGSNP モディファイ	8-2
画像送信 - IMGSHIP	8-5
IMGSHIP モディファイ	8-5
インテリジェント署名取り込み - IMGBOX.....	8-14
署名取り込みの最適化	8-14
IMGBOX モディファイ	8-15
RF 初期設定のイメージングデバイス.....	8-19

第9章- インターフェースキー

キーボードファンクションの対応.....	9-1
サポートされているインターフェースキー	7-3

第10章- ユーティリティ

全シンボルへのテストコードIDプレフィックス追加	10-1
デコーダの改訂情報表示	10-1
読み取りドライバの改訂情報表示	10-1
ソフトウェアの改訂情報表示.....	10-1
データフォーマットの表示.....	10-2
テストメニュー	10-2
TotalFreedom	10-2
アプリケーションのプラグイン (Apps)	10-3

EZConfigについて.....	10-3
ウェブからのEZConfigのインストール.....	10-4

第11章- シリアルプログラミングコマンド

記述上の語句	11-1
メニューコマンドシンタックス.....	11-1
質問コマンド.....	11-2
レスポンス	11-3
トリガーコマンド.....	11-4
標準の製品初期設定のリセット.....	11-4
メニューコマンド	11-5

第12章- 製品仕様

1900 スキャナ製品仕様	12-1
1902 スキャナ製品仕様	12-2
CCB01-010BT チャージベース	
製品仕様	12-3
標準ケーブルピンアウト	12-4
キーボードウェッジ.....	12-4
シリアルアウトプット	12-5
RS485アウトプット	12-6
USB	12-7

第13章- 保守

修理	13-1
保守	13-1
機器の清掃	13-1
ケーブルとコネクタの点検	13-1
コード付きスキャナケーブル交換	13-1
インターフェースケーブルの交換	13-1
コードレスシステムでのケーブルと	
バッテリーの交換.....	13-2
ベースのインターフェースケーブルの交換	13-2
スキャナのバッテリー交換	13-2
トラブルシューティング.....	13-2

コードレスシステムのトラブルシューティング	13-4
ベースのトラブルシューティング	13-4
コードレススキャナのトラブルシューティング	13-5

第14章 - カスタマーサポート

付録A - 付録チャート

シンボルチャート	A-1
ASCII 換算チャート (Code Page 1252)	A-4
印刷バーコードのコードページマッピング	A-6

はじめに

本マニュアルについて

本ユーザーズガイドでは、Xenon™ 1900ならびに 1902シリーズエアイメージングスキャナのインストールとプログラム設定の手順について説明しています。また、製品の仕様、外形寸法、保証内容、およびカスタマーサポートに関する情報も含まれています。

ハネウェル社のバーコードスキャナは工場出荷時にアメリカ市場における一般的な端末および通信装置用にプログラム設定されています。設定変更が必要な場合は、本書記載のバーコードを読み取ってプログラム設定してください。

アスタリスク(*)がついているオプションは工場出荷時の設定を示しています。

製品の開梱

梱包箱開封後、以下の手順に従ってください。

- 出荷時の損傷がないか、確認します。損傷があった場合は、すみやかに配送した運送会社へ連絡してください。
 - 箱の中身に間違いがないか確認します。
 - 返却もしくは保管用に、梱包箱はそのまま保管ください。
-

接続

USBで接続

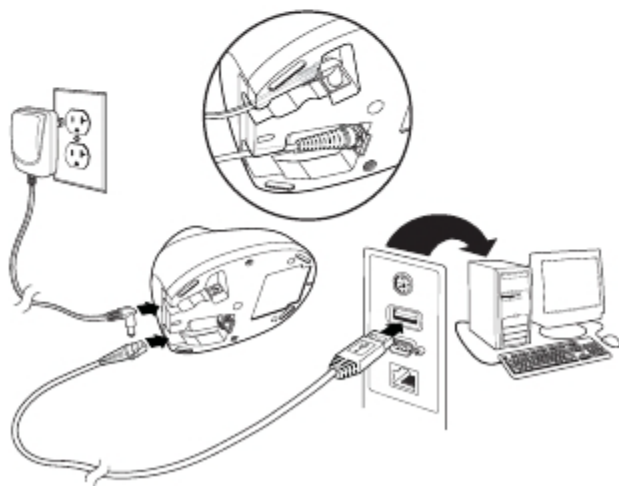
スキャナーもしくはベースはコンピュータのUSBポートと接続できます。

1. まず、適切なインターフェースケーブルと接続し、次にコンピュータと接続します。

コード付きスキャナのUSB接続



コードレスベースのUSB接続



2. ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスのベースが水平な台の上に乗らずぐ置かれているか確認します。
3. スキャナからピーツという音がします。
4. 本書記載の**サンプルシンボル**ページにあるバーコードを読み取り、スキャナもしくはコードレスのベースの動作を確認してください。

この機器はPCキーボードのUSB用に初期設定されています。その他のUSB端末との接続については本書の [2-4ページ](#)を参照ください。

その他のUSBのプログラム設定と技術情報については、www.honeywellaidc.comの「USB Application Note」をご参照ください。

キーボードウェッジでの接続

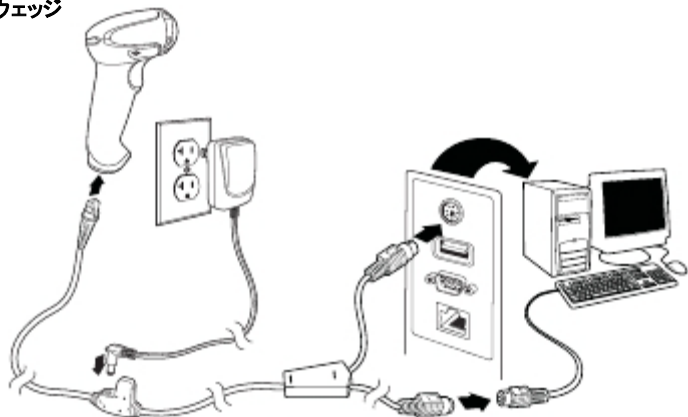
スキャナもしくはコードレスのベースはキーボードとコンピュータの間を、「キーボードウェッジ」として接続できます。他にもシリアルポートとの接続や、またはワンドエミュレーション・モードや非デコード出力モードでポータブルデータ端末に接続できます。以下はキーボードウェッジ接続の一例です。

1. 端末／コンピュータの電源をオフにし、裏側のキーボードケーブル接続をはずします。
2. 適切なインターフェースケーブルを当機器および端末／コンピュータに接続します。

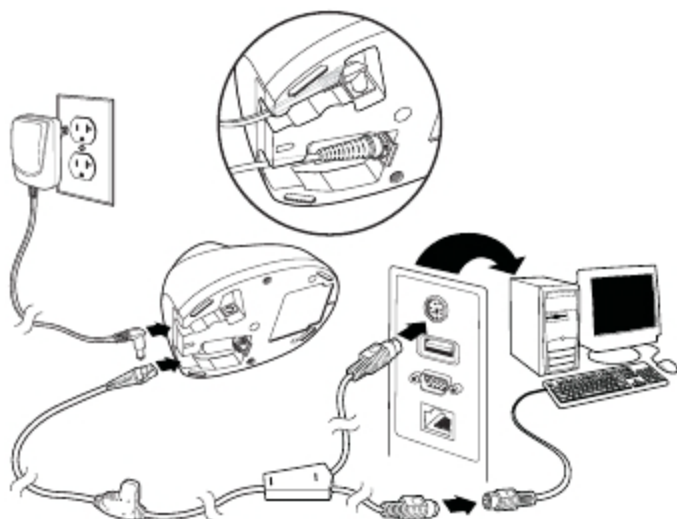
コード付きスキャナの

キーボードウェッジ

接続



コードレスベースのキーボードウェッジ接続



3、ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスのベースが水平な台の上に乗っすぐ置かれているか確認します。

4、端末／コンピュータの電源をオンにします。スキャナからピーツという音がします。

5、本書記載の**サンプルシンボル**ページにあるバーコードを読み取り、スキャナもしくはベースの動作を確認してください。

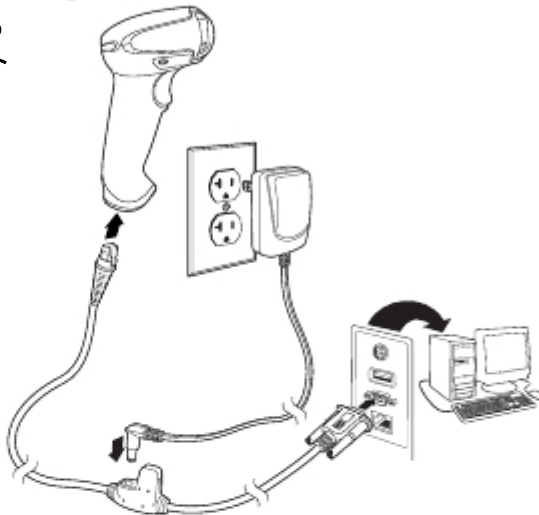
お使いのスキャナもしくはベースは、IBM PC ATでのキーボードウェッジ・インターフェース用に設定されています。バーコードデータにはキャリッジリターン(CR) サフィックスが追加されます。

RS232 シリアルポートでの接続

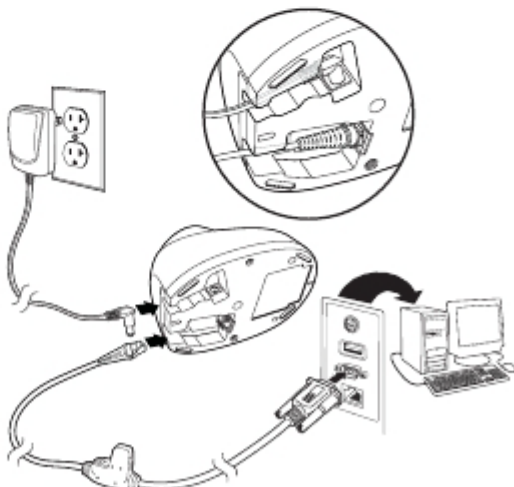
1. 端末／コンピュータの電源をオフにします。
2. 適切なインターフェースケーブルをスキャナに接続します。

注: スキャナもしくは通信ベースが正常に作動するように、お使いの端末／コンピュータに適したケーブルをご用意ください。

コード付きスキャナの RS232 シリアルポート 接続



コードレスベースの RS232 シリアルポート 接続



3、ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスのベースが水平な台の上になすく置かれているか確認します。

4、シリアルコネクタをコンピュータのシリアルポートに差し込みます。2本のネジを締めてコネクタをポートに固定します。

5、スキャナもしくは通信ベースの接続が完了したら、コンピュータの電源を入れます。

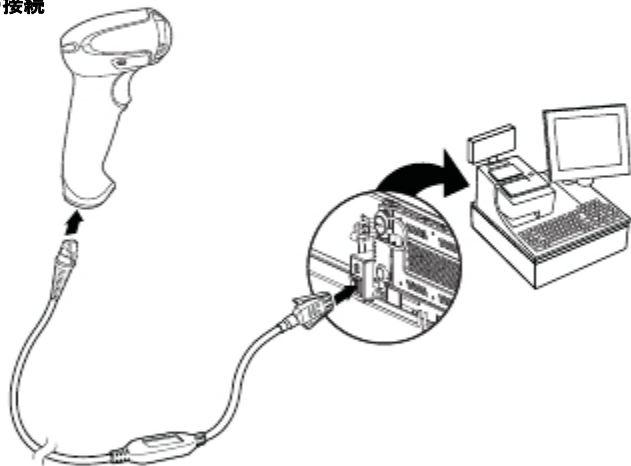
このインターフェースはボーレート 115,200、8 データバイト、パリティ無し、1ストップビットに設定されています。

RS485 での接続

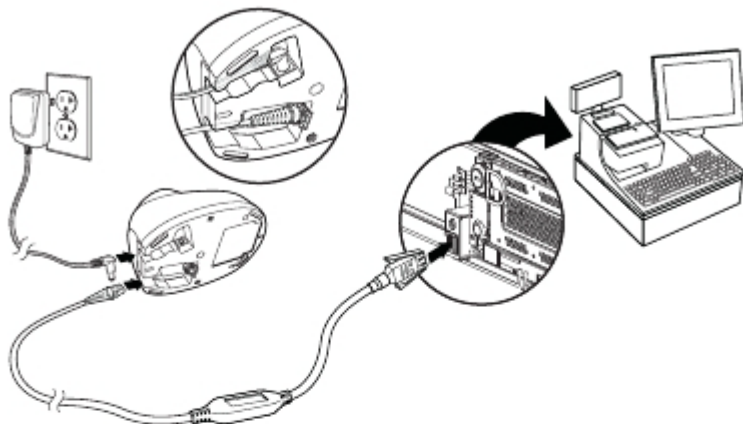
スキャナ／通信ベースはIBM POS 端末と接続できます。

1. まず、適切なインターフェースケーブルをスキャナ／コードレスベースに接続した後、コンピュータに接続します。

コード付きスキャナの RS485との接続



通信ベースの RS485との接続



2. ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスのベースが水平な台の上になっすぐ置かれているか確認します。
3. 端末／コンピュータの電源をオンにします。スキャナからピーツという音がします。
4. 本書記載の[サンプルシンボルページ](#)にあるバーコードを読み取り、スキャナもしくはコードレスベースの動作を確認してください。スキャナが一度鳴ります。

詳しいRS485の設定については、2-2ページの [RS485](#) の項を参照してください。

読み取り方法

スキャナにはスキャナの横方向の視界に相当する明るい赤のエイミングビームを投射するビューファインダーがあります。エイミングビームはバーコードの中央に合わせてください。ただし、読み取りやすくするためにどの方向にしてもかまいません。

Linear bar code
(1次元バーコード)



2D Matrix symbol
(2次元シンボル)



エイミングビームは、スキャナがバーコードに近づくとき小さくなり、遠ざかると大きくなります。バーまたはエレメントが小さなシンボル(ミルサイズ)はスキャナを近づけて読み取り、大きなシンボル(ミルサイズ)は離して読み取ってください。1個または複数のシンボル(1ページまたは1個の物体の)を読み取るときは、目標から適切な距離でスキャナを保持し、トリガを引き、エイミングビームをシンボルの中心に合わせます。読み取るバーコードの反射が大きい場合は(ラミネートされている場合など)、無用な反射を避けるため、バーコードを15度~18度傾けることが必要な場合があります。

メニューバーコードのセキュリティ設定

ハネウェル社のスキャナ製品はメニューバーコードを読み取るか、シリアルコマンドをスキャナに送るよう設計されています。メニューコード読み取りを規制したい場合は、メニューバーコードのセキュリティ設定をご利用可能です。詳しくは、お近くのテクニカルサポートオフィス(14-1ページの[テクニカルサポート](#)を参照)にご連絡ください。

カスタムデフォルトの設定

お客様自身のカスタムデフォルトのメニューコマンドをお作りになることができます。そのためには、以下の保存したいメニューコマンドもしくはシーケンスの前に **Set Custom defaults** バーコードを読み取ってください。コマンドが裏表紙から数字のコードを読み取る必要がある場合は、そのあとに **Save** のコードを読み取ればシーケンス全体がカスタムデフォルトとして保存されます。次のカスタムデフォルトのためのコマンドを保存する前に **Set Custom defaults** コードを再度読み取ります。

保存したいカスタムデフォルトをすべて入力したあと、**Save Custom defaults** バーコードを読み取ります。



MNUCDF.
Set Custom defaults
(カスタムデフォルト設定)



DEFAULT.
Save Custom defaults
(カスタムデフォルト保存)

注: コードレスシステムをご使用の場合、**Save Defaults** バーコードを読み取ると、スキャナとベースもしくはアクセスポイントにもリセットを実行し、非接続となってしまいます。リンクを再構築するには、セットアップコードが入力される前にスキャナがベースに置かれなければなりません。アクセスポイントをご使用の場合は接続バーコードを読み取る必要があります。詳細については、3-1 ページからの [コードレスシステム操作](#) を参照してください。

複数のカスタムデフォルトがあり、そのうち1つの設定を変えたい場合は、古い設定を上書きするだけです。例えば、ブザーボリュームをカスタムデフォルトでは低に設定しており、高に設定しようと思う場合、**Set Custom defaults** バーコードを読み取り、それから **Beeper Volume High** コードを読み取った後に **Save Custom defaults** を読み取るだけです。他のカスタムデフォルトは残り、ブザーボリューム設定は更新されます。

カスタムデフォルトの再設定

ご使用のスキャナでカスタムデフォルトを修復したい場合、以下の **Activate Custom Defaults** バーコードを読み取ってください。これはスキャナの設定をカスタムデフォルト設定に再設定するものです。

カスタムデフォルトがない場合は、工場出荷時の初期設定値になります。カスタムデフォルトによって指定されていない設定はすべて工場出荷時設定になります。



DEFAULT.

Activate Custom defaults(カスタムデフォルトをアクティブに)

注:コードレスシステムをご使用の場合、Save Defaults/バーコードを読み取ると、スキャナとベースもしくはアクセスポイントにもリセットを実行し、非接続となってしまいます。リンクを再構築するには、セットアップコードが入力される前にスキャナがベースに置かれなければなりません。アクセスポイントをご使用の場合は接続バーコードを読み取る必要があります。詳細については、3-1ページからのコードレスシステム操作を参照してください。

初期設定の再設定



これを選択するとスキャナの設定を消去し、元々の工場出荷時の初期設定値に再設定されます。またすべてのプラグインも消去されます。

お使いのスキャナのプログラミングオプション状態がわからない場合やオプションを変更し、スキャナの工場出荷時初期設定を修復したい場合は、まず、Remove Custom defaults/バーコードを読み取った後、Activate Defaults/バーコードを読み取ります。これでスキャナの工場出荷時設定に再設定されます。



DEFOVR.

Remove Custom defaults
(カスタムデフォルト消去)



DEFAULT.

Activate Defaults(初期設定をアクティブに)

注:コードレスシステムをご使用の場合、Save Defaults/バーコードを読み取ると、スキャナとベースもしくはアクセスポイントにもリセットを実行し、非接続となってしまいます。リンクを再構築するには、セットアップコードが入力される前にスキャナがベースに置かれなければなりません。アクセスポイントをご使用の場合は接続バーコードを読み取る必要があります。詳細については、3-1ページからのコードレスシステム操作を参照してください。

11-5ページからのメニューコマンド表には各コマンドの初期設定値がリストアップ

されています。(設定ページのアスタリスク(*)で表示)

インターフェースの設定

はじめに

この章では、最適なインターフェースのためのシステム設定についてご紹介します。

インターフェースの設定 - プラグ&プレイ

プラグ&プレイバーコードにより一般的に用いられるインターフェース向けの簡易スキャナセットアップを行うことができます。

注: コードの1つを読み取った後、ホスト端末インターフェースを有効にするため、再起動する必要があります。

キーボードウェッジ

ご使用のシステムをIBM PC AT やアメリカ向けのキーボードと互換性のあるキーボードウェッジインターフェースで設定される場合は、以下のバーコードを読み取ってください。キーボードウェッジは初期設定のインターフェースです。

注: 以下のバーコードはキャリッジ・リターン (CR) サフィックスも設定します。



PAP_AT.

IBM PC AT and Compatibles with CR suffix

(IBM PC ATと互換機、CR サフィックスつき)

ラップトップとの直接接続

ほとんどのラップトップの場合、Laptop Direct Connect/バーコードを用いれば、必須キーボードとの同時操作が可能になります。以下のLaptop Direct Connectバーコードもまたキャリッジ・リターン (CR) サフィックスの設定を行い、にエミュレート外付けキーボード (2-18ページ)をオンにします。



PAPLTD.

Laptop Direct Connect

with CR suffix

(ラップトップ直接接続、CR サフィックスつき)

RS232 シリアルポートの場合

RS232 Interfaceバーコード はパソコンもしくは端末のシリアルポートとの接続に用います。以下のRS232 Interfaceバーコード もキャリッジ・リターン (CR) やラインフィード (LF) サフィックス、ならびに以下で示されるようなボーレートやデータフォーマット設定を行います。またトリガーモードもマニュアルに変換します。

オプション	設定
ボーレート	115,200 bps
データフォーマット	8 データバイト、パリティビット無し、1 ストップビット



PAP232.

RS232 Interface (RS232インターフェース)

RS485の場合

以下の「プラグ & プレイ」コードのうち一つを読み取り、IBM POSの端末インターフェースへのスキャナ設定を行ってください。

注: コード読み取りの後、キャッシュレジスターを再起動してください。



PAPP5B.

IBM Port 5B Interface

(IBM Port 5Bインターフェース)



PAPP17.

IBM Port 17 Interface

(IBM Port 17 インターフェース)



PAP9B1.

IBM Port 9B

HHBCR-1 Interface

(IBM Port 9B HHBCR-1 インターフェース)



PAP9B2.

IBM Port 9B

HHBCR-2 Interface

(IBM Port 9B HHBCR-2 インターフェース)

上記の各バーコードは以下のそれぞれのシンボルへのサフィックスを設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN 8	0C	Code 39	00 0A 0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC A	0D	Code 128 *	00 0A 0B
UPC E	0A	Code 128 **	00 18 0B

* 印のサフィックスはIBM 4683 Port 5B、IBM 4683 Port 9B、HHBCR-1、ならびに IBM 4683 Port 17 インターフェース用のCode 128に設定されています。

**印のサフィックスはIBM 4683 Port 9 HHBCR-2 インターフェースCode 128用に設定されています。

RS485 パケットモードの場合

以下を選択すると、IBM POS 端末上で大きいバーコードデータを小さいパケットへと分割することができます。大きいバーコードデータを小さいパケットへと分割するには、以下のPacket Mode Onバーコードを読み取ってください。大きいバーコードデータを1つのかたまりとしてホストへ送りたい場合は、Packet Mode Offバーコードを読み取ってください。

初期設定= Packet Mode Off



RTLPDF0.

* Packet Mode Off

(パケットモードオフ)



RTLPDF1.

Packet Mode On

(パケットモードオン)

RS485 のパケット長

パケットモード使用の際は、ホストに送られる「パケット」データのサイズを指定することができます。Packet Length バーコードを読み取り、次に本書の裏表紙にある [プログラミングチャート](#) からパケットサイズ (20~256の間) を選び、Saveを読み取ります。初期設定= 40



RTLMP5.

Packet Length(パケット長)

IBM SurePos USBの場合

以下の「プラグ & プレイ」コードのうち一つを読み取り、IBM SurePos (USBハンドヘルドスキャナ)もしくはIBM SurePos (USB tabletopスキャナ) インターフェースとのスキャナ設定を行ってください。

注:コード読み取りの後、キャッシュレジスターを再起動して、インターフェースを有効にしてください。



PAPSPH.

USB IBM SurePos
(USB Handheld Scanner)
Interface

USB IBM SurePos(USBハンドヘルドスキャナ)
インターフェース



PAPSPT.
USB IBM SurePos

(USB Tabletop Scanner) Interface
USB IBM SurePos (USBテーブルトップスキャナ)
インターフェース

上記の各バーコードはそれぞれのシンボルに対するサフィックスも設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN 8	0C	Code 39	00 0A 0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC A	0D	Code 128	00 18 0B
UPC E	0A	Code 39	00 0A 0B

パソコン USB もしくはマッキントッシュのキーボードの場合

以下のコードのうち一つを読み取り、パソコンキーボードのUSBもしくはマッキントッシュキーボードUSBとのスキャナ設定を行ってください。これらのコードを読み取ると、CRならびにLFも追加されます。



PAP124.

USB Keyboard (PC)(USBキーボード(PC))



PAP125.

USB Keyboard (Mac) (USBキーボード(Mac))



TRMUSB134.

USB Japanese Keyboard (PC)
(USB日本式キーボード(PC))

USB HIDの場合

以下のコードのうち一つを読み取り、USB HID バーコードスキャナとのスキャナ設定を行ってください。



PAP131.

USB HID Bar Code Scanner
(USB HIDバーコードスキャナ)

USB シリアルの場合

以下のコードを読み取り、標準のRS232ベースのCOM Portにエミュレートするようスキャナを設定してください。お客様がMicrosoft® Windows® のパソコンをお使いの場合はハネウェルウェブサイトからドライバをダウンロードしていただく必要がございます。

(www.honeywellaidc.com)。このドライバには以下のCOM Port番号を用います。Apple® Macintosh コンピュータはスキャナを USB CDC クラスデバイスと見なし、クラスドライバを自動的に用います。



TRMUSB130.

USB Serial(USB シリアル)

注: その他の機器構成(ポーレートなど) は必要ありません。

CTS/RTS エミュレーション



USBCTS1.

CTS/RTS Emulation On
(CTS/RTSエミュレーションオン)



USBCTS0.

•CTS/RTS Emulation Off
•CTS/RTSエミュレーションオフ

ACK/NAK モード



USBACK1.

ACK/NAK Mode On
(ACK/NAKモードオン)



USBACK0.

* ACK/NAK Mode Off
(ACK/NAKモードオフ)

Verifone® Ruby 端末の初期設定

Verifone Ruby端末の場合は、以下のプラグ & プレイコードを読み取ってスキヤナを設定してください。このバーコードはボーレートを1200 bps、データフォーマットを8 データビット、パリティビット無し、1ストップビットにします。また、ラインフィード (LF) サフィックスならびに各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定を行います。

シンボル	プレフィックス
UPC-A	A
UPC-E	A
EAN-8	FF
EAN-13	F



PAPRBY.

Verifone Ruby Settings
(Verifone Ruby の設定)

Gilbarco® 端末の初期設定

Gilbarco 端末の場合は、以下のプラグ & ブレイコードを読み取ってスキヤナを設定してください。このバーコードはボーレートを2400 bps に、データフォーマットを7 データビット、偶数パリティビット、2ストップビットにします。また、キャリッジリターン (CR) サフィックスならびに各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定を行います。

シンボル	プレフィックス
UPC-A	A
UPC-E	E0
EAN-8	FF
EAN-13	F



PAPGLB.

Gilbarco Settings (Gilbarco 用設定)

Honeywell バイオプティックスキャナの補助ポート設定

Honeywell バイオプティックスキャナの補助ポート構成の場合は、以下のプラグ & ブレイコードを読み取ってスキヤナを設定してください。このバーコードはボーレートを38400 bps、データフォーマットを8 データビット、パリティビット無し、1ストップビットにします。



PAPBIO.

Honeywell Bioptic Settings (ハネウェルバイオプティック用設定)

Datalogic™ Magellan® バイオプティックスキャナの補助ポート設定

Datalogic Magellan バイオプティックスキャナの補助ポート構成の場合は、以下のプラグ & ブレイコードを読み取ってスキヤナを設定してください。このバーコードはボーレートを9600 bps、データフォーマットを8 データビット、パリティビット無し、1ストップビットにします。



PAPMAG.

Datalogic Magellan Bioptic Settings (Datalogic Magellanバイオプティック用設定)

NCR バイオプティックスキャナの補助ポート設定

NCR バイオプティックスキャナの補助ポート構成の場合は、以下のプラグ & プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定もを行います。

シンボル	プレフィックス	シンボル	プレフィックス
UPC-A	A	Code 39	B1
UPC-E	E0	Interleaved 2 of 5	B2
EAN-8	FF	All other bar codes	B3
EAN-13	F		



PAPNCR.

NCR Bioptic Settings (NCR バイオプティック用設定)

Wincor Nixdorf 端末の初期設定

Wincor Nixdorf 端末の場合は、以下のプラグ & プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを9600 bps、データフォーマットを8 データビット、パリティビット無し、1ストップビットに設定します。



PAPWVNX.

Wincor Nixdorf Terminal Settings (Wincor Nixdorf 端末用設定)

Wincor Nixdorf Beetle™ 端末の初期設定

Wincor Nixdorf Beetle端末の場合は、以下のプラグ&ブレイコードを読み取ってスキヤナを設定してください。各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定も行います。

シンボル	プレフィックス	シンボル	プレフィックス
Code 128	K	EAN-13	A
Code 93	L	GS1-128	P
Codabar	N	Interleaved 2 of 5	I
UPC-A	A0	Plessey	O
UPC-E	C	Straight 2 of 5 IATA	H
EAN-8	B	All other bar codes	M



Wincor Nixdorf Beetle Settings (Wincor Nixdorf Beetle 用設定)

国別キーボード

以下から該当する国コードを読み取り、自国もしくは自言語用のキーボードを設定します。原則として、以下の記号をサポートしますが、米国以外の国では特別な留意が必要です。
@ | \$ # { } [] = / ' \ < > ~



KBDCTY0.
* United States



KBDCTY87.
United States (Dvorak)



KBDCTY88.
United States (Dvorak left)



KBDCTY89.
United States (Dvorak right)



KBDCTY30.
United States (International)



KBDCTY35.
Albania



KBDCTY81.
Azeri (Cyrillic)



KBDCTY80.
Azeri (Latin)



KBDCTY82.
Belarus



KBDCTY1.
Belgium



KBDCTY33.
Bosnia



KBDCTY16.
Brazil

国別キーボード(続き)



KBDCTY52.
Bulgaria (Cyrillic)



KBDCTY54.
Canada (French legacy)



KBDCTY55.
Canada (Multilingual)



KBDCTY15.
Czech



KBDCTY39.
Czech (QWERTY)



KBDCTY8.
Denmark



KBDCTY59.
Brazil (MS)



KBDCTY53.
Bulgaria (Latin)



KBDCTY18.
Canada (French)



KBDCTY32.
Croatia



KBDCTY40.
Czech (Programmers)



KBDCTY38.
Czech (QWERTZ)



KBDCTY11.
Dutch (Netherlands)

国別キーボード(続き)



KBDCTY83.
Faeroese



KBDCTY3.
France



KBDCTY4.
Germany



KBDCTY64.
Greek (220 Latin)



KBDCTY65.
Greek (319 Latin)



KBDCTY63.
Greek (Latin)



KBDCTY41.
Estonia



KBDCTY2.
Finland



KBDCTY84.
Gaelic



KBDCTY17.
Greek



KBDCTY61.
Greek (220)



KBDCTY62.
Greek (319)



KBDCTY66.
Greek (MS)

国別キーボード(続き)



KBDCTY12.
Hebrew



KBDCTY19.
Hungary



KBDCTY73.
Irish



KBDCTY5.
Italy



KBDCTY78.
Kazakh



KBDCTY14.
Latin America



KBDCTY60.
Greek (Polytonic)



KBDCTY50.
Hungarian (101 key)



KBDCTY75.
Iceland



KBDCTY56.
Italian (142)



KBDCTY28.
Japan ASCII



KBDCTY79.
Kyrgyz (Cyrillic)



KBDCTY42.
Latvia

国別キーボード(続き)



KBDCTY44.
Lithuania



KBDCTY34.
Macedonia



KBDCTY86.
Mongolian (Cyrillic)



KBDCTY20.
Poland



KBDCTY58.
Polish (Programmers)



KBDCTY25.
Romania



KBDCTY43.
Latvia (QWERTY)



KBDCTY45.
Lithuania (IBM)



KBDCTY74.
Malta



KBDCTY9.
Norway



KBDCTY57.
Polish (214)



KBDCTY13.
Portugal



KBDCTY26.
Russia

国別キーボード(続き)



KBDCTY68.
Russian (Typewriter)



KBDCTY37.
Serbia (Cyrillic)



KBDCTY22.
Slovakia



KBDCTY48.
Slovakia (QWERTZ)



KBDCTY10.
Spain



KBDCTY23.
Sweden



KBDCTY67.
Russian (MS)



KBDCTY21.
SCS



KBDCTY36.
Serbia (Latin)



KBDCTY49.
Slovakia (QWERTY)



KBDCTY31.
Slovenia



KBDCTY51.
Spanish variation



KBDCTY29.
Switzerland (French)

国別キーボード(続き)



KBDCTY85.
Tatar



KBDCTY24.
Turkey Q



KBDCTY7.
United Kingdom



KBDCTY88.
United States (Dvorak left)



KBDCTY30.
United States (International)



KBDCTY6.
Switzerland (German)



KBDCTY27.
Turkey F



KBDCTY76.
Ukrainian



KBDCTY89.
United States (Dvorak right)



KBDCTY87.
United States (Dvorak)



KBDCTY77.
Uzbek (Cyrillic)

国別キーボードの全サポート情報および適用されるインターフェースについては、ハネウェルウェブサイト(www.honeywell.com/aidc)をご参照ください。上記以外のキーボードを設定する必要がある場合は、下の Program Keyboard Country バーコードを読み取った後、裏表紙にある該当国の数値バーコードを読み取り、次に Save バーコードを読み取ります。



KBDCTY.

Program Keyboard Country (国別キーボード設定)

キーボードスタイル

Caps LockやShift Lockなどのキーボードスタイルを設定します。
Keyboard Conversion設定を行った場合は、以下のキーボードスタイル設定すべてを上書きします。初期設定 = Regular

通常、Caps Lock キーがオフの場合は、**Regular**を使用します。



KBDSTY0.

* Regular (レギュラー)

通常、Caps Lock キーがオンの場合は**Caps Lock**を使用します。



KBDSTY1.

Caps Lock

通常、Shift Lock キーがオンの場合は、**Shift Lock**を使用します。(U.S. キーボードでは通常不使用。)



KBDSTY2.

Shift Lock

Caps Lockキーのオン/オフを切り換える場合は、**Automatic Caps Lock**を使用します。
Caps Lockキーをオン/オフすると、ソフトが追跡反応確認して自動的に対応します。
この設定を使用できるのは、Caps Lockの状態を確認するLEDがあるシステム(AT キーボード)の場合のみです。



KBDSTY6.

Automatic Caps Lock (自動Caps Lock)

Caps Lockの切り換えにCaps Lock キーを使用できない国(ドイツ、フランスなど)では Autocaps via NumLock のバーコードを読み取ります。NumLockオプションは、通常の Autocapsと同じ動きをしますが、Caps Lockの現在の状態を確認するには、NumLockを使用します。



KBDSTY7.

Autocaps via NumLock

外付けキーボード(IBM ATまたは相当品)を使用していない場合は、Emulate External Keyboardを読み取ります。



KBDSTY5.

Emulate External Keyboard
(外付けキーボードエミュレーション)

注: Emulate External Keyboard のバーコードを読み取った後は、コンピュータを必ず再起動してください。

キーボード転換

アルファベットのキーボード文字をすべて大文字またはすべて小文字に強制することができます。例えば、「abc569GK」というバーコードの場合、Convert All Characters to Upper Caseバーコードを読み取ると、「ABC569GK」と出力させることができます。また、Convert All Characters to Lower Caseバーコードを読み取ると、「abc569gk」と出力します。

この設定は**キーボードスタイル**での設定を上書きします。

注: お使いのインターフェースがキーボードウェッジの場合は、自動Caps Lock (2-17ページ)のメニューコードをまず読み取ってください。そうでない場合はご希望と違う出力になることがあります。

初期設定 = Keyboard Conversion Off



KBDCNV0.

* Keyboard Conversion Off
(キーボード転換オフ)



KBDCNV1.

Convert All Characters
to Upper Case
(すべて大文字に)



KBDCNV2.

Convert All Characters
to Lower Case
(すべて小文字に)

コントロールキャラクタの出力

この機能を選択すると、コントロールキャラクタの代わりにテキスト文字列を送信します。例えば、キャリッジリターンのためのコントロールキャラクタが必要なとき、ASCII コードの0Dの代わりに、「CR」と出力表示されます。A-4. ページのASCII 変換チャート(コードページ1252)を参照してください。00から1Fまでが変換されます(チャートの最初の列)。

注: Control + ASCII モードはこのモードを上書きします。

初期設定 =Off



KBDNPE1.

Control Character Output On
(コントロールキャラクタ出力オン)



KBDNPE0.

*Control Character Output Off
(コントロールキャラクタ出力オフ)

キーボード調節

ここでは、CTRL+ ASCIIコードやターボモードといった特別なキーボードの機能調節を行います。

Control + ASCII Mode On: 00~1Fの値について、ASCII制御キャラクタ用にキーを組み合わせて送信します。Windowsは推薦モードで、すべてのキーボードの国別コードがサポートされています。DOSモードはレガシーモードであり、すべてのキーボードの国別コードをサポートしているわけではありません。新規ユーザはWindows モードをお使いください。CTRL+ ASCIIの値については、9-1ページの[キーボード機能の対応](#)を参照してください。

Windows Mode Prefix/Suffix Off: 00~1Fの値について ASCII制御キャラクタ用にキーを組み合わせて送信しますが、プレフィックスならびにサフィックスの情報転送は一切行いません。

初期設定 = Control + ASCII Mode Off



KBDCAS2.

Windows Mode Control + ASCII
Mode On

(WindowsモードのControl + ASCIIモードオン)



KBDCAS0.

* Control + ASCII Mode Off
(Control + ASCII モードオフ)



KBDCAS1.

DOS Mode Control + ASCII Mode
On

(DOSモードのControl + ASCII モードオン)



KBDCAS3.

Windows Mode Prefix/Suffix Off
(Windowsモードプレフィックス・サフィックスオフ)

Turbo Mode: ターミナルへのキャラクタ送信を高速化します。ターミナルでキャラクタの読み落としがある場合は使用しないでください。初期設定 = Off



KBDTMD1.

Turbo Mode On
(ターボモードオン)



KBDTMD0.

* Turbo Mode Off
(ターボモードオフ)

Numeric Keypad Mode: テンキーで入力したように数字を送信します。

初期設定 = Off



KBDNPS1.

Numeric Keypad Mode On
(数字キーパッドモードオン)



KBDNPS0.

* Numeric Keypad Mode Off
(数字キーパッドモードオフ)

Automatic Direct Connect Mode: IBM AT 型のターミナルを使用し、システムでキャラクタの読み落としがある場合に使用できます。 初期設定 = Off



KBDADC1.

Automatic Direct Connect Mode

On

(自動ダイレクト修正モードオン)



KBDADC0.

*** Automatic Direct Connect
Mode Off**

(自動ダイレクト修正モードオフ)

RS232 ボーレート

スキヤナからターミナルに指定の速度でデータを送信します。ホストターミナルはスキヤナと必ず同じボーレートに設定してください。初期値 =9600



232BAD0.

300



232BAD2.

1200



232BAD4.

4800



232BAD6.

19200



232BAD8.

57,600



232BAD1.

600



232BAD3.

2400



232BAD5.

* 9600



232BAD7.

38400



232BAD9.

115,200

RS232 ワード長: データビット、ストップビット、パリティ

データビットはワード長をキャラクタあたり7または8データビットに設定します。アプリケーションで必要なのがASCII Hex キャラクタの0~7F(文字、数値、句読点)だけの場合は、7データビットを選択してください。フルセットのASCIIキャラクタを使用するアプリケーションの場合は、キャラクタあたり8データビットを選択します。
初期設定 = 8

ストップビットは1または2に設定します。 初期設定 = 1

パリティはキャラクタビットパターンが適正かどうかをチェックします。

初期設定 = None



232WRD3.

7 Data, 1 Stop, Parity Even
(7データビット、1ストップビット、偶数パリティ)



232WRD6.

7 Data, 1 Stop, Parity Odd
(7データビット、1ストップビット、奇数パリティ)



232WRD1.

7 Data, 2 Stop Parity None
(7データビット、2ストップビット、パリティ無し)



232WRD5.

8 Data, 1 Stop, Parity Even
(8データビット、1ストップビット、偶数パリティ)



232WRD8.

8 Data, 1 Stop, Parity Odd
(8データビット、1ストップビット、奇数パリティ)



232WRD0.

7 Data, 1 Stop, Parity None
(7データビット、1ストップビット、パリティ無し)



232WRD4.

7 Data, 2 Stop, Parity Even
(7データビット、2ストップビット、偶数パリティ)



232WRD7.

7 Data, 2 Stop, Parity Odd
(7データビット、2ストップビット、奇数パリティ)



232WRD2.

* 8 Data, 1 Stop, Parity None
(8データビット、1ストップビット、パリティ無し)

RS232 レシーバタイムアウト

レシーバはRS232レシーバタイムアウトが切れるまではデータを受信するために待機しています。マニュアルまたはシリアルトリガーでタイムアウトをリセットします。RS-232レシーバがスリープ中は、あるキャラクタを送信してレシーバをウェークアップし、タイムアウトをリセットすることができます。CTSライン上のトランザクションでも、レシーバをウェークアップします。レシーバが完全に機動するのには300ミリ秒かかります。次のバーコードを読み取ってRS-232レシーバタイムアウトを変更し、本書の裏表紙内側から数字を読み取り、次にSaveを読み取ります。設定範囲は0~300秒です。初期値=0秒(タイムアウトなし=常時オン)



232LPT.

RS232 Receiver Time-Out (RS232 レシーバタイムアウト)

RS232 ハンドシェイク

RS232 ハンドシェイクとは、ホストデバイスからのソフトウェアコマンドを使用して、スキャナからのデータ送信を制御できるようにするものです。RTS/CTSをOffにすると、データのフロー制御は使用されません。

Flow Control, No Timeout: 送信するデータがある場合、スキャナはRTSをアサートし、無期限にホストからアサートされたCTSを待ちます。

Two-Direction Flow Control: スキャナはホストへの送信が可能な場合、RTSをアサートし、ホストはデバイスへの送信が可能な場合CTSをアサートします。

Flow Control with Timeout: スキャナは送信するデータがある場合、RTSをアサートし、ホストにアサートされたCTSをディレイ分(2-25ページのRS232 Timeoutを参照)待ちます。もしディレイタイムが過ぎてもCTSがアサートされていない場合、デバイスが送るバッファは取り消され、読み取りを再開します。初期設定 = RTS/CTS Off



232CTS1.

Flow Control, No Timeout

(フロー制御、タイムアウト無し)



232CTS2.

Two-Direction Flow Control
(二方向フロー制御)



232CTS3.

Flow Control with Timeout

(フロー制御、タイムアウト有)



232CTS0.

* RTS/CTS Off(RTS/CTSオフ)

RS232 タイムアウト

タイムアウト付きのフロー制御を用いる場合は、ホストからのCTS 待機時間の長さを設定しなければなりません。以下のバーコードを読み取り、タイムアウトの長さ(ミリ秒単位)を設定し、裏表紙にある数字を読み取ってタイムアウト(1~5100ミリ秒)を設定し、Saveを読み取ります。



232DEL.

RS232 Timeout (RS232 タイムアウト)

XON/XOFF

スキャナへデータ送信(XON/XOFF On)や送信中止(XON/XOFF Off)を行わせる際には標準 ASCII コントロールキャラクタが用いられます。ホストデバイスがXOFFキャラクタ(DC3, hex 13)をスキャナに送信することで送信を一時中断します。送信を再開するには、ホストからXONキャラクタ(DC1, hex 11)を送信します。データ送信はXOFF 送信によって停止されたところから続行されます。初期設定=XON/XOFF Off



232XON1.

XON/XOFF On (XON/XOFF オン)



232XON0.

* XON/XOFF Off (XON/XOFF オフ)

ACK/NAK

データ送信の後、スキャナはホストからのACKキャラクタ(hex 06)もしくはNAKキャラクタ(hex 15)レスポンスを待ちます。ACKを受け取ると、通信は完成し、スキャナはさらなるバーコードを探します。NAKを受け取ると、最後のバーコードセットが送信され、スキャナはACKやNAKを再度待ち受けます。

ACK/NAK プロトコルをオンにする場合は、以下のACK/NAK On バーコードを読み取ってください。ACK/NAK プロトコルをオフにする場合はACK/NAK Offを読み取ります。初期設定 = ACK/NAK Off



232ACK1.

ACK/NAK On (ACK/NAK オン)



232ACK0.

* ACK/NAK Off (ACK/NAK オフ)

スキャナのバイオプティックとの交信

以下の設定はハネウェル社製スキャナとバイオプティックスキャナとの交信のセットアップに用います。

注: バイオプティック(2面式光学)スキャナとの交信には、ボーレートを38400に、RS232 タイムアウトを3000に設定しなければなりません。詳しくは、2-22ページのRS232 ボーレートならびに2-25ページのRS232 タイムアウトをご参照ください。

スキャナー バイオプティック パケットモード

Packet Mode Onはバイオプティックスキャナとの互換性のために、スキャナのフォーマットを設定するときに読み取ります。
初期設定 = Packet Mode Off



232PKT0.

* Packet Mode Off
(パケットモードオフ)



232PKT2.

Packet Mode On
(パケットモードオン)

スキャナーバイオプティックACK/NAKモード

各パケットが送信された後、スキャナーがバイオプティックスキャナーからのACKもしくはNAKを待つ場合にはBioptic ACK/Nak Onを読み取ります。(下記の)スキャナーバイオプティックACK/NAK タイムアウトはスキャナーがレスポンスに對しどの程度待つかを制御するものです。初期設定 = Bioptic ACK/NAK Off



232NAK0.

* Bioptic ACK/NAK Off (バイオプティックACK/NAK オフ)



232NAK1.

Bioptic ACK/NAK On (バイオプティックACK/NAK オン)

スキャナーバイオプティックACK/NAKタイムアウト

バイオプティックスキャナーからのACK/NAK レスポンスに對するタイムアウト時間(ミリ秒単位)を設定するものです。以下のバーコードを読み取り、裏表紙内側から数字を読み取り、タイムアウト時間(1 ~ 30,000 ミリ秒)を設定した後、Saveを読み取ります。
初期設定 = 5100



232DLK.

ACK/NAK Timeout (ACK/NAKタイムアウト)



コードレスシステムの操作

注: 本章はコードレス・スキャニング・システムのみを対象としています。
コード付きスキャナには該当しません。

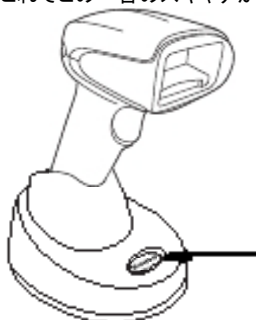
コードレスチャージベース／アクセスポイントの仕組

コードレスチャージベースもしくはアクセスポイントはコードレス・スキャナとホストシステム間のリンクを行います。ベースないしはアクセスポイントはインタフェース・アセンブリと無線周波(RF)モジュールから成ります。RFモジュールは、コードレススキャナとインタフェースアセンブリ間のデータ交換を行います。制御アセンブリは中枢インタフェースの動作を調整します。それには、ホストシステムとの間で行われるコマンドやデータの送受信、ソフトウェアの実行(パラメータのメニュー化、ビジュアルインジケータ・サポート、電源オンダイアグノスティックス)、ホストシステムのために必要なデータ変換を含みます。コードレス・チャージ・ベースはスキャナの充電器でもあります。詳しくは3-5ページの[充電について](#)をご覧ください。

スキャナのチャージベースへのリンク

ベースを接続する前に、電源をオフにし、ベースが完全に接続された時点でコンピュータを立ち上げてください。ベースが接続され、立ち上げられてからスキャナをベースに差しこみ、リンクします。ベースの緑色のLEDが点滅し、スキャナのバッテリーが充電中であることを示します。スキャナとベースが以前にリンクされていた場合は、フィードバックはありません。スキャナとベースが今回初めてリンクされた場合、双方の無線がリンクした時点でスキャナとベースの両方から音が鳴ります。これでこの一台のスキャナが一台のベースにリンクされたこととなります。

CCB01-010BT
チャージベース



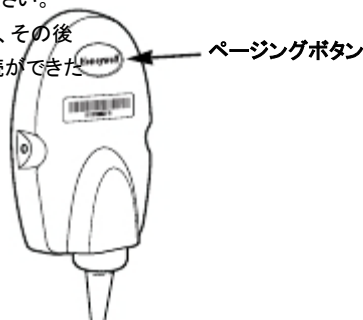
ページングボタンとベースLED

コードレスシステムが正しく設定されているか判断するには、本書の終わりにあるサンプルバーコードの1つを読み取ってみてください。スキャナから読み取り有効を示すピーツという音が一回発せられ、緑のLEDが点灯した場合、スキャナとベースの連結が成功しています。エラーブザーが鳴り、赤いLEDが点灯した場合、スキャナはベースに連結されていません。問題解決に関する情報は[13-5 ページ](#)のトラブルシューティングの項目を参照してください。

スキャナとアクセスポイントのリンク

コンピュータ(ラップトップないしデスクトップ)をオンにしてください。

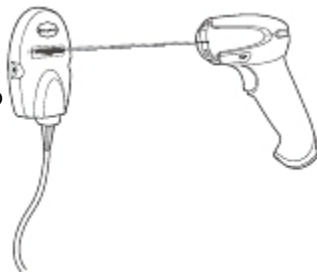
インターフェースケーブルをまずアクセスポイントに差し込み、その後コンピュータの適切なポートに差し込みます。ホストへの接続ができた時点で、ページングボタンが点灯します。



アクセスポイントの上部にあるリンクングバーコードを読み取り、

アクセスポイントとスキャナのリンクを確立してください。

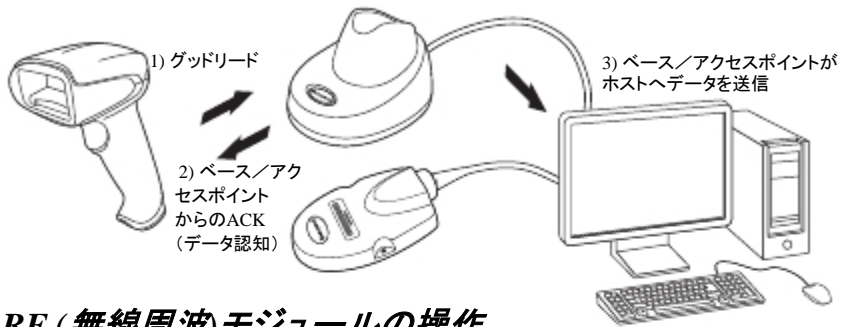
スキャナから短いピツという音が鳴り、緑のLEDが点滅してアクセスポイントとの接続を確認します。アクセスポイントのページボタンは青いままです。



コードレスシステムとホスト間の通信

バーコードが正しく読み取られ、ベースもしくはアクセスポイントがデータ受信を認知すると、コードレススキャナは「グッドリード」の表示(スキャナ上の緑のLEDとピツという音)をただちにフィードバックします。コードレスシステムはスキャナとベースないしアクセスポイントの間で双方向通信するため、このようなことが可能になります。

データが読み取られると、データはベースないしアクセスポイントを介してホストシステムへ送られます。コードレススキャナはベース/アクセスポイントからのデータ認知(ACK)を認識します。データがベース/アクセスポイントへ正しく送信されたか判定できない場合は、スキャナはエラーを表示します。その際には、スキャンされたデータがホストシステムによって受信されたかをチェックしなければなりません。



RF (無線周波)モジュールの操作

コードレスシステムは双方向Bluetooth® 無線を使って、スキャナとベースないしアクセスポイントとの間でデータを送受信します。1対1および複数対1ポイントのアプリケーション用に設計されており、当無線はライセンス不要なISM帯域を使用し、比較的小さいデータパケットを周波数が無作為に変化する無線信号にのせて高速なデータレートで送信します。そして当コードレスシステムを多様なデータ収集アプリケーションに対応可能でノイズの多い無線周波環境に対して抵抗力のあるものになっています。Bluetooth®クラス2の出力レベルでは、環境によりませんが、スキャナとベース/アクセスポイントとの間の距離が10m(33フィート)まで通信可能です。この範囲のコントロールについては3-15ページの[フレキシブル出力管理](#)の項目をご覧ください。

システム条件

あるスキャナをあるベースないしアクセスポイントに連動させたり、スキャナを通信可能範囲外へ持ち出したり、中へ再び持ち込んだり、2つのコードレスシステムの間でスキャナを交換したりする際、コードレスシステムの構成部分は、特定の相互作用を起こします。下記はコードレスシステムの作動条件について説明したものです。

リンクプロセス

スキャナがコードレス・チャージ・ベースに差し込まれると、スキャナのバッテリー残量がチェックされ、ソフトウェアは自動的にスキャナを検知し、選択されたリンクモードに合わせてスキャナをベースにリンクします。[アクセスポイントへのリンク](#)については、3-2ページのスキャナとアクセスポイントのリンクをご覧ください。

スキャナが通信可能範囲外にあるとき

コードレススキャナはバーコードデータを送信していないときも、ベースないしはアクセスポイントと通信しています。スキャナが数秒にわたってベースないしはアクセスポイントと通信できないときは、通信可能範囲外にあります。スキャナが通信可能範囲外にあるときにバーコードを読み取ると、スキャナはエラーブザーを発してベースないしアクセスポイントと通信されなかったことを示します。コードレス・チャージ・ベースもアラーム音を発する可能性があります。3-13ページの[通信可能範囲外アラームの項目](#)をご参照ください。

スキャナが通信可能範囲内へ戻ったとき

スキャナまたはベースないしアクセスポイントがリセットされたか、スキャナが通信可能範囲内に戻ったとき、スキャナはリンクを再度確立します。スキャナがリンクを再度確立する際、リンク再確立プロセス(パラメータ・テーブルのアップロード)が完了すると、音が一回鳴ります。詳しくは3-13ページの[通信可能範囲外アラームの項目](#)をご参照ください。

バッチモードがオン状態での通信可能範囲への出入り

スキャナは通信可能範囲外において数多くのシンボル(UPCシンボル約500個、他はばらつきあり)を保存し、通信可能範囲内に戻った時点でベースないしアクセスポイントへ送信することができます(3-16ページの[バッチモード](#)の項参照)。このモードでは、通信エラーブザーは聞こえませんが、無線通信が機能していない場合、トリガーを引いたときに短いブザー音が聞こえます。無線接続がされると、データがベースないしアクセスポイントに送信されている間、スキャナは一連のピーツという音を発します。

ページ(呼出し)ボタン

ベースないしアクセスポイントのページボタンを押すと、そのベースないしアクセスポイントに連動しているスキャナがピーツという音(3回短く、1回長く)を鳴らし始めます。呼び出しに応じて鳴っているスキャナのトリガーを引くか、ベースもしくはアクセスポイントへの呼出しボタンをもう一回押すと、連動しているすべてのスキャナが鳴り止みます。ページボタンの設定についての詳細は3-9ページの[ページング\(呼出し\)](#)の項をご覧ください。

バッテリーについて



バッテリー交換を誤ると、爆発するおそれがあります。同じメーカーか、メーカーが推奨する同等タイプのバッテリーのみに交換してください。使用済みバッテリーは廃棄する国の所轄省庁が指定したリサイクル方法にしたがって処分してください。

コードレススキャナの電源はスキャナハンドル内に組み込まれた充電式バッテリーによって供給されます。出荷時には、約30%から60%程度バッテリーを充電してありますが、充電容量最大まで完全に充電されるべきものです。

充電について

バッテリーはスキャナがコードレス・ベース・ユニットに差し込まれている間に充電する設計になっています。充電状況インジケータの解釈については3-7ページの**ベース／アクセスポイントLEDのシーケンスと意味の項目**をご覧ください。スキャナをベースにリンクすることなく充電する必要がある場合は、3-11ページの**チャージオンリーモードの項目**をご覧ください。

適切な電源に接続されているベースにスキャナを差し込んでください。定格出力5～5.2Vdc、1AのLimited Power Source (LPS) かクラス2タイプの電源のみをご使用ください。

注: インターフェースケーブル(例えばUSBケーブル)を介してベースに電力供給し、外部電源を補助ポートに差し込まない場合、充電に使える電力が減り、充電時間が短くなります。

バッテリーについての推奨事項

- バッテリーはリチウムイオン電池で、完全に充電せずに使えますし、耐用寿命に悪影響を及ぼすことなく、放電しきってからでなくても充電できます。この種のバッテリーについては、充電／放電コンディショニングをする必要がありません。
- ホストを使用していないときは、ベースを電源に接続しておいてください。
- 欠陥のあるバッテリーは、スキャナを破損しますので、ただちに交換してください。
- バッテリーは何回も充電できますが、最終的には消耗してしまいます。十分な充電量を維持できなくなったときにはバッテリーを交換してください。
- 電池や充電器が正常に機能しているかわからないときには、ハネウェル社が正規サービスセンターへ送って点検してください。詳細は14-1ページの**カスタマーサポートの項**をご覧ください。



警告:

当装置には部品番号100000495、定格3.7 Vdc、7.4Whrのハネウェル・リチウムイオン電池パックのみをご使用ください。ハネウェル以外のバッテリーを使用された場合、保証対象に含まれない破損が生じる恐れがあります。

リチウム電池の安全に関する注意事項

- バッテリーを燃やしたり、加熱したりしないこと。
- 火気・高温の場所を避けて保管すること。
- 金属製品とともにバッテリーを保管したり、所持したりしないこと。
- 水気を避け、バッテリーを濡らさないようにすること。
- 金属製品を使ってバッテリーの陽極と陰極を接続(ショート)しないこと。
- バッテリーに穴を開けたり、たいたいたり、踏んだり、強い衝撃を与えたりしないこと。
- バッテリーを解体・改造しないこと。

**警告:**

バッテリー交換を誤った場合、爆発の恐れあり。使用済みのバッテリーは廃棄する国の所轄省庁が指定したリサイクル方法にしたがって処分してください。

バッテリーの適切な処分



バッテリーが耐用年数の終わりに達したときは、資格あるリサイクル業者ないし危険物取扱業者によって処分されなければなりません。バッテリーを一般廃棄物をともに焼却したり、処分したりしないでください。スキャナのバッテリーを弊社へお送りいただくことも可能です(送料はご負担ください)。

使用済みバッテリーの梱包、表示、明細書作成、輸送に関するすべての連邦・州・自治体法規の遵守は輸送業者の責任です。

リサイクル・処分に関しては、製品サービス部(14-1ページ)にお問い合わせください。

バッテリーをご返送いただくコストが高額な場合、地元のリサイクル／処理業者を探されたほうがコスト効率がよいかもしれません。

ブザー・LEDのシーケンスと意味

スキャナ上部にはLEDが組み込まれており、通電・通信・電池残量を表示します。簡単に言うと、赤いLED=エラー、緑のLED=あらゆる種類の正常な完了を意味します。本ユニットの音声によるインジケータにも意味があります。エラーブザー1回=エラー、2回ピーツ=メニュー変更、1回ピーツ=それ以外のすべての正常な完了です。下記の表にスキャナのLED点灯・ブザーによる表示のしかたとその原因をまとめてあります。

スキャナLEDシーケンスと意味

LED表示	ブザー表示	原因
正常な操作		
赤点灯	なし	バッテリー残量少
緑点灯	1回ピーツと鳴る	通信またはリンクに成功
赤点滅	エラーブザー	通信失敗
メニュー操作		
緑点灯	2回ピーツと鳴る	メニュー変更成功
赤点滅	エラーブザー	メニュー変更失敗

ベース/アクセスポイントLEDシーケンスと意味

ベースには赤いLEDが、アクセスポイントには青いLEDがついており、ユニットの状態を表示し、ホストシステムとの通信を確認します。また、緑のLEDもついており、スキャナのバッテリー充電状況を表示します。

赤もしくは青いLED-ホストとの通信	
通信状態	赤または青いLED
USB中止	オフ
電源オン、システムアイドル	継続的にオン
データ受信	複数回にわたり短く点滅。無線モジュールまたはホストポートとの間のデータ通信中点滅
緑のLED-スキャナのバッテリー (ベースのみ。アクセスポイントには該当しません。)	
充電状態	緑のLED
バッテリーが検出されないか、充電が中止されたとき	オフ
充電前と充電中	ゆっくり点滅(1秒点灯、1秒消灯)
充電完了	継続して点灯
充電エラー	速く点滅(300ミリ秒点灯、300ミリ秒消灯)

ベースパワー通信インジケータ

ベースないしアクセスポイントのパワーインジケータを表示するには、**Base Power Communication Indicator On**バーコードを読み取ってください。パワーインジケータをオフにするには、**Off**バーコードを読み取ってください。初期設定 = On



BASRED1.

* Base Power Communication
Indicator On
(ベースパワー通信インジケータオン)



BASREDO.

Base Power Communication
Indicator Off
(ベースパワー通信インジケータオフ)

スキャナのリセット

下のバーコードを読み取ることによって、スキャナは再起動され、ベースないしアクセスポイントと再リンクします。



RESET.

Reset Scanner(スキャナのリセット)

ベースクレードル内での読み取り

注:この機能はアクセスポイントには該当しません。

スキャナがベースクレードルに入った状態でバーコードを読み取ることができるようにしたい場合は、下記の**Scanning in Cradle On**バーコードを読み取ってください。スキャナがベースクレードルに入っていない状態でのみ、読み取りを行うようにしたい場合は、**Scanning in Cradle Off**を読み取ってください。初期設定 = Scanning in Cradle On



BT_SIC0.

Scanning in Cradle Off
(クレードル内読み取りオフ)



BT_SIC1.

* Scanning in Cradle On
(クレードル内読み取りオン)

ページング(呼出し)

ページング(呼出し)モード

初期設定では、ベースないしアクセスポイントのページングボタンはそのベースないしアクセスポイントに連動しているスキャナを呼出します。ベースないしアクセスポイントのページングボタンを無効にしたい場合は、下記のPaging Mode Off バーコードを読み取ってください。ページングモードがオフのときは、ボタンを押してもベースやアクセスポイントはスキャナを呼出さなくなります。ベースの赤いLEDはまたはアクセスポイントの青いLEDは点灯したままで、ページングモードがオフであることを示します。(この)このライトはボタンを押すと消え、ボタンが解除されると再度点灯します。)

初期設定 = Paging Mode On



BEPPGE1.

* Paging Mode On
(ページングモードオン)



BEPPGE0.

Paging Mode Off
(ページングモードオフ)

ページング(呼出し)音のピッチ

ベースないしアクセスポイントのページングボタンを押すと、そのベースないしアクセスポイントに連動しているスキャナがピーツと鳴り始めます(3-4ページの**ページボタンの項**参照)。下記のバーコードの1つを読み取ることによって各スキャナのピーツというページング音の高さを設定することができます。初期設定 = Low



BEPPFQ1000.

* Low (1000 Hz)
(低)



BEPPFQ3250.

Medium (3250 Hz)
(中)



BEPPFQ4200.

High (4200 Hz)
(高)

エラー・インジケータ

ブザー音ピッチ- ベースのエラー

注: この機能はアクセスポイントには該当しません。

ホストシステムへの通信上の問題など、エラーが発生した際に特定のピッチでピーツと鳴るようにベースを設定することができます。ブザーピッチコードによってエラー発生時のベースが発するエラーブザーのピッチ(周波数)を変更できます。初期設定 = Low



BASFQ2250.

* Razz (250 Hz)
(低)



BASFQ23250.

Medium (3250 Hz)
(中)



BASFQ24200.

High (4200 Hz)
(高)

ブザー回数 - ベースのエラー

注: この機能はアクセスポイントには該当しません。

エラーによってベースから発せられるブザー音やLEDの点滅回数は1~9回から設定できます。例えば、このオプションをエラーブザー5回と設定すると、エラーに反応してエラーブザーが5回鳴り、LEDが5回点滅します。エラーブザーの回数を変更するには、下記のバーコードを読み取ったのち、本書の裏表紙にあるプログラミングチャートから数値(1~9)バーコードを読み取り、次にSaveバーコードを読み取ります。初期設定 = 1



BASERR.

Number of Base Error Beeps/LED Flashes(ベースエラーのブザー回数/LED点滅数)

スキャナレポート

下記のバーコードを読み取ることで、接続されたスキャナについてのレポートを生成することができます。レポートには、ポート、ワークグループ、スキャナ名、アドレスが表示されます。スキャナに名前を割り当てるには11-1ページのメニューコマンドシンタックスを参照してください。



RPTSCN.

Scanner Report(スキャナレポート)

スキャナのアドレス

下記のバーコードを読み取ることによって、ご使用のスキャナのアドレスを決定することができます。



BT_LDA.

Scanner Address (スキャナのアドレス)

ベースないしアクセスポイントのアドレス

下記のバーコードを読み取ることによって、ご使用のベースないしアクセスポイントのアドレスを決定することができます。



:BASLDA.

Base Address (ベースアドレス)

スキャナモード

Xenonはスキャナ1台のモード、スキャナの複数台のモードや、CCB01-010BT チャージベースもしくはアクセスポイント以外のBluetooth 対応機器とあわせて機能することができます。

チャージオンリーモード

スキャナを充電したいが、ベースにリンクしたくない場合があるかもしれません。例えば、スキャナがアクセスポイントもしくは他のBluetooth 対応機器にリンクされており、スキャナを充電する必要があるものの、その既存のリンクを維持したい場合などです。

ベースをチャージオンリーモードに設定するには、そのベースにスキャナを1台リンクしなければなりません。ベースにスキャナがリンクしたら、**Charge Only Mode**バーコードを読み取ってください。そのベースにその後差し込まれるスキャナはベースにリンクせずに充電できます。設定のために使用したスキャナはベースにリンクしたままとなります。そのスキャナのリンクを解除するには、3-13ページの[Unlink Scanner](#)を読み取ってください。



BASLNKO.

Charge Only Mode (チャージオンリーモード)

注: チャージオンリーモードのとき、スキャナは定期的に起動し、ピーツと鳴ります。この設定を変更するには、4-1ページの起動フザーを参照してください。

スキャナを充電し、ベースにリンクしたい場合は、**Charge and Link Mode(充電およびリンクモード)**を使用してください。ベースがチャージオンリーモードに設定されている場合、充電およびリンクモードに設定しなすためには、まずスキャナを1台そのベースにリンクしなければなりません。ベースのlinkingバーコードを読み取って、スキャナをリンクしてから**Charge and Link Mode**を読み取ります。初期設定 = Charge and Link Mode



BASLNK1.

- Charge and Link Mode
- (充電およびリンクモード)

リンクモード

Locked Link Mode(ロックト・リンク・モード)とOpen Link Mode(オープン・リンク・モード)は異なるアプリケーションに対応するモードです。この一方からもう一方に切り換えるには、下記のロックト・リンク・モードとオープン・リンク・モードの説明にある該当バーコードを読み取ってください。初期設定 = Open Link Mode

ロックト・リンク・モード- スキャナ1台の場合

ロックト・リンク・モードを使ってスキャナをベース1台もしくはアクセスポイントにリンクした場合、他のスキャナをあやまってそのベースに差し込んだり、Access Point linkingバーコードが読み取られたりしてもリンクしないように阻止できます。別のスキャナをベースに差し込んだ場合、スキャナは充電されますが、リンクはされません。



BASCON0,DNG1.

Locked Link Mode(ロックト・リンク・モード)
(Single Scanner)(スキャナ1台の場合)

別のスキャナを使用するためには、**Unlink Scanner**バーコードを読み取り、最初のスキャナのリンクを解除する必要があります。
(3-11ページの**スキャナのモード**の項参照)

オープン・リンク・モード- スキャナ1台の場合

納品されたばかりのときや初期設定に戻された場合、スキャナはベースないしアクセスポイントにリンクしていません。スキャナをベースに差し込むか、Access Point linkingバーコードを読み取るとリンクが確立されます。オープン・リンク・モードの場合、新しいスキャナをベースに差し込むか、Access Point linkingバーコードを読み取ると新しいリンクが確立されます。

スキャナを1台ベースに差し込むか、Access Point linking バーコードを読み取るたびに、そのスキャナはベースないしアクセスポイントにリンクされ、もとのスキャナのリンクは解除されます。



BASCON1,DNG1.

* Open Link Mode(オープン・リンク・モード)
(Single Scanner) (スキャナ1台の場合)

スキャナのリンク解除

ベースないしアクセスポイントにスキャナがリンクされているときは、まずスキャナのリンクを解除しなければ新しいスキャナをリンクできません。元のスキャナへのリンク解除を行うと、ベースないしアクセスポイントと通信しなくなります。ベースないしアクセスポイントからスキャナのリンクを解除するには、下記のUnlink Scannerバーコードを読み取ってください。



BT_RMV.

Unlink Scanner(スキャナのリンク解除)

ロックされたスキャナの上書き

ベースないしアクセスポイントにリンクされているスキャナが破損したか、もしくは紛失し、交換する必要がある場合、新しいスキャナで下記のOverride Locked Scanner バーコードを読み取り、そのスキャナをベースに差し込むか、Access Point linkingバーコードを読み取ってください。これでロックされたリンクが上書きされます。破損したかもしくは紛失したスキャナとベースないしアクセスポイントとのリンクは解除され、新たなスキャナとリンクされます。



BT_RPL1.

Override Locked Scanner(ロックされたスキャナの上書き)
(Single Scanner)(スキャナ1台の場合)

通信可能範囲外アラーム

ベースの通信可能範囲外にスキャナがあるとき、ベースとスキャナの両方からアラーム音が鳴ります。アクセスポイントの通信可能範囲外にスキャナがあるときは、スキャナからのみアラーム音が鳴ります。そのスキャナがベースないしアクセスポイントに近づくか、アクセスポイントが別のスキャナと接続するか、アラーム音継続の設定時間が経過すると、アラームは止まります。スキャナまたはベースのアラームオプションを有効にし、アラームが鳴る時間を設定するには下記の該当するバーコードを読み取り、その後、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数値を読み取り、タイムアウト時間(0~3000秒の間)を設定し、Saveを読み取ります。初期設定 = 0秒(アラームなし)



BASORD.

Base Alarm Duration
(ベースアラーム時間)

注: アクセスポイントにはベースアラームはありません。



BT_ORD.

Scanner Alarm Duration
(スキャナアラーム時間)

注: バーコード読み取りの際、通信可能範囲外にいる場合、アラームを設定してなくても、エラーブザーが鳴ります。ベースないしアクセスポイントへのデータを送信することができないと、エラーブザーが鳴るようになっています。

アラーム音の種類

下記から該当するバーコードを読み取り、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数値(0~7)のバーコードとSaveを読み取ることで、スキャナやベースのアラーム音の種類を変更することができます。初期設定 = 0

アラーム音の種類

設定	音
0	3回長くピーツという音、ピッチ中
1	3回長くピーツという音、ピッチ高
2	4回短くピーツという音、ピッチ中
3	4回短くピーツという音、ピッチ高
4	1回鳥のさえずりのような音、ピッチ中
5	鳥のさえずりのような音が2回+1回、ピッチ中
6	1回鳥のさえずりのような音、ピッチ高
7	鳥のさえずりのような音が2回+1回、ピッチ高



Base Alarm Type

注: アクセスポイントにはベースアラームはありません。



BT_ORW.

Scanner Alarm Type
(スキャナアラームの種類)

フレキシブル出力管理

ネットワーク性能に問題があり、スキャナが他の装置と混線していると思われる場合は、スキャナの出力を下げるすることができます。これにより、下記の図に示されるとおり、スキャナとベースないしアクセスポイントとの間の通信可能範囲が縮小します。



下記のバーコードの1つを読み込むことで、フルパワー(100%) [2.5mW、4dBm]、中パワー(35%) [0.875mW、0dBm]、中低パワー(5%) [0.125mW、-9dBm]、低パワー(1%) [0.025mW、-16dBm]のいずれかに設定できます。初期設定 = Full Power
新しいパワー設定を有効にするためには、スキャナとベースないしアクセスポイントとをリセットしなければなりません。3-16ページのスキャナとベース/アクセスポイントとのリセットを参照してください。



BT_TXP100.
* Full Power (フルパワー)



BT_TXP35.
Medium Power (中パワー)



BT_TXP5.
Medium Low Power (中低パワー)



BT_TXP1.
Low Power (低パワー)

スキャナとベース／アクセスポイントとのリセット

パワーレベルを設定したら、Reset Base/バーコードを読み取ったのち、スキャナがベースないしアクセスポイントからリンクを解除し、再リンクされるのを待たなければなりません。それが終わったのちに、Reset Scanner/バーコードを読み取り、ベースないしアクセスポイントがスキャナとリンクが解除され、再リンクされるのを待ってください。



RESET_
Reset Base(ベースのリセット)



: * _RESET_ . 3

Reset Scanner(スキャナのリセット)

バッチモード

バッチモードは、スキャナがそのベースないしアクセスポイントの通信可能範囲外にあるとき、または棚卸をするときのバーコードデータ保存に使用します。スキャナが通信可能範囲内に戻ったとき、あるいは記録が手作業で送信されたとき、データはベースないしアクセスポイントへ送信されます。

注: 1台のベースないしアクセスポイントに対して複数のスキャナを使用する際、バッチモードには限界があります。最高7台のスキャナが1台のベースないしアクセスポイントに接続される「マルチリンクモード」でコードレスシステムを使用し、スキャナが通信可能範囲を常に出入りすると、蓄積されたもしくはバッチ処理された読み取りが失われる可能性があります。

自動バッチモードはスキャナがベースないしアクセスポイントの通信可能範囲外にあるとき、バーコードデータを保存します。スキャナが通信可能範囲内に戻るとデータはベースないしアクセスポイントへ自動送信されます。スキャナのバッファースペースが満杯になると、バーコード読み取り時にエラーブザーが鳴ります。バーコードを再度読み取るには、スキャナをベースないしアクセスポイントの通信可能範囲内に戻して、データが送信できるようにしなければなりません。

棚卸バッチモードではベースないしアクセスポイントの通信可能範囲内にいるかいないかにかかわらず、バーコードデータを保存します。保存されたデータをベースないしアクセスポイントへ送信するには、スキャナをベースに差し込むか、[Transmit Inventory Records](#) (3-21ページ)を読み取ります。スキャナのバッファースペースが満杯になると、バーコード読み取り時にエラーブザーが鳴ります。バーコードを再度読み取るには、データをベースないしアクセスポイントへ送信しなければなりません。

初期設定 = Batch Mode Off



BATENA0.

* Batch Mode Off (バッチモードオフ)



BATENA1.

Automatic Batch Mode (自動バッチモード)



BATENA2.

Inventory Batch Mode (棚卸バッチモード)

バッチモードブザー音

バッチモード使用時にBatch Mode Beep Onを読み取ると、各バーコードを読み、保存するたびに、スキヤナがカチッと鳴るように設定できます。初期設定 = Batch Mode Beep On



BATBEPO.

Batch Mode Beep Off
(バッチモードブザーオフ)



BATBEP1.

* Batch Mode Beep On (バッチモードブザーオン)

バッチモード保存

バッチモードプロセスにおいて、スキヤナがデータを保存する際、フラッシュメモリに保存するかRAMに保存するかを選択できます。

フラッシュ保存:スキヤナが低出力になる前に、まだ送信していないデータをすべてフラッシュメモリに書き込みます。スキヤナが再起動した際もデータはまだ残っています。しかし、スキヤナのパワーダウンタイムアウトに達した場合やバッテリー残量が非常に少なくなると、未送信のデータがあってもスキヤナは低出力になります。

RAM保存: ベースないしアクセスポイントへの未送信データが入っているとき、スキャナはパワーダウタイムアウトに達しても低出力になりません。しかし、バッテリー切れになった場合は、スキャナは低出力になり、データは失われます。
初期設定 = Flash Storage



BATNVS1.

* Flash Storage (フラッシュ保存)



BATNVSQ.

RAM Storage (RAM保存)

バッチモード個数

バッチモードにおいて、同一のバーコードを何個も送信するのではなく、バーコードの個数を送信したいことがあるかもしれません。例えば、**Batch Mode Quantity Off**の状態ではXYZという3つのバーコードを読み取ったとすると、そのデータを送信したときには、XYZが3個表示されます。**Batch Mode Quantity On**と**Quantity Codes** (数量コード) (3-19 ページ) を使えば、かわりに、「XYZ, 00003」と出力することができます。初期設定 = Batch Mode Quantity Off



BATQTY0.

* Batch Mode Quantity Off
(バッチモード個数オフ)



BATQTY1.

Batch Mode Quantity On
(バッチモード個数オン)

個数の入力

Quantity Codes (個数コード) (3-19 ページ) を用いれば、最後に読み取ったアイテムについて、9999までの個数(初期設定 = 1)を入力できます。

個数の数字は右から左へ移動しますので、5桁目の数字が読み込まれるとすでに読み込み済の1桁目の数字がなくなり、2・3・4桁目の数字が左へずれて、新たな1桁を迎え入れます。

例えば、個数が1234に設定されたあとで、Quantity 5バーコードを読み取ると、1が脱落し、個数は2345になります。

例: 最後に読み取ったアイテムに5という個数を付与するには

1. 当該アイテムのバーコードを読み取ります。
2. quantity 5 のバーコードを読み取ってください。

例: 最後に読み取ったアイテムに1500という個数を付与するには

1. 当該アイテムのバーコードを読み取ります。

-
- quantity 1のバーコードを読み取ります。
 - quantity 5のバーコードを読み取ります。
 - quantity 0のバーコードを読み取ります。
 - quantity 0のバーコードを読み取ります。

例:個数を103から10に変更するには

間違った個数を訂正するには、quantity 0のバーコードを読み取り、間違った数字を置き換え、その後正しい数量コードを読み取ります。

- quantity 0バーコードを読み取って個数を1030に変更します。
- quantity 0バーコードを読み取って個数を0300に変更します。
- quantity 1バーコードを読み取って個数を3001に変更します。
- quantity 0バーコードを読み取って個数を0010に変更します。

初期設定 = 1

Quantity Codes (数量コード)



BATNUM0.

0



BATNUM1.

1



BATNUM2.

2



BATNUM3.

3



BATNUM4.

4



BATNUM5.

5



BATNUM6.

6



BATNUM7.

7

Quantity Codes (数量コード) (続き)



BATNUM8.

8



BATNUM9.

9

バッチモード出力順序

バッチモードデータを送信する際には、データをFIFO(先入れ先出し)で送信するか、LIFO(後入れ、先出し)で送信するかを選択してください。



BATLIFO.

Batch Mode FIFO
(先入れ先出しバッチモード)



BATLIF1.

Batch Mode LIFO
(後入れ先出しバッチモード)

最後のコード削除

バッチモードにおいて、最後に読み取ったバーコードを削除したい場合は Delete Last Codeを読み取ってください。



BATUND.

Delete Last Code(最後のコード削除)

全コード削除

スキャナのバッファからバッチモードで蓄積されたすべてのデータを消去したい場合は、Clear All Codesを読み取ってください。



BATCLR.

Clear All Codes(全コード削除)

記録のホストへの送信

棚卸バッチモード(3-17ページの棚卸バッチモードの項参照)において、保存されたすべてのデータをホストシステムへ送信するには、下記のバーコードを読み取ってください。



BAT_TX.

Transmit Inventory Records(棚卸記録の送信)

バッチモード送信デレイ

蓄積されたスキャンデータをホストシステムへ送信する際、送信が速すぎてアプリケーションが処理しきれないことがあります。蓄積されたスキャンデータ間にデレイを設定するには、下記のデレイのいずれかを読み取ってください。
初期設定 = Off

注: ほとんどの場合、デレイは短い(250ミリ秒)ことが理想です。
しかし、より長いデレイを設定することもできます。詳細についてはテクニカルサポート(14-3ページ)にご連絡ください。



BATDLY0.

* Batch Mode Transmit Delay Off
(バッチモード送信デレイオフ)
(No Delay)(デレイなし)



BATDLY250.

Batch Mode Transmit Delay Short
(バッチモード送信、短デレイ)
(250 ms)



BATDLY500.

Batch Mode Transmit Delay Medium
(バッチモード送信、中デレイ)
(500 ms)



BATDLY1000.

Batch Mode Transmit Delay Long
(バッチモード送信、長デレイ)
(1000ms)

複数台スキャナでの操作

注: Multiple Scanner Operation Mode (マルチスキャナ操作モード)では、1台のベースないしアクセスポイントにスキャナを最高7台までリンクすることができます。その7台のスキャナのうち、1台をリンク解除するか、通信可能範囲の外へ持ち出さなければ、8番目のスキャナを追加することはできません。

スキャナをマルチスキャナモードに追加するには、以下のバーコードを読み取ってください。このバーコードを読み取ると、スキャナはベースないしアクセスポイントからリンク解除されるため、再度リンクするためには、そのスキャナをベースに差し込むか、Access Point linkingバーコードを読み取らなければなりません。



BASCON2_DNG3.

Multiple Scanner Operation (マルチスキャナ操作)

スキャナ名

ご使用の各スキャナを識別できるように、それぞれに名前をつけることができます。例えば、ベースないしアクセスポイントから送信された画像コマンドを受信するスキャナに独自の識別名称をつけたいときなどです。

Xenonの初期設定名は「Xenon」です。ベースに複数のスキャナがリンクされており、それらすべての同一の初期設定名がついている場合、ベースに最初にリンクされたスキャナがコマンドを受信します。同一の初期設定名がついている一連のスキャナを命名し直す際は、1台を残してすべてのスキャナをベースからリンク解除してください。

命名し直しの操作は3-23ページのバーコードを読み取るか、シリアルコマンド:**Xenon:BT_NAMname**を送信します。この中の**name**部分にはスキャナの新名称を書きます。他のスキャナの名称も変更したい場合は、1台ずつリンクし、各スキャナごとに:**Xenon:BT_NAMname**というコマンドを繰り返します。

スキャナに順序だった番号で命名し直すには、下記のバーコードを読み取ってください。名称を変更するたびに、Resetコードを読み取り、スキャナがベースないしアクセスポイントに再リンクするまで待ってから、次のスキャナを命名し直すためのバーコードを読み取ってください。



BT_NAM0001.
0001



BT_NAM0002.
0002



BT_NAM0003.
0003



BT_NAM0004.
0004



BT_NAM0005.
0005



BT_NAM0006.
0006



BT_NAM0007.
0007



RESET.
Reset(リセット)

下記のScanner Nameバーコードを読み取り、その後スキャナ名として数字を読み取ることも可能です。例えば、リンク済のスキャナを「312」と命名したい場合、下記のバーコードを読み取り、本書の裏表紙にある[プログラミングチャート](#)から3、1、2のバーコードを読み取り、Saveを読み取ってください。Resetバーコードを読み取り、スキャナがベースに再リンクされるまで待ってください。



BT_NAM.
Scanner Name(スキャナ名)

アプリケーションワークグループ

ご使用のコードレスシステムでは、1台のベースないしアクセスポイントに対し最高7台までスキャナをリンクすることができます。また、最高7つまでワークグループを設定できます。すべてのスキャナを同一の設定にしたい場合は、複数のワークグループを使用する必要はありません。一方、各スキャナごとに独特な設定（ブザー音量、プレフィックス・サフィックス、データフォーマットなど）をしたい場合は、各スキャナが独自のワークグループをもつように設定し、各スキャナを独立させることができます。例えば、小売／倉庫のアプリケーションでは、倉庫と小売店舗内でそれぞれ異なったデータをバーコードに付して使用したいことがあるかもしれません。その場合、小売店舗内のスキャナをすべて1つのワークグループに割り当て、倉庫内のスキャナをすべてもう1つのワークグループに割り当てるのが可能です。これにより、小売店舗内であれ倉庫であれ、変更点は該当するワークグループ内のスキャナすべてに適用されます。ハネウェルのオンラインコンフィグレーションツール、EZConfig([10-2ページ](#))は、複数のスキャナ・複数のワークグループでのシステム使用設定が容易にできるようになっています。

スキャナは自らが使用しているメニュー設定を保存しています。スキャナがベースないしアクセスポイントに接続または再接続するたびにベースないしアクセスポイントからスキャナにそのワークグループについての最新設定が送信されて更新されます。また、スキャナはベースないしアクセスポイントによって処理されたメニュー設定変更も受信します。スキャナがベースもしくはアクセスポイントからはずされて別のベースに差し込まれたり、別のアクセスポイントにリンクされると、そのスキャナに元々割り当てられていたワークグループの新しいアクセスポイント設定で更新されます。例えば、最初のベースリンク時にワークグループ1だったスキャナは2台目のベースでもワークグループ1となり、関連の設定が付与されます。

アプリケーションワークグループの選定

このプログラミング選定では、下記のバーコードを読み取ることによってスキャナを特定のワークグループに割り当てることができます。その後、ご使用のアプリケーションが必要とする設定（ブザー音量、プレフィックス／サフィックス、データフォーマット）をプログラムすることができます。

初期設定 = Group 0



GRPSEL0.

* Group 0 (グループ0)



GRPSEL1.

Group 1 (グループ1)



GRPSEL2.

Group 2 (グループ2)



GRPSEL3.

Group 3 (グループ3)



GRPSEL4.

Group 4 (グループ4)



GRPSEL5.

Group 5 (グループ5)



GRPSEL6.

Group 6 (グループ6)

初期設定へのリセット: (全アプリケーションワークグループ)

下記のバーコードを読み取ると、すべてのワークグループを工場出荷時設定に戻します。



PAPDFT &

Factory Default Settings:

All Work Groups

(全ワークグループを
工場出荷時設定へリセット)

工場出荷時設定がどのようなものか見るには、11-5ページからの**メニューコマンド**の表を参照してください。標準製品の各コマンド初期設定は「*」で示されています。

注: このバーコードを読み取ると、スキャナとベースないしアクセスポイントがリセットされ、リンクが解除されます。リンクを再確立するためには、スキャナをベースに差し込むか、Access Point linkingバーコードを読み取らなければなりません。詳細は、3-11ページの**スキャナモード**参照。

ご使用のスキャナがマルチスキャナモードになっている場合は、すべてのスキャナがベースないしアクセスポイントに再リンクされ、設定が変更されるまで、30秒間ブザー音が鳴ります。

カスタムデフォルトへのリセット: (全アプリケーションワークグループ)

すべてのワークグループにカスタムデフォルト設定を回復したい場合は、下記の**Custom Product Default Settings**バーコードを読み取ってください。(カスタムデフォルトがない場合は、初期設定へのリセットされます。)カスタムデフォルトについての詳細は、1-9ページの**カスタムデフォルトの設定**を参照してください。



PAPDFT.

Custom Default Settings

All Work Groups (全ワークグループへのカスタムデフォルト設定)

注: このバーコードを読み取ると、スキャナとベースないしアクセスポイントがリセットされ、リンクが解除されます。リンクを再確立するには、スキャナをベースに差し込むか、Access Point linkingバーコードを読み取らなければなりません。詳細は、3-11ページの**スキャナモード**を参照してください。

ご使用のスキャナがマルチスキャナモードになっている場合は、すべてのスキャナがベースないしアクセスポイントに再リンクされ、設定が変更されるまで、30秒間ブザー音が鳴ります。

スキャナのBluetooth 対応機器との使用

スキャナはCCB01-010BTチャージベース、アクセスポイント、その他のBluetooth対応機器のいずれともあわせて使用することが可能です。その他のBluetooth対応機器には、PC、ラップトップ、PDA、ハネウェル・モビリティ・システムデバイスを含みます。

PC／ラップトップ

下記の**Non-Base BT Connection**バーコードを読み取ると、スキャナを他のBluetooth対応機器(PC／ラップトップなど)とあわせて使用できるようになります。下記のバーコードを読み取った後、ご使用のBluetooth対応機器添付の取扱説明書に従い、スキャナを認識し、接続してください。スキャナを持って通信可能範囲の外に出ると、通信可能範囲内に戻ってきてもBluetooth対応機器に接続しません。

チャージベースないしアクセスポイントに再リンクしたい場合は、3-13ページの
[ロックされたスキャナの上書きの項](#)を参照してください。

注: スキャナをチャージベースないしアクセスポイント以外の
Bluetooth対応機器と合わせて使用している場合、複数の
ワークグループのオプションは使用できません。



BT_DNG5.
Non-Base BT Connection(ベースなしBT接続)

PDA／モビリティ・システム・デバイス

スキャナをPDAやハネウエル・モビリティ・デバイスを合わせて使用することも
できます。下記のバーコードを読み取り、ご使用のBluetooth対応機器に
添付されていた取扱説明に従って、スキャナを認識し、接続してください。



BT_DNG1.
BT Connection - PDA/Mobility Systems Device
(PDA／モビリティ・システム・デバイス用BT接続)

スキャナのBluetooth 暗証コード変更

一部の機器には、Bluetoothセキュリティ機能の一環として、暗証コードが
必要です。スキャナの初期設定の暗証記号は1234で、ご使用のPDAまたは
PCに初めて接続する際、入力が必要かもしれません。暗証コードは1～16文字の
間でなければなりません。暗証コードを変更するには、下記のバーコードを読み取り、
その後本書の裏表紙にある[プログラミングチャート](#)から該当の数値バーコードを
読み取ります。Saveを読み取って選定した内容を保存してください。



BT_PIN.
Bluetooth PIN(Bluetooth 暗証コード)

Bluetooth／ISM 帯域ネットワーク干渉の最小化

この設定は、コードレス・エリア・イメージング・システムの再リンク動作を
カスタマイズし、利便性を確保しながら、干渉を低く抑えるための最適な妥協点を見出すのに役立ちます。

注: ISM 帯域とは、無線ネットワーク、コードレス電話、Bluetooth が
使用する2.4 GHzから2.48 GHzの周波数帯域を指します。

自動再接続モード

自動再接続は、接続が中断されたことが検出されたとき、スキャナが自動的に再リンクのプロセスを開始するか否かを制御するものです。

Auto Reconnect Onのバーコードを読み取ると、スキャナはユーザの介入なしにただちに再リンクのプロセスを開始します。初期設定 = Auto Reconnect On



BT_ACM1.

* Auto Reconnect On
(自動再接続オン)



BT_ACM0.

Auto Reconnect Off
(自動再接続オフ)

注: Bluetoothのインターフェースモジュールに接続している場合には、*AutoReconnect* をOffに設定してください。

下の表は、Auto Reconnect がOn およびOff 設定の際の結果です。

事象	Auto Reconnect On	Auto Reconnect Off
スキャナが通信可能範囲外にあるとき	自動的に再リンクされます。リンク試行を最大限度回数まで行っても成功しない場合は、トリガーを引くか、スキャナをベースに差し込むかアクセスポイント・リンクングバーコードを読み込むかのいずれかによってスキャナの再リンクを行ってください。 (3-29ページのリンク試行最大限度回数を参照)	スキャナはトリガーを引くか、アクセスポイント・リンクングバーコードを読み取ることによって再リンクされます。
(ファームウェアのアップグレードもしくは電源再起動により)ベースもしくはアクセスポイントがリセットされたとき	スキャナは通信可能範囲外にあるかのように動作します。	ベースないしアクセスポイントがオフの間は、再リンクを試行しません。再リンクを始めるためには、トリガーを引かねばなりません。

事象	Auto Reconnect On	Auto Reconnect Off
スキャナパワータイムアウトタイマーの設定によりスキャナの電源がオフのとき (ページ4-7参照)	再リンクを行うには、トリガーを引くか、アクセスポイント・リンクングバーコードを読み込むか、スキャナをベースに差し込むかのいずれかを行います。 (注:スキャナは起動時に再リンクしますが、起動は上記の操作いずれかによります。)	
ファームウェアのアップグレードによりスキャナがリセットされたとき	自動的に再リンクします。	
バッテリー交換により、スキャナがリセットされたとき	自動的に再リンクします。	
スキャナが別のベースユニットに差し込まれたとき	自動的に新しいベースに再リンクします。	

リンク試行最高限度回数

リンク試行最高限度回数は、スキャナがベースないしアクセスポイントの接続を試みる回数を制御します。接続セットアッププロセスの間、スキャナはベースないしアクセスポイントを捜し、接続すべく発信を行います。発信をし続けることによって、ISM帯域の他のユーザに影響するのを避けるためこの設定によって接続試行回数が制限されています。リンク試行最高限度回数に達すると、スキャナはベースないしアクセスポイントへの再接続を試みなくなります。トリガーを引くか、アクセスポイント・リンクングバーコードを読み込むか、スキャナをクレードルに差し込むかのいずれかを行うことで試行回数がリセットされ、スキャナは再度リンクを試みるようになります。

Maximum Link Attemptsバーコードを読み取り、その後裏表紙の内側から設定試行回数(0~100)を読み取ってください。Saveを読み取って、設定を保存します。初期設定 = 0



BT_MLA.
Maximum Link Attempts
(リンク試行最高限度回数)

注: 自動再接続モードがオンのとき、リンク試行最高限度回数を0に設定すると、スキャナはパワータイムアウトタイマー設定(4-7ページ参照)時間が経過するまで、リンクを試みます。自動再接続モードがオフのとき、リンク試行最高限度回数を0に設定すると、スキャナはトリガーが引かれたあと1回だけリンクを試みます。

再リンクタイムアウト

再リンクタイムアウトは、再リンク試行中のアイドルタイムを制御します。ベース/アクセスポイントへのリンク試行は一般に最高5秒ほどかかります。これはスキャナが実際にコンタクトしようと試みている時間です。再リンクタイムアウトは1回接続を試み終わってから次に試み始めるまでの経過時間を秒単位で制御します。

注: 試行時の所要時間は、1台のベースユニット/アクセスポイントに接続されているスキャナの台数によって異なります。接続に成功したときには、さらに7秒かかることもあります。

Relink Time-Out / バーコードを読み取り、その後裏表紙の内側から設定秒数(0~100)を読み取ってください。Saveを読み取って、設定を保存します。初期設定 = 3秒



BT_RLT.
Relink Time-Out
(再リンクタイムアウト)

Bluetooth/ISM ネットワークアクティビティの例

初期設定値

スキャナが通信可能範囲外に出ると、ベース/アクセスポイントへの接続を何回も試みます。1回の試行には、アクティブタイム約5秒と、アイドルタイム約3秒がかかります。1時間経つとスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

リンク試行最高限度回数15、他の値は初期設定値の場合

スキャナが通信可能範囲外に出ると、ベース/アクセスポイントへの接続を15回試みます。1回の試行には、アクティブタイム約5秒と、アイドルタイム約3秒がかかります。15サイクル(8*15=120)すなわち、約2分後に、スキャナはベース/アクセスポイントへの接続試行をやめますが、バッチモードで保存されたであろうバーコードは保存されています。1時間後にスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

自動再接続モードを0に設定、リンク試行最高限度回数を15に設定、その他の値は初期設定値の場合

スキャナが通信可能範囲外に出ても、再リンクを一切試みません。トリガーを引くと、ベース/アクセスポイントへのリンクを15回試みます。毎回の試行につきアクティブタイム約5秒と、アイドルタイム約3秒がかかります。15サイクル(8*15=120)すなわち約2分後に、スキャナはベース/アクセスポイントへの接続試行をやめますが、バッチモードで保存されたであろうバーコードは保存されています。1時間後にスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。他にどのような事象によって再リンクプロセスが始まるのかは、3-28ページの**自動再接続モード**を参照してください。

自動再接続モードを1に、リンク試行最高限度回数を0に、再リンクタイムアウトを10に、スキャナパワータイムアウトを1800に設定した場合

注: 4-7ページの**スキャナパワータイムアウト**を参照

スキャナは1回の試行開始から次の試行開始まで、15秒の間隔でベース/アクセスポイントへの接続を試みます。

ホストコマンド認知

一部のアプリケーションはホストターミナル(ないしサーバー)が送信されてきたバーコードを承認するか、または却下することを要求し、この処理をオペレーターに知らせよう要求します。これらのアプリケーションは、スキャナから発信されるレスポンスインジケータをホストが制御し続けることを要求します。ホストACKをオンにすることによってスキャナはホストシステムからのコマンドに反応する状態になります。

注: ホストACKを9600未満のボーレートで使用すると、システムの性能が落ちます。

ホストACKが正常に機能するには、次の条件を満たさなければなりません。

- コードレスシステムがホスト・ポート RS232 (ターミナルID = 000) もしくは USB COMエミュレーション (ターミナルID = 130) 用に構成されていること。
- RTS/CTS の初期設定はオフです。ホストシステムがRTS/CTS を必要としている場合は、オンにしなければなりません。
- ホストACKがオフになっていること(3-32ページ参照)。
- ホストターミナルのソフトウェアにバーコードデータを解釈し、データコンテンツによって決定を下し、スキャナへ適切なエスケープコマンドを送信する能力がなければなりません。

エスケープコマンドは「アプリケーション・ワーク・グループ」を介してスキャナあてに送信されます。コマンドが送信されると、そのグループ内のスキャナすべてがコマンドに反応します。そのため、**各スキャナごとにホストACKモードで自分専用のグループを割り当てることを推奨します。**

スキャナが反応するコマンドは3-32ページに列挙されています。<ESC> はHex値での1Bです。典型的なコマンドストリングはy <ESC> xで、「y」はアプリケーションワークグループ番号、「<ESC> x」はエスケープコマンド、コンマは終止符が必要です。

コマンドをつなげて、カスタマイズされたレスポンスシーケンスを作成することもできます。以下はコマンドストリングの一例です。

```
0<ESC>4<ESC>5<ESC>6,
```

上記の例では、アプリケーション・ワーク・グループがゼロのスキャナがはじめは小さい音でピーツと、その後中くらいの音でピーツと、さらにその後大きな音でピーツと鳴ります。

ホストACKが有効なとき、システムは次のように機能します。

- スキャナはコードを読み、ホストシステムに送信すべく、ベース/アクセスポイントにデータを送ります。スキャナがエスケープコマンドを受信するまで音や視覚によるインジケータは発せられません。読み取りに成功すると、スキャナの読み取り用ライトが消えます。

- 1) (ベース/アクセスポイントを介して)ホストシステムからの有効なエスケープ・ストリングの受信、2)スキャナのタイムアウトまでスキャナの操作は中止されます。
- 上記の1ないし2の条件が満たされると、スキャナは再び読み取り準備が整い、プロセスが繰り返されます。

スキャナが10秒以内に有効なエスケープコマンドを受信しなければ、タイムアウトが起きます。タイムアウトはエラーブザーで示されます。タイムアウトになった場合、オペレーターはホストシステムをチェックしてスキャナへの応答がなぜ受信されなかったのかを確認してください。

ホストACK オン/オフ



HSTACK1.

Host ACK On(ホストACK オン)



HSTACK0.

* Host ACK Off
(ホストACK オフ)

ホストACK のレスポンス

コマンド	動作
<ESC> a	2回ピーツと鳴り、メニュー変更成功を示します。
<ESC> b	エラーブザーが鳴り、メニュー変更が成功しなかったことを示します。
<ESC> 1	緑のLEDが135秒間点灯し、その後ポーズがあります。
<ESC> 2	緑のLEDが2秒間点灯し、その後ポーズがあります。
<ESC> 3	緑のLEDが5秒間点灯し、その後ポーズがあります。
<ESC> 4	小さい音で1回ピーツと鳴ります。
<ESC> 5	中くらいの音で1回ピーツと鳴ります。
<ESC> 6	大きい音で1回ピーツと鳴ります。
<ESC> 7	連続音で、デコードとホストへの通信が成功したことを示します。

コマンド	動作
<ESC> 8	エラーブザーによってデコードないしホストへの通信が成功しなかったことを示します。



入力・出力設定

起動ブザー

スキャナは電源が入るとブザーが鳴るようになっています。コードレスシステムをご使用の場合は、電源を入れるとベースが鳴るようになっています。起動ブザーをお使いにならない場合は、Offバーコードを読み取ってください。

初期設定= Power Up Beeper On - Scanner



BEPPWRO.
Power Up Beeper Off -
Scanner
(スキャナ、起動ブザーオフ)



BASPWRO.
Power Up Beeper Off -
Cordless Base
(コードレスベース、起動ブザーオフ)



BEPPWR1.
* Power Up Beeper On -
Scanner
(スキャナ、起動ブザーオン)



BASPWR1.
Power Up Beeper On -
Cordless Base
(コードレスベース、起動ブザーオン)

ブザーオン—BELキャラクタ

ホストからのコマンドに対してブザーを鳴らしたい場合は、下のBeep on BEL On バーコードを読み取ってください。スキャナがホストからBEL キャラクタを受信するたびにブザーが鳴ります。

初期設定= Beep on BEL Off



BELBEP0.
*Beep on BEL Off(BELブザーオフ)



BELBEP1.
Beep on BEL On(BELブザーオン)

トリガークリック

トリガーを引くたびにクリック音が聞こえるようにしたい場合は、下のTrigger Click On
バーコードを読み取ってください。クリック音が聞こえないようにするには、Trigger Click Off
コードを読み取ります。(シリアルもしくは自動トリガーには影響しません)
初期設定= Trigger Click Off



BEPTRG0.

*Trigger Click Off(トリガークリックオフ)



BEPTRG1.

Trigger Click On(トリガークリックオン)

グッドリードインジケータ

ブザー—グッドリード

グッドリードに対応するブザーをOnまたはOffに設定できます。このオプションを
オフにすると、グッドリード表示へのブザー応答だけをオフにします。エラーおよび
メニューのブザーはまだすべて鳴動します。初期設定=Beeper -Good Read On



BEPBEP0.

Beeper - Good Read Off
(グッドリードブザーオフ)



BEPBEP1.

*Beeper - Good Read On
(グッドリードブザーオン)

ブザー音量—グッドリード

グッドリードでスキャンが出すブザーの音量を変更します。
初期設定 = High



BEPLVL1.
Low (低)



BEPLVL2.
Medium (中)



BEPLVL3.
* High (高)



BEPLVL0.
Off (オフ)

ブザーピッチ—グッドリード

グッドリードでスキャンが発するブザー音のピッチ（周波数）を変更します。
初期設定 = Medium



BEPFQ11600.
Low (1600 Hz) (低)



BEPFQ12700.
* Medium (2700 Hz) (中)



BEPFQ14200.
High (4200 Hz) (高)

ブザーピッチ - エラー

バッドリードやエラーでスキャンが発するブザー音のピッチ（周波数）を変更します。
初期設定=Razz



BEPFQ2250.

* Razz (250 Hz)(低)



BEPFQ23250.

Medium (3250 Hz)(中)



BEPFQ24200.

High (4200 Hz)(高)

ブザー長 - グッドリード

グッドリードでスキャンが発するブザー音の長さを変更します。
初期設定= Normal



BEPBIP0.

* Normal Beep(ノーマル)



BEPBIP1.

Short Beep(短)

LED - グッドリード

グッドリードに対応する正読 LED をOn または Off に設定できます。
初期設定 = On



BEPLED1.

* LED - Good Read On(LED グッドリードオン)



BEPLED0.

LED - Good Read Off (LED グッドリードオフ)

ブザー回数-グッドリード

グッドリードのブザー回数を1～9に設定できます。グッドリードに対応し、ブザーとLEDに同じブザー回数適用されます。例えば、このオプションをブザー5回に設定すると、グッドリードに対応してブザーが5回鳴り、LEDが5回点滅します。ブザーとLEDの点滅は互いに同期しています。ブザー回数を変更するときは、次のバーコードを読み取り、次に裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**から数字(1～9)バーコードとSave バーコードを読み取ってください。初期設定=1



BEPRPT.

Number of Good Read Beeps/LED Flashes
(グッドリードのブザー、LED回数)

ブザー回数-エラー

バッドリードやエラーの際にスキャナから発せられるブザーやLEDの点滅回数を1～9のうちで設定できます。例えば、このオプションをブザー5回に設定すると、エラーに対応してブザーが5回鳴り、LEDが5回点滅します。ブザー回数を変更するときは、次のバーコードを読み取り、次に裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**から数字(1～9)バーコードとSave バーコードを読み取ってください。初期設定=1



BEPERR.

Number of Error Beeps/LED Flashes
(エラー時のブザー、LED回数)

グッドリードディレイ

別のバーコードを読み取るまでの最短時間を設定します。初期設定 = 0 ミリ秒 (No Delay)



DLYGRD0.

* No Delay (ディレイ無し)



DLYGRD500.

Short Delay (500 ms) (短ディレイ)



DLYGRD1000.

Medium Delay (1,000 ms) (中ディレイ)



DLYGRD1500.

Long Delay (1,500 ms) (長ディレイ)

ユーザ指定のグッドリードディレイ

グッドリードディレイに独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、裏表紙の内側から数字を読み取ってディレイ(0~ 30,000ミリ秒)を設定し、最後にSaveを読み取ります。



DLYGRD.

User-Specified Good Read Delay
(グッドリードディレイユーザ指定)

マニュアル/シリアルトリガーモード

マニュアルトリガー

マニュアルトリガーモードの場合、バーコードが読み取られるまで、もしくはトリガーを放すまで読み取りを行います。これにはNormal(ノーマル)とEnhanced(強化)の二つのモードが可能です。ノーマルモードでは、高速で(フィールドの深さ)範囲が広い動作を行います。強化モードでは、最速の読み取りを行います。強化モードより範囲が少し狭くなります。強化モードは広い動作範囲を必要とせず、高速処理を行いたいときに適しています。



PAPHHF.

•Manual Trigger - Normal
•(マニュアルトリガー、ノーマル)



PAPHHS.

Manual Trigger - Enhanced
(マニュアルトリガー、強化)

シリアルトリガー

トリガーを引くか、シリアルトリガーコマンドを用いることで、スキャナを動作させることができます。(11-4ページの**トリガーコマンド**を参照)。シリアルトリガーモードでは、バーコードを読み取るか、停止コマンドが送信されるまで読み取り動作を継続します。指定時間が過ぎた後に自動的にオフになるようにスキャナを設定することもできます(このあとの**リードタイムアウト**を参照)。

リードタイムアウト

スキャンをシリアルコマンドでトリガーする場合、この設定でトリガーのタイムアウト(ミリ秒単位)を設定します。スキャナが一旦タイムアウトになった後は、トリガーを引くかシリアルトリガーコマンドを用いて動作させることができます。**Read Time-Out**のバーコードを読み取り、裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**から数字を読み取って、タイムアウト時間(0~ 300,000ミリ秒)を設定し、次に**Save**を読み取ります。初期値= 30,000ミリ秒



TRGSTO.

Read Time-Out(リードタイムアウト)

スキャナパワータイムアウトタイマー

注:スキャナパワータイムアウトタイマーはコードレスシステムのみお使いいただけます。コード付きシステムでは使用できません。

指定された時間内に何も動作がなければ、スキャナは低出力モードに切り替わります。タイムアウト時間(秒)を変更するには、それに適したスキャナパワータイムアウトバーコードを読み取ってください。
注:0を読み取った場合は、タイムアウトを設定していないのと同様になります。

低出力タイムインターバルの間スキャナがアイドルのまましていると、低出力モードになります。トリガーを引くと低出力タイムアウトタイマーがリセットされます。スキャナが充電ベース台にあり、バッテリーが充電中の場合、スキャナは低出力モードに切り替わりません。
初期値 = 3600 秒



BT_LPT0.
0 seconds (0秒)



BT_LPT200.
200 seconds (200秒)



BT_LPT400.
400 seconds (400秒)



BT_LPT900.
900 seconds (900秒)



BT_LPT3600.
* 3600 seconds (3600秒)



BT_LPT7200.
7200 seconds (7200秒)

注: スキャナの低出力モード時に、ユニットの出力を動作させるには、トリガーを引いてください。ブザーが鳴り、無線接続のために数秒のデレイがあります。その後スキャナをご使用になれます。

プレゼンテーションモード

プレゼンテーションモードでは、周囲の照明を使ってバーコードを検知します。プレゼンテーションモードで動作するように設定すると、LEDはバーコードがスキャナに示されるまで消されており、バーコードを示されると、自動的に点灯して読み取ります。室内の照明が暗いと正常に機能しないことがあります。

注:プレゼンテーションモードでコードレスチャージベースをご使用の場合、通信ベースの補助電源ポートに電源がつながれるまでは、バッテリーは充電を行いません。



TRGMOD3.

Presentation Mode
(プレゼンテーションモード)

デコード後のプレゼンテーションLEDの動作

スキャナがプレゼンテーションモードにあるとき、バーコードをデコードした後の短い間、LEDは点灯したまま読み取りを続けます。バーコードをデコードした後、直ちにLEDを消灯したい場合は、次のLEDs Offバーコードを読み取ってください。
初期設定=LEDs On



TRGPCK1.

* LEDs On(LEDオン)



TRGPCK0.

LEDs Off (LEDオフ)

プレゼンテーション感度

プレゼンテーション感度とは、バーコードのプレゼンテーションモードに対するスキャナの反応時間を増減させる数値基準です。感度を設定するには、Sensitivityバーコードを読み取り、裏表紙の内側から感度(0~20)を読み取り、次にSaveを読み取ります。最も感度の高い設定が0で、最も低い設定は20です。
初期設定=1



TRGPMS.

Sensitivity(感度)

スタンド内センサーモード

この機能は、スキャナがスタンドから離れており、マニュアルトリガリングを行うことを知らせるものです。Sensor Onが有効なとき、スキャナはスタンド内では、ストリーミングプレゼンテーションモードをデフォルトとし、スタンド外の場合は、マニュアルトリガーモードをデフォルトとします。初期設定 = Sensor On



TRGSSW1.

* Sensor On(センサーオン)



TRGSSW0.

Sensor Off (センサーオフ)

注:画像取り込み(8-1ページからのイメージングコマンドを参照)の場合は、スタンド内センサーモードをオフにしてください。

ストリーミングプレゼンテーションモード(ノーマル、強化、または携帯電話)をスタンド内での読み込みとして設定し、マニュアルトリガーモード(ノーマル、強化、または携帯電話)をスタンド外での読み取りに設定したい場合は、お好みのストリーミングプレゼンテーションモード(下記)をまず読み取り、その後ご使用希望のマニュアルトリガーモード(4-6ページ、4-11ページ)を読み取ります。

ストリーミングプレゼンテーション™ モード

ストリーミングプレゼンテーションモードを設定すると、スキャナのエイマーは短時間後消えますが、スキャナの照明はバーコードを探すために継続して常時維持されます。これにはNormal(ノーマル)とEnhanced(強化)の2つのモードが可能です。ノーマルモードは高速で(フィールドの深さ)範囲が広い動作を行います。強化モードでは、最速の読み取りを行います。ノーマルモードより範囲が少し狭くなります。強化モードは広い動作範囲を必要とせず、高速処理を行いたいときに適しています。



PAPSPN.

Streaming Presentation Mode

- Normal

(ストリーミングプレゼンテーションモード、ノーマル)



PAPSPE.

Streaming Presentation Mode

- Enhanced

(ストリーミングプレゼンテーションモード、強化)

優先シンボル(4-17ページ)を使用しているとき、優先順位の低いシンボルはエイミングパターンの中央に置かれ、ストリーミングプレゼンテーションモードで読み取られます。

ストリーミングプレゼンテーションモードでは、画像を取り込むことはできません。画像取り込みの場合は、[Image Snap and Ship](#)を読み取ってください(4-12ページ参照)。

注:コードレスの充電ベースをご使用の場合、ストリーミングプレゼンテーションモードを正常に動作させるには、補助ポートに差し込まれた外部電源が必要です。

ストリーミングプレゼンテーションのスタンド内設定

このオプションは4-10ページの**スタンド内センサーモード**をご使用の際にお使いいただけます。スタンド内での読み取りに対し、特定のストリーミングプレゼンテーションモードを設定いただけます。まず、ご希望のストリーミングプレゼンテーションモード(ノーマル、強化、携帯電話)を読み取り、その後ご希望のマニュアルトリガーモード(ノーマル、強化、携帯電話)を読み取ってください。

携帯電話読み取りモード

このモードを選択すると、お使いのスキヤナは 携帯電話やその他のLEDのバーコード読み取りに最適化されます。しかし、このモードでは、印刷されたバーコードの読み取り速度は少し遅くなります。携帯電話読み取りモードはハンドヘルド機器やハンドフリー(プレゼンテーション)アプリケーションのときにもご使用になれます。



PAPHHC.

Hand Held Scanning - Mobile
Phone

(ハンドヘルド読み取り、携帯電話)



PAPSPC.

Streaming Presentation -
Mobile Phone

(ストリーミングプレゼンテーションモード、携帯電話)

注:携帯電話読み取りモードをオフにするには、*Manual* もしくは *Serial Trigger Mode* バーコード(4-6ページ参照)を読み取ります。

画像撮影と送信

Image Snap and Ship (画像撮影と送信)では、トリガーが引かれるとスキャナが (バーコードよりも) 写真を撮るように設定します。写真が撮影されると、デフォルト設定は jpeg ファイルとしてホストに送られます。バーコード読み取りに変えたい場合は、異なる トリガーマード (4-6 ページからの [マニュアル / シリアルトリガーマード](#) 参照) に変更してください。



TRGMOD6.

Image Snap and Ship (画像撮影と送信)

注: このコードには RS232 インターフェースをご使用ください。それ以外では、[マニュアル / シリアルトリガーマード](#) (11-18 ページ参照) のシリアルコマンドを送信するまでメニューコードは動作しません。

ハンズフリータイムアウト

スキャンスタンド、プレゼンテーションモードは「ハンズフリー」モードと呼ばれます。ハンズフリーモードを使用中にトリガーを引くと、マニュアルトリガーマードに変わります。ハンズフリータイムアウトを設定することで、スキャナがマニュアルトリガーマードのままでの時間を設定できます。タイムアウト値に達すると (さらにトリガーが引かれなければ)元のハンズフリーモードに戻ります。

Hands Free Time-Out のバーコードを読み取り、裏表紙の内側からタイムアウト時間 (0 ~ 300,000 ミリ秒) を読み取り、次に Save を読み取ります。

初期設定 = 5,000 ms



TRGPTO.

Hands Free Time-Out (ハンズフリータイムアウト)

リリードディレイ

同じバーコードを 2 回目に読み取るまでの間隔を秒単位で設定します。リリードディレイを設定することで、同じバーコードを誤って再読み取りするのを防ぎます。ディレイを長くすると、再読み取りエラーを最小限にするのに効果的です。

バーコードの繰り返し読み取りが必要な用途に対しては、ディレイを短くします。リリードディレイが動作するのは、**プレゼンテーションモード** (4-9 ページ) のときだけです。

初期設定 = Medium



DLYRRD500.
Short (500 ms)(短)



DLYRRD750.
* Medium (750 ms)(中)



DLYRRD1000.
Long (1000 ms)(長)



DLYRRD2000.
Extra Long (2000 ms)(超長)

ユーザ指定のリリードディレイ

リリードディレイに独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、裏表紙の内側から数字を読み取ってディレイ(0 ~ 30,000 ミリ秒)を設定し、最後に **Save** を読み取ります。



DLYRRD.

User-Specified Reread Delay (ユーザ指定リリードディレイ)

照明ライト

バーコードの読み取り中に照明ライトをオンにしたい場合は、次の **Lights On** のバーコードを読み取ります。ただし、単にライトをオフしたい場合は、**Lights Off** のバーコードを読み取ります。

初期設定 = Lights On

注: この設定は、エイマーライトには無効です。エイミングライトは、**エイマーモード** (4-15 ページ) で設定できます。



SCNLED1.
* Lights On (ライトオン)



SCNLEDO.
Lights Off (ライトオフ)

エイマーディレイ

オペレータがスキャナの狙いを定めてピクチャを取り込むまでのディレイ時間を設定します。これらのコードで、トリガーを引いてからピクチャを取り込むまでの時間を設定します。ディレイ時間の間はエイミングライトが照射されますが、ディレイ時間を過ぎるまでLEDは点灯しません。初期設定 =Off



SCNDLY200.

200 milliseconds (200ミリ秒)



SCNDLY400.

400 milliseconds (400ミリ秒)



SCNDLY0.

* Off (no delay)(オフ、ディレイ無し)

ユーザ指定のエイマーディレイ

ディレイ時間に独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数字(0 ~ 4,000 ミリ秒)を読み取ってタイムアウト時間を設定し、Save を読み取ります。



SCNDLY.

Delay Duration(ディレイ時間)

スキャナのタイムアウト

注:スキャナのタイムアウトはコード付きスキャナにのみ対応しています。コードレスシステムではご使用になれません。

スキャナタイムアウト機能は、指定された時間デバイスにアイドル状態が続くと低出力へと切り替えます。スキャンが低出力になるのを防ぐには、このタイムアウトを0に設定します。Scanner Time-Outを読み取り、本書の裏表紙の内側から数字(0 ~ 999,999ミリ秒)を読み取ってタイムアウトを設定し、Saveを読み取ってください。初期値 = 1 ms



SDRTIM.

Scanner Time-Out(スキャナタイムアウト)

エイマーモード

この機能はエイマーのオン／オフを行うものです。Interlaced のバーコードを読み取ると、エイマーと照明LEDは同時に点灯できません。初期設定 = Interlaced



SCNAIM0.
Off(オフ)

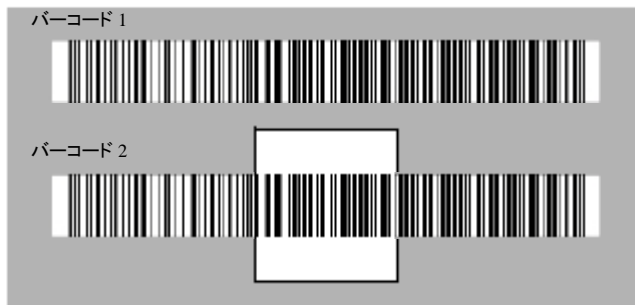


SCNAIM2.
* Interlaced (非同時)

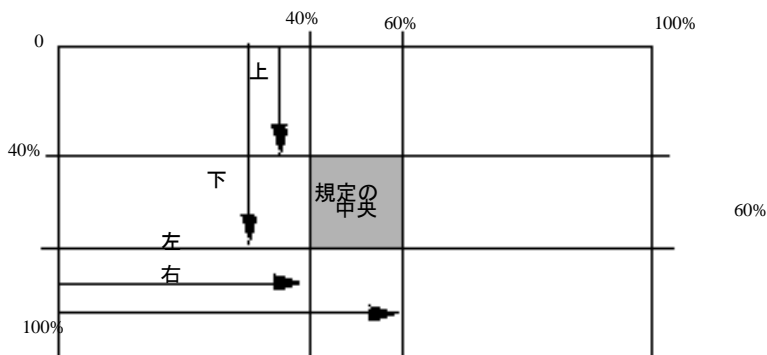
センタリング

希望のバーコードだけを確実に読み取るようにするには、センタリングを使用してスキャナの視界を狭めます。例えば、複数のバーコードが接近している場合は、センタリングで希望のバーコードだけを確実に読み取ります。(センタリングは、複数のバーコードが接近して配置されているアプリケーションで最もエラーの少ない動作をするように、4-14 ページのエイマーディレイというしよに使用できます。エイマーディレイ機能とセンタリング機能を併用すると、リニアレーザーバーコードスキャナなどの旧式システムの動作をエミュレーションできます。)

次の例では、グレイの領域がスキャナの全視界であり、白い領域がセンタリングウィンドウです。バーコード 1 は読み取りませんが、バーコード 2 は読み取ります。



初期設定のセンタリングウィンドウは、スキャナの視野の中央で面積は169x128ピクセルです。次の図は、既定の上下左右のピクセル位置を示します。844 x 640ピクセルのスキャナの視野を上と左から測った場合です。



バーコードがあらかじめ定義されたウィンドウ内になければ、スキャナはデコードも出力もしません。Centering Onを読み取ってセンタリングをオンにすると、Top、Bottom、Left、または Right のバーコードで指定したセンタリングウィンドウを横切るコードだけを読み取ります。

Centering Onを読み取り、次のバーコードをどれか読み取ることでセンタリングウィンドウの上下左右いずれかが変更できます。次に本書の裏表紙の内側にある数字を用いて、センタリングウィンドウを移動するパーセンテージを読み取り、その後 Save を読み取ります。

初期設定センタリング = Top と Left が 40%、Bottom と Right が 60%



DECWIN1.
Centering On (センタリングオン)



DECWIN0
*Centering Off (センタリングオフ)



DECTOP
Top of Centering Window (センタリングウィンドウ上)



DECBOT
Bottom of Centering Window (センタリングウィンドウ下)



DECLFT.
Left of Centering Window (センタリングウィンドウ左)



DECRGT.

Right of Centering Window (センタリングウィンドウ右)

優先シンボル

両方のバーコードシンボルが同じラベルに表示されているが、優先順位の低い方のシンボルを無効にできない場合、ある一つのシンボルを他のシンボルよりも優先順位が高いものとして指定することができます。

例えば、UPC シンボルを読み取るために小売設定でスキャナを使用している場合に、運転免許証のバーコードを読み取らなければならない場合があります。一部の免許証には Code 39 シンボルのほかに PDF417 シンボルもありますが、優先シンボルを使用すると、Code 39 ではなく PDF417 を読み取るよう指定することができます。

優先シンボルは、各シンボルを優先度高、優先度低、または指定なしタイプに分類されます。優先度低のシンボルが現れたとき、スキャナは設定した時間(4-18 ページの「優先シンボルのタイムアウト」を参照)の間、このシンボルを無視し優先度高のシンボルをサーチします。この時間内に優先度高のシンボルが見つかったら、即座にデータが読み取られます。

優先度高のシンボルを読み取る前にタイムアウト期間が過ぎると、スキャナは視界内のバーコード(優先度低または指定なし)を読み取るようになります。タイムアウト期間が過ぎてもスキャナの視界内にバーコードが見つからない場合、データは報告されません。

注: 優先度低のシンボルは、読み取るエイミングパターンの中央に置く必要があります。優先シンボルを有効または無効にするには、以下のバーコードを読み取ってください。

初期設定 = Preferred Symbology Off



PRFENA1
Preferred Symbology On (優先シンボルオン)



PRFENA0
* Preferred Symbology Off (優先シンボルオフ)

優先度高シンボル

優先度高シンボルを指定するには、次の High Priority Symbology バーコードを読み取ります。A-1 ページのシンボルチャートで、優先度高に設定するシンボルを確認します。そのシンボルの Hex 値を確認して、プログラミングチャート(裏表紙の内側)から 2 桁の Hex 値を読み取ります。Save を読み取り、設定を保存します。初期設定 = None



PRFCOD.
High Priority Symbology (優先度高シンボル)

優先度低シンボル

優先度低シンボルを指定するには、次の Low Priority Symbology バーコードを読み取ります。A-1 ページの **シンボルチャート** で、優先度低に設定するシンボルを探します。そのシンボルの Hex 値を確認して、プログラミングチャート(裏表紙の内側)から 2 桁の Hex 値を読み取ります。

優先度低のシンボルをさらに設定したい場合は、FF を読み取った後、次のシンボルに対応する 2 桁の Hex 値をプログラミングチャートから読み取ります。最大 5 つの優先度低シンボルを設定できます。Save を読み取り、設定を保存します。初期設定 = None



PRFBLK

Low Priority Symbology (優先度低シンボル)

優先シンボルのタイムアウト

優先シンボルを有効にし、優先度高および優先度低のシンボルを入力したら、タイムアウト期間を設定する必要があります。これは、優先度低のバーコードが現れた後、スキャナが優先度高のバーコードをサーチする時間です。次のバーコードを読み取り、裏表紙の内側から数字を読み取ってデレイ(0 ~ 3,000 ミリ秒)を設定し、Save を読み取ります。初期値 = 500 ms



PRFPTO

Preferred Symbology Time-out (優先シンボルのタイムアウト)

優先シンボルのデフォルト

次のバーコードを読み取ると、すべての優先シンボル入力がデフォルトに設定されます。



PRFDFT

Preferred Symbology Default (優先シンボルのデフォルト)

アウトプットシーケンスの概要

アウトプットシーケンス条件

オフにすると、バーコードデータはスキャナがデコードしたままホストに出力されます。オンの場合、すべての出力データは設定したシーケンスどおりでなければなりません。合っていない場合は、スキャナは出力データをホスト機器に送信しません。

注: この設定は、マルチプルシンボルがオンのときは使用できません。

アウトプットシーケンスエディタ

この設定により、バーコードが読み取られる順序には関係無く、アプリケーションに必要な任意の順序でデータを出力するように(複数のシンボルを読み取る時)スキャナを設定できます。Default Sequence のシンボルを読み取ると、下記の汎用値にスキャナを設定します。これが初期設定になっています。Default Sequence のシンボルを読み取る前に必ずフォーマットをすべて削除するかクリアしてください。

注: シーケンスで各バーコードを読み取る間は、トリガーを引いたままにしておく必要があります。

注: アウトプットシーケンスエディタを設定するときは、アプリケーションに必要なコードID、コード長、およびキャラクタマッチを知る必要があります。英数字シンボル(裏表紙の内側)を用いてこれらのオプションを読み取ってください。

アウトプットシーケンスの追加

1. Enter Sequence のバーコードを読み取ります。(4-22 ページの [アウトプットシーケンスの概要](#) を参照。)
2. **コードID.**
A-1 ページの [シンボルチャート](#) でアウトプットシーケンスフォーマットを適用するシンボルを確認します。シンボルの Hex 値を確認し、プログラミングチャート(裏表紙の内側)から 2 桁の Hex 値を読み取ります。
3. **コード長**
このシンボルで可能なデータ出力の長さ(最大 9,999 キャラクタ)を指定します。プログラミングチャートから 4 桁のデータ桁数を読み取ってください。(注: 50 キャラクタは 0050 と入力します。9999 は汎用の数字で、すべての長さを示します。)データ桁数を計算するときには、設定したプレフィックス、サフィックス、またはフォーマットしたキャラクタをデータ桁数の一部として数える必要があります。(9999 を使用しない場合。)
4. **キャラクタマッチシーケンス**
A-6 ページの [印刷バーコードのコードページマッピング](#) で、マッチさせたいキャラクタを表す Hex 値を確認します。その後、プログラミングチャートを使用し、ASCII キャラクタを表す英数字の組合せを読み取ります。(99 は汎用の数字で、すべてのキャラクタを示します。)

5. **アウトプットシーケンスエディタの終了**
追加シンボル用にアウトプットシーケンスを入力するときはFFを読み取ります。または Save を読み取って入力を保存します。

他のプログラミング設定

- **Discard**
アウトプットシーケンスの変更を保存しないで終了します。

アウトプットシーケンスの例

この例では、Code 93、Code 128、および Code 39 のバーコード読み取りに際し、下記のように Code 39 をはじめに、次に Code 128 を、Code 93 を三番目に出力するよう読み取りたいとします。

注：この例では、Code 93 がかならず有効でなければなりません。



A - Code 39



B - Code 128



C - Code 93

次のコマンド行でシーケンスエディタを設定します。

```
SEQBLK62999941FF6A999942FF69999943FF
```

コマンド行の内容は次のとおりです。

SEQBLK シーケンスエディタのスタートコマンド

62 Code 39 のコード ID

9999 Code 39 の場合に対応しなければならないコード長、9999:すべての長さ

41 Code 39 に対応するスタートキャラクタ、41h="A"

FF 最初のコードの終了ストリング

6A Code 128 のコード ID

9999 Code 128 の場合に対応しなければならないコード長、9999:すべての長さ

42 Code 128 に対応するスタートキャラクタ、42h="B"

FF 2 番目のコードの終了ストリング

69 Code 93 のコード ID

9999 Code 93 の場合に対応しなければならないコード長、9999:すべての長さ

43 Code 93 に対応するスタートキャラクタ、43h="C"

FF 3番目のコードの終了ストリング

特定のデータ桁数を使用して先の例を設定するには、設定したプレフィックス、サフィックス、またはフォーマットしたキャラクタをデータ桁数の一部として数える必要があります。4-20 ページの例を使用しつつ <CR> サフィックスと特定のコード長を想定する場合は、次のコマンド行を使用します。
SEQBLK62001241FF6A001342FF69001243FF

コマンド行の内容は次のとおりです

```
SEQBLK シーケンスエディタのスタートコマンド
62      Code 39 のコード ID
0012   A - Code 39 のサンプル長(11)+ CR サフィックス(1) = 12
41     Code 39 に対応するスタートキャラクタ、41h="A"
FF     最初のコードの終了ストリング
6A     Code 128 のコード ID
0013   B - Code 128 のサンプル長(12)+ CR サフィックス(1) = 13
42     Code 128 に対応するスタートキャラクタ、42h="B"
FF     2番目のコードの終了ストリング
69     Code 93 のコード ID
0012   C - Code 93 のサンプル長(11)+ CR サフィックス(1) = 12
43     Code 93 に対応するスタートキャラクタ、43h="C"
FF     3番目のコードの終了ストリング
```

アウトプットシーケンスエディタ



SEQBLK
Enter Sequence (シーケンス入力)



SEQDFT.
Default Sequence (シーケンス初期設定)

パーティカルシーケンス

アウトプットシーケンス操作がすべての出力シーケンス基準がマッチする前に終了された場合、そこまでに得られたバーコードデータが「パーティカルシーケンス」となります。

Discard Partial Sequenceを読み取ると、アウトプットシーケンス操作が途中で中断されたパーティカルシーケンスを放棄します。パーティカルシーケンスを送信するには、Transmit Partial Sequenceを読み取ります。(マッチするデータがないシーケンスのフィールドは出力時にスキップされます。)



SEQTTs1.

Transmit Partial Sequence (パーティカルシーケンス送信)



SEQTS0.

•Discard Partial Sequence
•(パーティカルシーケンス放棄)

アウトプットシーケンス条件

アウトプットシーケンスが **Required** のとき、出力データはすべて設定シーケンスどおりでなければなりません。合っていない場合は、スキャナは出力データをホスト機器に送信しません。On/Not Required のときは、編集されたシーケンスに合うように出力データを取得しようとします。取得できなければ、すべての出力データをそのままホスト機器に送信します。オフの場合は、バーコードデータはスキャナがデコードしたままホストに出力されます。初期設定 = Off

注: この設定は、マルチプルシンボル選択がオンになっているときは使用できません。



SEQ_EN2.

Required (要求のみ)



SEQ_EN1.

On/Not Required (要求通りに)



SEQ_EN0.

*Off(オフ)

マルチプルシンボル

このプログラミング設定を **On** にすると、スキャナのトリガーを1回引くだけで複数のシンボルを読み取ることができます。トリガーを引いたまま複数のシンボルをエイミングすると、各シンボルを1回ずつ読み取り、そのつどブザーが鳴ります。(オンの場合。)

スキャナは、トリガーを引いている間は新たなシンボルを探してデコードしようとします。このプログラム設定を **Off** にすると、エイミングビームに最も近いシンボルだけを読み取ります。初期設定 = Off



SHOTGN1.
On(オン)



SHOTGND.
* Off(オフ)

No Read

No Read を **On** にすると、スキャナはコードを読み取れない場合に知らせます。EZConfig Tool Scan Data Window (10-3ページ参照)を使用している場合は、コードを読み取れなかったときに「NR」と表示されます。No Read を **Off** にすると「NR」は表示されません。初期設定 = Off



SHWNRD1.
On(オン)



SHWNRD0.
* Off(オフ)

例えば「Error」や「Bad Code」など「NR」以外を表示したい場合は、出力メッセージを編集できます。(6-1 ページからの [データフォーマット](#) 参照)。No Read シンボルの Hex 値は 9C です。

ビデオリバース

ビデオリバースを使用すると、反転したバーコードを読み取ることができます。下の「Video Reverse Off」バーコードは、この種のバーコードの例です。反転したバーコードのみを読み込む際には、Video Reverse Onlyを読み取ってください。どちらのタイプのコードも読み込む場合は、Reverse and Standard Bar Codesを読み取ってください。

注：Video Reverse Onlyを読み取った後は、メニューバーコードの読み取りができません。メニューバーコードを読み取るには、Video Reverse Off もしくは Video Reverse and Standard Bar Codes を読み込んでください。

注：ユニットからダウンロードされたイメージは反転されません。これは、デコード専用の設定です。



VIDREV1.

Video Reverse Only (ビデオリバースのみ)



VIDREV2

Video Reverse and Standard Bar
Codes

(ビデオリバースとスタンダードバーコード)



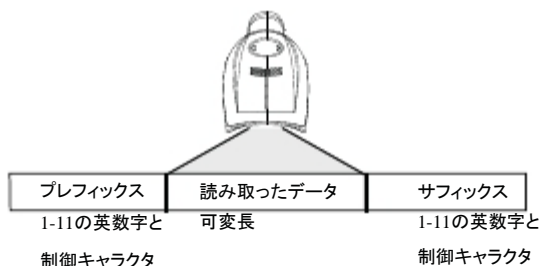
VIDREV0.

* Video Reverse Off (ビデオリバースオフ)

プレフィックス／サフィックスについて

バーコードを読み取ると、追加情報がバーコードデータといっしょにホストコンピュータに送信されます。バーコードデータと追加のユーザ定義データを合わせて「メッセージストリング」と呼びます。この章の設定は、ユーザ定義データをメッセージストリングに組み込むときに使用します。

プレフィックスとサフィックスのキャラクタは、読み取ったデータの前後に送信できるデータキャラクタです。全シンボルと送信するか、特定シンボルとだけ送信するかを指定できます。次の図は、メッセージストリングの中身を示します。



補足

- つねにメッセージストリングを作る必要はありません。この章の設定を使用するのは、初期設定を変更したいときだけです。
初期設定プレフィックス = None、初期設定サフィックス = None
- プレフィックスやサフィックスは、1 シンボルまたは全シンボルに追加・削除できます。
- A-4ページからの [ASCII 換算チャート\(コードページ1252\)](#) でプレフィックスやサフィックスを、どれでもコード ID や AIM ID といっしょに追加できます。
- 1 回の動作で複数のシンボルに対して複数の設定を結合できます。
- 出力で表示したい順にプレフィックスとサフィックスを入力してください。
- (全シンボルではなく)特定のシンボルを設定するとき、そのシンボル ID 値は、追加されたプレフィックスまたはサフィックスのキャラクタと見なします。
- プレフィックス／サフィックスの最大構成はヘッダー情報を含めて200キャラクタです。

プレフィックスまたはサフィックスの追加手順

Step 1. Add Prefix または Add Suffix のバーコードを読み取ります(5-3ページ)。

Step 2. シンボルチャート(A-1からの [シンボルチャート](#)にあります)からプレフィックスまたはサフィックスを適用したいシンボルの 2 桁の Hex 値を確認します。例えば、Code 128 の場合、コード ID は「j」、Hex ID は「6A」です。

Step 3.本書の裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**から2桁の数字を読み取ります。全シンボルの場合は9、9と読み取ります。

Step 4. A-4 ページの **ASCII 換算チャート(コードページ 1252)** から、入力したいプレフィックスまたはサフィックスの Hex 値を確認します。

Step 5.本書の裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**から、確認した2桁の Hex 値を読み取ります。

Step 6.プレフィックスまたはサフィックスのキャラクタごとにStep 4 とStep 5を繰り返します。

Step 7.コード ID を追加するときは、5、C、8、0 を読み取ります。

AIM ID を追加するときは、5、C、8、1 を読み取ります。

バックスラッシュ(\)を追加するときは、5、C、5、C を読み取ります。

注: Step 7 でバックスラッシュ(\)を追加するときは、5C を2回読み取ってください。1 回目で先行バックスラッシュを作成し、次にバックスラッシュ自体を作成します。

Step 8. Save を読み取って保存・終了するか、Discard を読み取って保存せずに終了します。

別のシンボルにプレフィックスまたはサフィックスを追加するときは、Step 1 ~ 6を繰り返します。

例: サフィックスを特定のシンボルに追加する

CR(キャリッジリターン)サフィックスをUPCだけに送信するには:

Step 1. Add Suffix を読み取ります。

Step 2.シンボルチャート(A-1からの**シンボルチャート**にあります)からUPCの2桁のHex 値を確認します。

Step 3.本書の裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**から6、3を読み取ります。

Step 4. A-4 ページの **ASCII 換算チャート(コードページ 1252)** から、CR(キャリッジリターン)の Hex 値を確認します。

Step 5.本書の裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**から、0、Dを読み取ります。

Step 6. Save を読み取ります。もしくはDiscard を読み取って保存せずに終了します。

1 つまたはすべてのプレフィックス・サフィックスの削除

シンボルのプレフィックスまたはサフィックスを1つまたはすべて削除できます。1つのシンボルにプレフィックスやサフィックスを追加したことがある場合、**Clear One Prefix (Suffix)**で特定のキャラクタをシンボルから消去します。また、**Clear All Prefixes (Suffixes)**を選択すると、すべてのプレフィックスまたはサフィックスが削除されます。

Step 1. Clear One Prefix または Clear One Suffix のバーコードを読み取ります。

Step 2. シンボルチャート(A-1からのシンボルチャートにあります)から、プレフィックスまたはサフィックスを削除したいシンボルの 2 桁の Hex 値を確認します。

Step 3. 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから2桁のHex 値を読み取ります。全シンボルの場合は 9、9 を読み取ります。

この変更は自動的に保存されます。

キャリッジリターンサフィックスを全シンボルに追加する

キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに一度に追加したい場合は、次のバーコードを読み取ります。この操作では、まず現在のサフィックスをすべて削除し、次にすべてのシンボルに対してキャリッジリターンサフィックスを設定します。



VSUFCR.

Add CR Suffix

All Symbologies

(全シンボルへのCRサフィックス追加)

プレフィックスの選択肢



PREBK2.

Add Prefix(プレフィックス追加)



PRECL2.

Clear One Prefix(プレフィックス1つ削除)



PRECA2.

Clear All Prefixes (全プレフィックス削除)

サフィックスの選択肢



SUFBK2.

Add Suffix (サフィックス追加)



SUFCL2.

Clear One Suffix (サフィックス1つ削除)



SUFCA2.

Clear All Suffixes (全サフィックス削除)

ファンクションコード送信

この設定が有効で、読み取ったデータにファンクションコードが含まれていると、スキャナはそのファンクションコードをターミナルに送信します。これらのファンクションコードは、9-3 ページからの「[サポートされているインタフェースキー](#)」に記載されています。キーボードウェッジ・モードのとき、読み取りコードはキーコードに変換されてから送信されます。初期設定 = Enable



RMVFNC0.

* Enable (有効)



RMVFNC1.

Disable (無効)

キャラクタ間、ファンクション間、 およびメッセージ間ディレイ

データ送信が速すぎると、ターミナルによっては情報(キャラクタ)を取りこぼすことがあります。キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間ディレイはデータ送信を遅くしますが、データはより確実に送信されます。

キャラクタ間ディレイ

読み取ったデータの各キャラクタを送信する間隔について、最大5000ミリ秒(5ms 単位)のキャラクタ間ディレイを設定できます。次の **Intercharacter Delay** のバーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にある **プログラミングチャート** で5ミリ秒単位の数字と Save のバーコードを読み取ります。



Intercharacter Delay (キャラクタ間ディレイ)

このディレイを削除するときは、**Intercharacter Delay** のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。その後本書の裏表紙の内側にある **プログラミングチャート** で Save のバーコードを読み取ります。

注: キャラクタ間ディレイは、USB のシリアルエミュレーションではサポートされていません。

ユーザ指定のキャラクタ間ディレイ

読み取ったデータの特定のキャラクタ送信の後、最大5000ミリ秒(5ms 単位)でキャラクタ間ディレイを設定できます。下の **Delay Length** のバーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にある **プログラミングチャート** で5ミリ秒単位のディレイ数を読み取ってから、Save のバーコードを読み取ります。

次に、**Character to Trigger Delay** のバーコードを読み取り、A-4 ページの **ASCII換算チャート(コードページ 1252)** で、ディレイをトリガーする ASCII キャラクタの2桁の Hex 値を読み取ります。



Delay Length(ディレイ長)

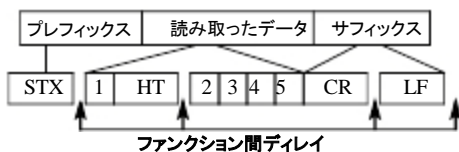


Character to Trigger Delay(トリガーディレイへのキャラクタ)

このディレイを削除するには、**Delay Length** のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。本書の裏表紙の内側にある **プログラミングチャート** で Save のバーコードを読み取ります。

ファンクション間ディレイ

メッセージストリングの各セグメント送信において、最大5000ミリ秒(5ms 単位)のファンクション間ディレイを設定できます。下の **Interfunction Delay** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**で5ミリ秒単位のディレイ数とSaveのバーコードを読み取ってください。



DLYFNC.

Interfunction Delay(ファンクション間ディレイ)

このディレイを削除するときは、**Interfunction Delay** のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。その後、本書の裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**でSaveのバーコードを読み取ります。

メッセージ間ディレイ

読み取り送信において、最大5000ミリ秒(5ms 単位)のメッセージ間ディレイを設定できます。次の **Intermessage Delay** のバーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**で5ミリ秒単位のディレイ数とSaveのバーコードを読み取ります。



DLYMSG.

Intermessage Delay(メッセージ間ディレイ)

このディレイを削除するときは、**Intermessage Delay** のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。その後、本書の裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**でSaveのバーコードを読み取ります。

データフォーマット

データフォーマットエディタについて

データフォーマットエディタを使ってスキヤナの出力を変更できます。例えば、バーコードデータを読み取りながら特定個所にキャラクタを挿入できます。この後のページに記載された設定は、出力を変更したい場合だけに使用してください。データフォーマットの初期設定 = None

通常、バーコードを読み取ると自動的に出力されます。フォーマットをする場合は、フォーマットプログラムの中で「送信」コマンド(6-4ページの「送信コマンド」を参照)でデータを出力する必要があります。

スキヤナには複数のフォーマットのプログラム設定が可能です。入力された順にスタックされます。ただし、次の一覧はフォーマットが適用される順序を示しています。

1. 特定のターミナル ID、実際のコード ID、実際の長さ
2. 特定のターミナル ID、実際のコード ID、汎用の長さ
3. 特定のターミナル ID、汎用のコード ID、実際の長さ
4. 特定のターミナル ID、汎用のコード ID、汎用の長さ
5. 汎用のターミナル ID、実際のコード ID、実際の長さ
6. 汎用のターミナル ID、実際のコード ID、汎用の長さ
7. 汎用のターミナル ID、汎用のコード ID、実際の長さ
8. 汎用のターミナル ID、汎用のコード ID、汎用の長さ

データフォーマットの構成はヘッダー情報を含め、2000バイトが最大サイズです。

データフォーマットの設定を変更を行ったが、フォーマットをすべて削除して工場初期設定に戻したい場合は、下の **Default Data Format** コードを読み取ってください。



DFMD F3.

* Default Data Format (データフォーマット初期設定)

データフォーマットの追加

Step 1. Enter Data Format のシンボルを読み取ります。(6-2 ページ)

Step 2. Primary (基準)もしくはAlternate Format (代用)フォーマットを選択します。

基準のデータフォーマットにするか、または 3 つある代用フォーマットの 1 つにするかを決定します。全部で 4 つの異なるデータフォーマットの方法を保存することができます。基準フォーマットを設定するときは、本書の裏表紙の内側にある **プログラミングチャート** で 0 を読み取ります。代用フォーマットをプログラム設定する場合は、設定する代用フォーマットによって 1、2、または 3 を読み取ります。(詳細については、6-10ページの **基準もしくは代用フォーマット** の項目をご参照ください。)

Step 3. ターミナルの種類

ターミナルID表 (6-4ページ)を参照し、お使いのコンピュータのターミナルIDナンバーを確認します。裏表紙の内側にある3つの数字バーコードを読み取り、そのターミナルIDでスキヤナを設定します。(数字を3つ入力してください。)例えば、AT ウェッジの場合は0、0、3を読み取ります。

注:ターミナル全種のワイルドカードは099です。

Step 4. コード ID

A-1ページからの**シンボルチャート**でデータフォーマットを適用するシンボルを確認します。そのシンボルのHex 値を確認し、本書の裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**から2桁のHex 値を読み取ります。

Step 5. 長さ

このシンボルで可能なデータの長さ(最大 9,999 キャラクタ)を指定します。本書の裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**から4桁のデータ桁数を読み取ります。(注:50 キャラクタは0050と入力します。9999は汎用の数字で、すべての長さを示します。)

Step 6. 編集コマンド

6-4ページを参照してください。入力したいコマンドを表すシンボルを読み取ります。各シンボルデータフォーマットには、94の英数キャラクタを入力できません。

Step 7. データフォーマットの保存には、Saveを読み取ってください。保存しない場合はDiscardを読み取ります。



MNUSAV.
Save(保存)



DFMBK3.

Enter Data Format(データフォーマット入力)



MNUABT.

Discard(設定中止)

他のプログラム設定

Clear One Data Format

1つのシンボルに対してデータフォーマットを1つ削除します。基準フォーマットを削除する場合は、本書の裏表紙の内側にある**プログラミングチャート**から0を読み取ります。代用フォーマットを削除する場合は、削除する代用フォーマットによって1、2、または3を読み取ります。その後、削除したい特定のデータフォーマットのターミナルの種類、コードID（A-1ページの**シンボルチャート**を参照）、およびバーコードデータ桁数を読み取ります。他のフォーマットはすべて影響を受けません。

Clear All Data Formats

すべてのデータフォーマットを削除します。

Save : データフォーマット変更からの保存終了を行います。

Discard : データフォーマットへの変更の保存を行わずに終了します。



DFMCL3.

Clear One Data Format (データフォーマット1つ削除)



DFMCA3.

Clear All Data Formats
(全データフォーマット削除)



MNUSAV.

Save (保存)



MNUABT.

Discard (設定中止)

ターミナルID表

ターミナル	機種	ターミナルID
IBM	PC/AT ならびに互換機	003
	USB SurePOS ハンドヘルドスキャナ	128
	USB SurePOS テーブルトップスキャナ	129
RS232	True	000
	TTL	000
RS485	051	
USB	シリアル	130
	PC キーボード	124
	Macキーボード	125
	日本式 キーボード(PC)	134
	HID POS	131

データフォーマットエディタコマンド

送信コマンド

すべてのキャラクタの送信

- F1 出力メッセージにおける、入力メッセージからのすべてのキャラクタ。現在のカーソル位置から始まり、挿入キャラクタに続きます。Syntax = F1xx (xx は、挿入キャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示しています。小数、Hex 値、キャラクタコードについては、A-4 ページの [ASCII 換算チャート\(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

いくつかのキャラクタの送信

- F2 出力メッセージにおける、1つの挿入キャラクタが続くいくつかのキャラクタ。現在のカーソル位置から、「nn」個のキャラクタまでもしくは、入力メッセージの最後のキャラクタまで。Syntax = F2nnxx (nnはキャラクタの数を示す数字(00~99)で、xx は、挿入キャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示しています。小数、Hex 値、キャラクタコードについては、A-4 ページの [ASCII 換算チャート\(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

特定のキャラクタまでのキャラクタすべてを送信

- F3 出力メッセージにおける、入力メッセージからのすべてのキャラクタ。現在のカーソル位置のキャラクタから始まり、検索キャラクタ「ss」の手前まで。続いて挿入キャラクタとなります。カーソルは「ss」キャラクタへと移動します。Syntax = F3ssxx (nnは検索するキャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示し、xx は、挿入キャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示しています。小数、Hex 値、キャラクタコードについては、A-4 ページの [ASCII 換算チャート\(コードページ 1252\)](#) を参照してください。)

最後のキャラクタ以外を送信

E9 現在のカーソル位置からの最後の「nn」キャラクタをのぞくすべてのアウトプットメッセージの送信。カーソルは最後のインプットメッセージキャラクタが含まれる位置を過ぎたところへ移動します。Syntax = E9nn (nn は、メッセージの最後で送られないキャラクタの数の数値(00~99)を示しています。)

キャラクタの複数回挿入

F4 現在のカーソル位置はそのまま、 「xx」キャラクタを「nn」回出力メッセージで送信します。Syntax = F4xxnn (xx は、挿入キャラクタのASCIIコードに対するHex 値を示し、nn は、送信する回数(00~99)を示しています。小数、Hex 値、キャラクタコードについては、A-4 ページのASCII 換算チャート(コードページ 1252)を参照してください。)

シンボル名の挿入

B3 カーソルを動かすことなく、出力メッセージにバーコードシンボル名を挿入します。含まれるのは、ハネウェル ID のあるシンボルのみです(A-1 ページのシンボルチャートを参照)。
少数、Hex 値、キャラクタコードについては、A-4 ページのASCII換算チャート(コードページ 1252)を参照してください。

バーコード長の挿入

B4 カーソルを動かすことなく出力メッセージにバーコードの長さを挿入します。バーコードの長さは数字のSTRINGによって示され、リード部の0は含まれません。

移動コマンド

前方キャラクタへの移動

F5 カーソルを現在の位置から「nn」キャラクタ先へと移動します。
Syntax = F5nn (nn は、カーソルを前に移動するキャラクタ数(00~99)を示しています。)

後方キャラクタへのバック

F6 カーソルを現在の位置から「nn」キャラクタ分、バックさせます。
Syntax = F6nn (nn は、カーソルをバックさせるキャラクタ数(00~99)を示しています。)

カーソルを先頭に

F7 カーソルを入力メッセージの先頭キャラクタに移動させます。Syntax =F7

カーソルをエンドに移動

- EA カーソルを入力メッセージの最終キャラクタに移動します。
Syntax = EA

検索コマンド

前方のキャラクタ検索

- F8 入力メッセージから現在のカーソル位置より前方にある「xx」キャラクタを検索し、カーソルは「xx」キャラクタに移動します。Syntax = F8xx (xx は、検索するキャラクタのASCII コードに対する Hex 値を示しています。小数、Hex 値、キャラクタコードについては、A-4 ページの [ASCII 換算チャート \(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

後方のキャラクタ検索

- F9 入力メッセージから現在のカーソル位置より後方にある「xx」キャラクタを検索し、カーソルは「xx」キャラクタに移動します。Syntax = F9xx (xx は、検索するキャラクタのASCII コードにコードに対する Hex 値を示しています。小数、Hex 値、キャラクタコードについては、A-4 ページの [ASCII 換算チャート \(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

前方のSTRING検索

- B0 現在のカーソル位置より前方にある「s」STRINGを検索し、カーソルは「s」STRINGに移動します。Syntax = B0nnnnS。nnnn はSTRINGの長さ(9999まで)で、Sは対応するSTRINGの各キャラクタのASCII Hex 値からなっています。例えば、B0000454657374では初めて4キャラクタのSTRINGが登場する「Test」を前方検索します。小数、Hex 値、キャラクタコードについてはA-4 ページの [ASCII 換算チャート\(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

後方のSTRING検索

- B1 現在のカーソル位置より後方にある「s」STRINGを検索し、カーソルは「s」STRINGに移動します。Syntax = B1nnnnS。nnnn はSTRINGの長さ(9999まで)で、Sは対応するSTRINGの各キャラクタのASCII Hex 値からなっています。例えば、B1000454657374では初めて4キャラクタのSTRINGが登場する「Test」を後方検索します。小数、Hex 値、キャラクタコードについてはA-4 ページの [ASCII 換算チャート\(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

マッチしないキャラクタの前方検索

- E6 入力メッセージから現在のカーソル位置より前方にある「xx」以外のキャラクタを検索し、カーソルは「xx」ではないキャラクタに移動します。Syntax = E6xx。xx は、検索キャラクタのASCII コードにコードに対する Hex 値を示しています。
小数、Hex 値、キャラクタコードについてはA-4 ページの [ASCII 換算チャート \(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

マッチしないキャラクタの後方検索

- E7 入力メッセージから現在のカーソル位置より後方にある「xx」以外のキャラクタを検索し、カーソルは「xx」ではないキャラクタに移動します。
Syntax = E7xx。xx は、検索キャラクタの ASCII コードにコードに対する Hex 値を示しています。

小数、Hex 値、キャラクタコードについてはA-4 ページの [ASCII 換算チャート\(コードページ 1252\)](#)を参照してください。

その他のコマンド

キャラクタ無効

- FB カーソルを他のコマンドで進めると、現在のカーソル位置から最大 15 の別のキャラクタをすべて無効にします。FC コマンドを実行すると、このファンクションは停止します。カーソルは、FB コマンドでは移動しません。
Syntax = FBnnxxyy .zz。nn は、リストにある無効キャラクタの数、xxyy..zzは、無効にするキャラクタのリストです。

キャラクタ無効の停止

- FC 無効化フィルタを使用不能にし、無効になったキャラクタをすべて削除します。Syntax = FC

キャラクタの変更

- E4 出力メッセージにある最大 15 のキャラクタをカーソル移動なしに変更します。変更は、E5 コマンドを実行するまで続きます。Syntax =
E4nnxx1xx2yy1yy2...zz1zz2。nn は (変更前のキャラクタと変更後) のキャラクタの合計です。xx1 は、変更前のキャラクタを、xx2 は変更後のキャラクタを定義します。zz1 と zz2 まで同様です。

キャラクタ変更の停止

- E5 キャラクタ変更を停止します。Syntax = E5

キャラクタの比較

- FE 現在のカーソル位置のキャラクタをキャラクタ「xx」と比較します。キャラクタが同じ場合は、カーソルを 1 つ進めます。
Syntax = FExx (xx は、比較するキャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示しています。

小数、Hex 値、キャラクタコードについてはA-4 ページの [ASCII 換算チャート\(コードページ 1252\)](#)を参照してください。

ストリングの比較

- B2 入力メッセージでストリングをストリング「s」と比較します。ストリングが同じ場合は、カーソルをそのストリングの末尾まで移動します。Syntax = B2nnnnS。nnnn はストリングの長さ(9999まで)で、Sは対応するストリングの各キャラクタの ASCII Hex 値からなっています。

例えば、B2000454657374 は現在のカーソル位置のSTRINGと4つのキャラクターSTRING「Test」を比べます。

小数、Hex 値、キャラクターコードについてはA-4 ページの [ASCII 換算チャート\(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

数字チェック

- EC 現在のカーソル位置に ASCII 数字があることを確認します。キャラクター数字でない場合は、フォーマットを中止します。Syntax = EC

非数字キャラクターチェック

- ED 現在のカーソル位置に ASCII 数字以外のキャラクターがあることを確認します。キャラクターが数字の場合は、フォーマットを中止します。Syntax = ED

ディレイの挿入

- EF 現在のカーソル位置から49,995ミリ秒までの(5ミリ秒単位)ディレイを挿入します。Syntax = Efnnnn。nnnn は5ミリ秒単位でのディレイを示し、9999までです。このコマンドはキーボードウェッジインターフェースの場合にのみ、使用可能です。

データフォーマッタ

データフォーマッタをオフにすると、プレフィックスとサフィックスを含め、バーコードデータは読み取ったままホストに出力されます。



DFM_ENO.

Data Formatter Off(データフォーマッタオフ)

データをお客様が作成・保存なさったデータフォーマットに合致させたい場合、以下の設定をデータフォーマットに適用することができます。

Data Formatter On, Not Required, Keep Prefix/Suffix

読み取ったデータはお客様のデータフォーマットに合わせて調整され、プレフィックス、サフィックスも送られます。

Data Formatter On, Not Required, Drop Prefix/Suffix

読み取ったデータはデータフォーマットに合わせて調整されます。データフォーマットが特定のシンボルの場合、それらのプレフィックス、サフィックスは送信されません。

Data Format Required, Keep Prefix/Suffix

読み取ったデータはデータフォーマットに合わせて調整され、プレフィックス、サフィックスが送信されます。お客様のデータフォーマットに合わないデータの場合はすべてエラーブザーが鳴らされ、そのバーコードのデータは送信されません。エラーブザー無しでこのタイプのバーコード操作を行いたい場合は、[データフォーマット不適合エラーブザー](#)をご覧ください。

Data Format Required, Drop Prefix/Suffix

読み取ったデータはデータフォーマットに合わせて調整されます。
データフォーマットが特定のシンボルである場合、これらのプレフィックス、
サフィックスが送信されません。お客様のデータフォーマットに合わないデータの場合は
すべてエラーブザーが鳴らされます。エラーブザー無しでこのタイプのバーコード操作を
行いたい場合は、**データフォーマット非適合エラーブザー**をご覧ください。

操作は以下から1つ選んでください。初期設定 = Data Formatter On, Not
Required, Keep Prefix/Suffix



DFM_EN3.

Data Formatter On, (データフォーマットオン)
Not Required, (要求なし)
Drop Prefix/Suffix (プレフィックス・サフィックスなし)



DFM_EN4.

Data Format Required, (データフォーマット要求)
Drop Prefix/Suffix (プレフィックス・サフィックスなし)



DFM_EN1.

* Data Formatter On, (データフォーマットオン)
Not Required, (要求なし)
Keep Prefix/Suffix
(プレフィックス・サフィックスあり)



DFM_EN2.

Data Format Required,
(データフォーマット要求)
Keep Prefix/Suffix
(プレフィックス・サフィックスあり)

データフォーマット非適合エラーブザー

お客様が要望するデータフォーマットに合わないバーコードが読み込まれた場合は、
通常、スキャナがエラーブザーを鳴らします。しかし、エラーブザーを聞くことなく
バーコード読み込みを続けたい場合もあります。Data Format Non-Match Error Tone Off
バーコードを読み込むと、データフォーマットと一致しなかったデータは送信されず、
エラーブザーもありません。非適合のバーコードがあったときにエラーブザーを
聞きたい場合は、Data Format Non-Match Error Tone On バーコードを読み取ってください。
初期設定 = Data Format Non-Match Error Tone On



DFMDECO.

* Data Format Non-Match Error
Tone On
(データフォーマット非適合エラーブザーオン)



DFMDEC1.

Data Format Non-Match
Error Tone Off
(データフォーマット非適合エラーブザーオフ)

基準／代用データフォーマット

データフォーマットは4種類保存することができ、それらのフォーマットを切り換えることができます。基準データフォーマットの場合は、0で保存してください。それ以外のフォーマットは1、2、3のどれかで保存してください。フォーマットが使えるようにするには、以下のバーコードのいずれか1つを読み取ってください。



ALTFNM0.

Primary Data Format
(基準データフォーマット)



ALTFNM1.

Data Format 1
(データフォーマット1)



ALTFNM2.

Data Format 2
(データフォーマット2)



ALTFNM3.

Data Format 3
(データフォーマット3)

シングルスキャンデータフォーマット変更

一回の読み取りだけでデータフォーマットの切り替えができます。以下のバーコードを代用データフォーマットで読み取り、上記で選択したフォーマット(基準、もしくは1、2、3)へと戻します。

例えば、データフォーマット3で機器を設定しているとします。下の
Single Scan-Data Formatバーコードをトリガーを一回引くことで読み取り、
データフォーマット1へと切り換えます。次のバーコードはデータフォーマット1で
読み取られ、またデータフォーマット3へと戻ります。



VSAF_1.

Single Scan-Data Format 1
(読み取り1回-データフォーマット1)



VSAF_3.

Single Scan-Data Format 3
(読み取り1回-データフォーマット3)



VSAF_0.

Single Scan-Primary
Data Format1
(読み取り1回-基準データフォーマット)



VSAF_2.

Single Scan-Data Format 2
(読み取り1回-データフォーマット2)



この章では、以下のメニュー項目について説明します。設定と初期設定については、[第 11 章](#)を参照してください。

- All Symbolologies (全シンボル)
- Aztec Code (アズテックコード)
- China Post (Hong Kong 2 of 5) (中国郵政)
- Chinese Sensible (Han Xin) Code (漢信コード)
- Codabar (コーダーバー)
- Codablock A
- Codablock F
- Code 11
- Code 128
- Code 32 Pharmaceutical (PARAF)
- Code 39
- Code 93
- Data Matrix
- EAN/JAN-13
- EAN/JAN-8
- GS1 Composite Codes
- GS1 DataBar Expanded
- GS1 DataBar Limited
- GS1 DataBar Omnidirectional
- GS1 Emulation ([GS1](#) エミュレーション)
- GS1-128
- Interleaved 2 of 5 (インターリーブド 2 of 5)
- Korea Post (韓国郵政)
- Matrix 2 of 5 (マトリックス 2 of 5)
- MaxiCode (マキシコード)
- MicroPDF417
- MSI
- NEC 2 of 5
- Postal Codes - 2D (ポスタルコード—2D)
- Postal Codes - Linear (ポスタルコード—1次元)
- PDF417
- GS1 DataBar Omnidirectional
- QR Code ([QR](#) コード)
- Straight 2 of 5 IATA (two-bar start/stop)
- Straight 2 of 5 Industrial (three-bar start/stop)
- TCIF Linked Code 39 (TLC39)
- Telepen
- Trioptic Code
- UPC-A
- UPC-A/EAN-13 with Extended Coupon Code (拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13)
- UPC-E0
- UPC-E1

全シンボル

お使いのスキヤナで可能なシンボルをすべてデコードしたい場合は、**All Symbolologies On** のバーコードを読み取ります。特定のシンボルだけを読み取りたい場合は、**All Symbolologies Off** を読み取り、その後その特定シンボルに対して **On** バーコードを読み取ります。



ALLEN.A1.

All Symbolologies On(全シンボルオン)



ALLEN.A0.

All Symbolologies Off(全シンボルオフ)

注: *All Symbolologies On* を読み取ると、*2D* の郵便コードはご使用になれません。
2D 郵便コードは別に使用可能にしてください。

読み取り桁数について

バーコードシンボルによっては、有効読み取り桁数を設定できます。読み取ったバーコードのデータ桁数が有効読み取り桁数と一致しなければ、エラーブザーが鳴ります。スキヤナに強制的に一定桁数のバーコードデータを読み取らせるため、最短と最長を同じ値に設定できます。これは、読み取りエラーを減らすのに役立ちます。

例: 文字数が 9 ~ 20 のバーコードだけをデコードする。

最短: 09、最長: 20

例: 文字数が 15 のバーコードだけをデコードする。

最短: 15、最長: 15

初期設定の最短および最長読み取り桁数以外の値にする場合は、そのシンボルの説明に含まれているバーコードを読み取り、次に本書の裏表紙の内側にある **プログラミングチャート** の読み取り桁数の数値と **Save** のバーコードを読み取ります。最短と最長、および初期設定は、それぞれのシンボルといっしょに記載されています。

<Default All Codabar Settings>
(コーダバー全設定の初期化)



CBRDFT.

コーダバーのオン/オフ



CBRENA1.

* On(オン)



CBRENAD.

Off(オフ)

コーダバースタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信するしないが選択できます。
初期設定 = Don't Transmit



CBRSSX1.

Transmit (送信する)



CBRSSXD.

* Don't Transmit (送信しない)

コーダバーチェックキャラクタ

コーダバーチェックキャラクタは、いろいろな「モジュール」を用いて作成します。モジュール 16 チェックキャラクタを用いたコーダバーのバーコードだけを読み取るようにスキャナを設定できます。初期設定 = No Check Character

No Check Character は、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

チェックキャラクタを *Validate and Transmit* に設定すると、チェックキャラクタが印刷されたコーダバーのバーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

Validate, but Don't Transmit に設定すると、チェックキャラクタとともに印刷されたコーダバーバーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタは、読み取ったデータと一緒に送信されません。



CBRCK20.

* No Check Character (チェックキャラクタ無し)



CBRCK21.

Validate Modulo 16, but
Don't Transmit

(モジュラス16有効、送信なし)



CBRCK22.

Validate Modulo 16
and Transmit (モジュラス16有効、送信あり)

コーダバー連結機能

コーダバーは、シンボルの連結サポート機能があります。連結機能を有効にすると、スキャナは「D」のスタートキャラクタがあり、D」のストップキャラクタがあるシンボルに隣接するコーダバーのシンボルを検索します。この場合、2つのメッセージは1つに連結され、「D」キャラクタは省略されます。



連結されていない単独の「D」コーダバーシンボルをデコードしないようにするには、Require を選択します。この選択をしても、スタート/ストップ D キャラクタのないコーダバーシンボルには影響ありません。



CBRCT1.

On (オン)



CBRCT0.

* Off (オフ)



CBRCT2.

Require (要求)

コーダバー読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について](#) (7-2 ページ) を参照してください。

最長と最短 = 2 ~ 60 最短の初期設定 = 4 最長の初期設定 = 60



CBRMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



CBRMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Code 39

< Default All Code 39 Settings >

< Code 39 全設定の初期化 >



C39DFT.

Code 39 オン/オフ



C39ENA1.

* On (オン)



C39ENAO.

Off (オフ)

Code 39 スタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信するしないが選択できます。初期設定 = Don't Transmit



C39SSX1.

Transmit (送信する)



C39SSXD.

* Don't Transmit (送信しない)

Code 39 チェックキャラクタ

No Check Character は、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

チェックキャラクタを **Validate, but Don't Transmit** に設定すると、スキャナはチェックキャラクタが印刷された Code 39 バーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタを読み取ったデータといっしょには送信しません。

チェックキャラクタを **Validate and Transmit** に設定すると、チェックキャラクタが印刷された Code 39 バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。初期設定 = No Check Character



C39CK20.

- No Check Character
- (チェックキャラクタ無し)



C39CK21.

Validate, but Don't Transmit
(有効、送信なし)



C39CK22.

Validate and Transmit
(有効、送信あり)

Code 39 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [読み取り桁数について](#) (7.2 ページ) を参照してください。

最長と最短 = 0 ~ 48 最短の初期設定 = 0 最長の初期設定 = 48



C39MIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



C39MAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Code 39 アペンド機能

この機能により、複数の Code 39 バーコードのデータをいっしょにしてからホストコンピュータに送信できます。この機能を有効にすると、スキャナはスペースで始まる Code 39 バーコード(スタートおよびストップシンボルを除く)を保存し、すぐにはデータを送信しません。バーコードを読み取った順にデー

データを保存し、それぞれから最初のスペースを削除します。スペース以外のキャラクタで始まる Code 39 バーコードを読み取ると、保存したデータを送信しません。初期設定 = Off



C39APP1.
On (オン)



C39APP0.
* Off (オン)

Code 32 Pharmaceutical (PARAF)

Code 32 Pharmaceutical は、イタリアの薬局で使用されている Code 39 の一種です。PARAF とも呼ばれます。

注: Code 32 Pharmaceutical のバーコードを読み取るときは、Trioptic Code (7-38 ページ) をかかわらずオフにしてください。



C39B321.
On (オン)



C39B320.
* Off (オフ)

Full ASCII

Full ASCII Code 39 デコーディングを有効にすると、バーコードシンボル内のある一定のキャラクタペアが単独のキャラクタとして解釈されます。例えば、「\$V」は ASCII キャラクタの「SYN」として、「/C」は「#」としてデコードされます。
初期設定 = Off

NUL %U	DLE \$P	SP SPACE	0 0	@ %V	P P	' %W	p +P	
SOH \$A	DC1 \$Q	! /A	1 1	A A	Q Q	a +A	q +Q	
STX \$B	DC2 \$R	" /B	2 2	B B	R R	b +B	r +R	
ETX \$C	DC3 \$S	# /C	3 3	C C	S S	c +C	s +S	
EOT \$D	DC4 \$T	\$ /D	4 4	D D	T T	d +D	t +T	
ENQ \$E	NAK \$U	% /E	5 5	E E	U U	e +E	u +U	
ACK \$F	SYN \$V	& /F	6 6	F F	V V	f +F	v +V	
BEL \$G	ETB \$W	' /G	7 7	G G	W W	g +G	w +W	
BS \$H	CAN \$X	(/H	8 8	H H	X X	h +H	x +X	
HT \$I	EM \$Y) /I	9 9	I I	Y Y	i +I	y +Y	
LF \$J	SUB \$Z	* /J	:	/Z	J J	Z Z	j +J	z +Z
VT \$K	ESC %A	+ /K	;	%F	K K	[%K	k +K	{ %P
FF \$L	FS %B	, /L	<	%G	L L	\ %L	l +L	%Q
CR \$M	GS %C	- -	=	%H	M M] %M	m +M	} %R
SO \$N	RS %D	. .	>	%I	N N	^ %N	n +N	~ %S
SI \$O	US %E	/ /O	?	%J	O O	_ %O	o +O	DEL %T

キャラクタペアの「/M」と「/N」は、それぞれマイナス記号とピリオドになります。「/P」から「/Y」までは、「0」~「9」になります。



C39ASCII1.
Full ASCII On (Full ASCIIオン)



C39ASCII0.
•Full ASCII Off
•(Full ASCIIオフ)

Code 39 コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し(A-6 ページの「印刷バーコードのコードページマッピング」を参照)、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから値と Save のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



C39DCP.
Code 39 Code Page

インターリーブド 2 of 5

<Default All Interleaved 2 of 5 Settings >
(インターリーブド 2 of 5 全設定の初期化)



I25DFT.

インターリーブド 2 of 5 のオン/オフ



I25ENA1.

* On(オン)



I25ENAO.

Off(オフ)

チェックデジット

No Check Digit は、スキャナがチェックデジットの有無に関係なくバーコードデータを読み取って送信することを示します。

Validate, but Don't Transmit に設定すると、チェックデジットが印刷されたインターリーブド 2 of 5 バーコードだけを読み取りますが、チェックデジットは読み取ったデータといっしょに送信されません。

Validate and Transmit に設定すると、チェックデジットが印刷されたインターリーブ 2 of 5 バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信します。初期設定 = No Check Digit



I25CK20.

* No Check Digit (チェックデジット無し)



I25CK21.

Validate, but Don't Transmit
(有効、送信なし)



I25CK22.

Validate and Transmit (有効、送信あり)

インターリーブ 2 of 5 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [読み取り桁数について \(7-2 ページ\)](#) を参照してください。

最長と最短 = 2 ~ 80 最短の初期設定 = 4 最長の初期設定 = 80



I25MIN.

Minimum Message Length (最小メッセージ桁数)



I25MAX.

Maximum Message Length (最大メッセージ桁数)

NEC 2 of 5

< Default All NEC 2 of 5 Settings >
(NEC 2 of 5 全設定のデフォルト)



N25DFT.

NEC 2 of 5 オン/オフ



N25ENA1.

* On(オン)



N25ENA0.

Off(オフ)

Check Digit

No Check Digit は、スキャナがチェックデジットの有無に関係なくバーコードデータを
読み取って送信することを示します。

Validate, but Don't Transmit に設定すると、チェックデジットが印刷されたNEC 2 of 5
バーコードだけを読み取りますが、チェックデジットは読み取ったデータといっしょに
送信されません。

Validate and Transmit に設定すると、チェックデジットが印刷されたNEC 2 of 5
バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信
します。初期設定 = No Check Digit



N25CK20.

* No Check Digit(チェックデジット無し)



N25CK21.

Validate, but Don't Transmit(有効、送信なし)



N25CK22.

Validate and Transmit(有効、送信あり)

NEC 2 of 5 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について](#)(7-2 ページ)を参照してください。

最長と最短 = 2 ~ 80 最短の初期設定 = 4 最長の初期設定 = 80



N25MIN.

Minimum Message Length (最小メッセージ桁数)



N25MAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Code 93

< Default All Code 93 Settings >
(Code 93 全設定の初期化)



C93DFT.

Code 93 のオン/オフ



C93ENA1.

* On(オン)



C93ENA0.

Off(オフ)

Code 93 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について\(7-2 ページ\)](#)を参照してください。

最長と最短 = 0 ~ 80 最短の初期設定 = 0 最長の初期設定 = 80



C93MIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



C93MAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Code 93 コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し(A-6 ページの「[印刷バーコードのコードページマッピング](#)」を参照)、本書の裏表紙の内側にある[プログラミングチャート](#)から値と Save のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



C93DCP.
Code 93 Code Page

Straight 2 of 5 Industrial (three-bar start/stop)

<Default All Straight 2 of 5 Industrial Settings>
(Straight 2 of 5 Industrial 全設定の初期化)



R25DFT.

Straight 2 of 5 Industrial のオン/オフ



R25ENA1.
On(オン)



R25ENA0.
* Off(オフ)

Straight 2 of 5 Industrial 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について(7-2 ページ)を参照してください。

最長と最短 = 1 ~ 48 最短の初期設定 = 4 最長の初期設定 = 48



R25MIN.
Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



R25MAX.
Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Straight 2 of 5 IATA (two-bar start/stop)

<Default All Straight 2 of 5 IATA Settings>
(Straight 2 of 5 IATA 全設定の初期化)



A25DFT.

Straight 2 of 5 IATA オン/オフ



A25ENA1.

On(オン)



A25ENA0.

* Off(オフ)

Straight 2 of 5 IATA 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について(7-2 ページ)を参照してください。

最長と最短 = 1 ~ 48 最短の初期設定 = 4 最長の初期設定 = 48



A25MIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



A25MAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

マトリックス 2 of 5

<Default All Matrix 2 of 5 Settings>
(マトリックス 2 of 5 全設定の初期化)



X25DFT.

マトリックス 2 of 5 オン/オフ



X25ENA1.

On(オン)



X25ENA0.

* Off(オフ)

マトリックス 2 of 5 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について](#)(7-2 ページ)を参照してください。

最長と最短 = 1 ~ 80 最短の初期設定 = 4 最長の初期設定 = 80



X25MIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



X25MAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Code 11

<Default All Code 11 Settings>
(Code 11全設定の初期化)



C11DFT.

Code 11 オン/オフ



C11ENA1.

On(オン)



C11ENA0.

* Off(オフ)

必要チェックデジット数

Code 11 バーコードに必要なチェックデジットを 1 つまたは 2 つに設定します。

初期設定 = Two Check Digits



C11CK20.

One Check Digit



C11CK21.

* Two Check Digits

Code 11 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については**読み取り桁数について**(7-2 ページ)を参照してください。

最長と最短 = 1 ~ 80 最短の初期設定 = 4 最長の初期設定 = 80



C11MIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



C11MAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Code 128

<Default All Code 128 Settings>
(Code 128 全設定の初期化)



128DFT.

Code 128 オン/オフ



128ENA1.

* On(オン)



128ENAO.

Off(オフ)

ISBT 128 連結機能

1994年、国際輸血学会(ISBT)は、血液の重要情報を一定の方法でやり取りするための標準を定めました。ISBT フォーマットを使用するには、有料ライセンスが必要です。ISBT 128 のアプリケーション仕様では、次の内容を規定しています。1) 血液製品にラベル表示するための重要なデータ要素、2) セキュリティが高度で設計のスペース効率が良いことからCode 128 の使用を現在は推奨すること、3) 隣接シンボルの連結をサポートするCode 128 の変形、4) 血液製品ラベルのバーコードの標準レイアウト。

連結をオン／オフするには、次のバーコードを読み取ります。初期設定 = Off



ISBENA1.
On(オン)



ISBENA0.
* Off(オフ)

Code 128 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について](#)(7-2 ページ)を参照してください。

最長と最短 = 0 ~ 80 最短の初期設定 = 04 最長の初期設定 = 80



128MIN.
Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



128MAX.
Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Code 128 コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し(A-6 ページの「[印刷バーコードのコードページマッピング](#)」を参照)、本書の裏表紙の内側にある[プログラミングチャート](#)から値と Save のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



128DCP.
Code 128 Code Page

GS1-128

<Default All GS1-128 Settings>
(GS1-128 全設定の初期化)



GS1DFT.

GS1-128 オン/オフ



GS1ENA1.

* On(オン)



GS1ENA0.

Off(オフ)

GS1-128 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について](#)(7-2 ページ)を参照してください。

最長と最短 = 1 ~ 80 最短の初期設定 = 1 最長の初期設定 = 80



GS1MIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



GS1MAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Telepen

<Default All Telepen Settings>
(Telepen 全設定の初期化)



TELDFT.

Telepen のオン/オフ



TELEN A1.

On(オン)



TELEN A0.

* Off(オフ)

Telepen 出力

AIM Telepen Output を使用すると、スキヤナはスタート/ストップパターン 1 のシンボルを読み取り、標準の Full ASCII(スタート/ストップパターン 1)としてデコードします。Original Telepen Output を選択すると、スタート/ストップパターン 1 のシンボルを読み取り、オプションの Full ASCII(スタート/ストップパターン 2)を含む圧縮された数値としてデコードします。初期設定 = AIM Telepen Output



TELOLD0.

- AIM Telepen Output
- (AIM Telepen 出力)



TELOLD1.

Original Telepen Output
(オリジナルの出力)

Telepen 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について(7-2 ページ)を参照してください。

最長と最短 = 1 ~ 60 最短の初期設定 = 1 最長の初期設定 = 60



TELMIN.

Minimum Message Length (最小メッセージ桁数)



TELMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

UPC-A

<Default All UPC-A Settings>
(UPC-A 全設定の初期化)



UPADFT.

UPC-A オン/オフ



UPAENA1.

* On(オン)



UPAENAO.

Off(オフ)

UPC-A チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定 = On



UPACKX1.

* On(オン)



UPACKX0.

Off(オフ)

UPC-A システム番号

通常は読み取ったデータの最初に UPC シンボルのシステム番号を送信しますが、送信しないように設定できます。初期設定 = On



UPANSX1.
* On(オン)



UPANSXD.
Off(オフ)

UPC-A 追加デジット

読み取ったすべての UPC-A データの最後に 2 桁または 5 桁のデジットを追加します。初期設定 = 2 桁と 5 桁の両方のデジット追加について オフ



UPAAD21.
2 Digit Addenda On(アドオン2桁許可)



UPAAD20.
* 2 Digit Addenda Off(アドオン2桁禁止)



UPAAD51.
5 Digit Addenda On(アドオン5桁許可)



UPAAD50.
* 5 Digit Addenda Off(アドオン5桁禁止)

UPC-A 追加デジット要

Required バーコードを読み取ると、スキャナは追加デジットのある UPC-A バーコードだけを読み取ります。[7-24 ページ](#)に記載された 2 桁または 5 桁の追加デジットをオンにする必要があります。初期設定 = Not Required



UPAARQ1.
Required(必要)



UPAARQ0.
* Not Required(不要)

UPC-A 追加デジットセパレータ

この機能をオンにすると、バーコードデータと追加デジットデータとの間にスペースができます。オフにすると、スペースはできません。初期設定 = On



UPAADS1.

* On(オン)



UPAADS0.

Off(オフ)

拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13

次のバーコードを使用し、拡張クーポンコード付き UPC-A および EAN-13 を有効または無効にします。もし初期設定 (Off) のままにしておくと、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを1つのバーコードと見なします。

Allow Concatenationコードを読み取ると、スキャナがクーポンコードと拡張クーポンコードを1つの読み取りで認識した場合、どちらも別々のシンボルとして送信します。それ以外の場合は、読み取ったはじめてのクーポンコードを送信します。

Require Concatenationコードを読み取ると、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを1つとして読み取り、データを送信します。両方のコードが読めない限り、データは出力されません。初期設定 = Off



CPNENA0.

* Off(オフ)



CPNENA1.

Allow Concatenation(連結許可)



CPNENA2.

Require Concatenation(連結要求)

UPC-E0

<Default All UPC-E Settings>
(UPC-E全設定の初期化)



UPEDFT.

UPC-E0のオン/オフ

ほとんどの UPC バーコードは、「0」のシステム番号で始まります。これらのバーコードには、UPC-E0 の設定を使用します。「1」のシステム番号で始まるバーコードを読み取る必要がある場合は、[UPC-E1](#) (7-29 ページ)を使用します。
初期設定 = On



UPEEND01.

* UPC-E0 On(UPC-E0オン)



UPEEND00.

UPC-E0 Off (UPC-E0オフ)

UPC-E0の拡張

UPC-E バーコードを 12 桁の UPC-A フォーマットに拡張します。
初期設定 = Off



UPEEXP1.

On(オン)



UPEEXP0.

* Off(オフ)

UPC-E0 追加デジット要

Requiredを読み取ると、スキャナは追加デジットのあるUPC-E
バーコードだけを読み取ります。初期設定 = Not Required



UPEARQ1.

Required (必要)



UPEARQ0.

* Not Required (必要なし)

UPC-E0 追加デジットセパレータ

この機能をオンにすると、バーコードデータと追加デジットデータとの間にス
ペースができます。オフにすると、スペースはできません。
初期設定 = On



UPEADS1.

* On (オン)



UPEADS0.

Off (オフ)

UPC-E0 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定しま
す。初期設定 = On



UPECKX1.

* On (オン)



UPECKX0.

Off (オフ)

UPC-E0システム番号

通常は読み取ったデータの最初にUPCシンボルのシステム番号を送信しますが、送信しないようにも設定できます。送信しないようにするには、Offを読み取ります。初期設定 = On



UPENSX1.

* On(オン)



UPENSX0.

Off(オフ)

UPC-E追加デジット

読み取ったすべてのUPC-Eデータの最後に2桁または5桁のデジットを追加します。初期設定 = 2桁と5桁の両方のデジット追加についてオフ



UPEAD21.

2 Digit Addenda On(アドオン2桁許可)



UPEAD20.

* 2 Digit Addenda Off(アドオン2桁禁止)



UPEAD51.

5 Digit Addenda On(アドオン5桁許可)



UPEAD50.

* 5 Digit Addenda Off(アドオン5桁禁止)

UPC-E1

ほとんどの UPC バーコードは、「0」のシステム番号で始まります。これらのバーコードには、UPC-E0 (7-26 ページ) を使用します。1 のシステム番号で始まるバーコードを読み取る必要がある場合は、UPC-E1 On を選択してください。

初期設定 = Off



UPEEN11.

UPC-E1 On (UPC-E1オン)



UPEEN10.

* UPC-E1 Off (UPC-E1オフ)

EAN/JAN-13

<Default All EAN/JAN Settings>
(EAN/JAN 全設定の初期化)



E13DFT.

EAN/JAN-13 のオン/オフ



E13ENA1.

* On(オン)



E13ENA0.

Off(オフ)

EAN/JAN-13 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定 = On



E13CKX1.

* On (オン)



E13CKX0.

Off (オフ)

EAN/JAN-13 追加デジット

読み取ったすべての EAN/JAN-13 データの最後に 2 桁または 5 桁のデジットを追加します。初期設定 = 2 桁と 5 桁の両方のデジット追加について オフ



E13AD21.

2 Digit Addenda On(アドオン2桁許可)



E13AD20.

* 2 Digit Addenda Off(アドオン2桁禁止)



E13AD51.

5 Digit Addenda On(アドオン5桁許可)



E13AD50.

* 5 Digit Addenda Off(アドオン5桁禁止)

EAN/JAN-13 追加デジット要

Required を読み取ると、スキャナは追加デジットのある EAN/JAN-13 バーコードだけを読み取ります。初期設定 = Not Required



E13ARQ1.

Required(必要)



E13ARQ0.

* Not Required(不要)

EAN/JAN-13 追加デジットセパレータ

この機能をオンにすると、バーコードデータと追加デジットデータとの間にスペースができます。オフにすると、スペースはできません。初期設定 = On



E13ADS1.
* On(オン)



E13ADS0.
Off(オフ)

注: 拡張クーポンコード付き EAN13 を有効または無効にしたい場合は、[拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13 \(7-25 ページ\)](#)を参照してください。

ISBN 変換

この機能をオンにすると、EAN-13 Bookland シンボルが同等の ISBN 番号フォーマットに変換されます。初期設定 = Off



E13ISB1.
On(オン)



E13ISB0.
* Off(オフ)

EAN/JAN-8

<Default All EAN/JAN-8 Settings>
(EAN/JAN-8 全設定の初期化)



EABDFT.

EAN/JAN-8 のオン/オフ



EABENA1.

* On(オン)



EABENA0.

Off(オフ)

EAN/JAN-8 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定 = On



EABCKX1.

* On(オン)



EABCKX0.

Off(オフ)

EAN/JAN-8追加デジット

読み取ったすべての EAN/JAN-8 データの最後に 2 桁または 5 桁のデジットを追加します。

初期設定 = 2 桁と 5 桁の両方のデジット追加についてオフ



EABAD21.

2 Digit Addenda On (アドオン2桁許可)



EABAD20.

•2 Digit Addenda Off
•(アドオン2桁禁止)



EABAD51.

5 Digit Addenda On (アドオン5桁許可)



EABAD50.

•5 Digit Addenda Off
•(アドオン5桁禁止)

EAN/JAN-8追加デジット要

Requiredを読み取ると、スキャナは追加デジットのある EAN/JAN-8 バーコードだけを読み取ります。初期設定 = Not Required



EABARQ1.

Required(必要)



EABARQ0.

* Not Required(不要)

EAN/JAN-8追加デジットセパレータ

この機能をオンにすると、バーコードデータと追加デジットデータとの間にスペースができます。オフにすると、スペースはできません。

初期設定 = On



EABADS1.

* On(オン)



EABADS0.

Off(オフ)

MSI

<Default All MSI Settings>
(MSI 全設定の初期化)



MSIDFT.

MSI のオン/オフ



MSIEN A1.

On(オン)



MSIEN A0.

* Off(オフ)

MSI チェックキャラクタ

MSI バーコードにはいろいろな種類のチェックキャラクタが使用されています。タイプ 10 のチェックキャラクタのある MSI バーコードを読み取るようにスキャナを設定できます。初期設定 = Validate Type 10, but Don't Transmit チェックキャラクタを **Validate Type 10/11 and Transmit** に設定すると、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷された MSI バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

チェックキャラクタを **Validate Type 10/11, but Don't Transmit**に設定した場合は、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷された MSI バーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタは読み取ったデータといっしょに送信しません。



MSICHK0.

* **Validate Type 10, but Don't Transmit**
(タイプ10有効、送信なし)



MSICHK2.

Validate 2 Type 10 Characters, but Don't Transmit
(2タイプ10有効、送信なし)



MSICHK4.

Validate Type 10 then Type 11 Character, but Don't Transmit
(タイプ10、11有効、送信なし)



MSICHK6.

Disable MSI Check Characters
(MSI チェックキャラクタ無効)



MSICHK1.

Validate Type 10 and Transmit
(タイプ10有効、送信あり)



MSICHK3.

Validate 2 Type 10 Characters and Transmit
(2タイプ10有効、送信あり)



MSICHK5.

Validate Type 10 then Type 11 Character and Transmit
(タイプ10、11有効、送信あり)

MSI 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [読み取り桁数について](#) (7-2 ページ) を参照してください。

最長と最短 = 4 ~ 48、最短の初期設定 = 4、最長の初期設定 = 48



MSIMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



MSIMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

GS1 DataBar Omnidirectional

< Default All GS1 DataBar Omnidirectional Settings >
(GS1 DataBar Omnidirectional 全設定の初期化)



RSSDFT.

GS1 DataBar Omnidirectional のオン/オフ



RSSENA1.

* On(オン)



RSSENA0.

Off(オフ)

GS1 DataBar Limited

< Default All GS1 DataBar Limited Settings >
(GS1 DataBar Limited 全設定の初期化)



RSLDFT.

GS1 DataBar Limited のオン/オフ



RSLENA1.

* On(オン)



RSLENA0.

Off(オフ)

GS1 DataBar Expanded

< Default All GS1 DataBar Expanded Settings >
(GS1 DataBar Expanded 全設定の初期化)



RSEDFT.

GS1 DataBar Expanded のオン/オフ



RSEENA1.

* On(オン)



RSEENA0.

Off(オフ)

GS1 DataBar Expanded 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について(7-2 ページ)を参照してください。
最長と最短 = 4 ~ 74、最短の初期設定 = 4、最長の初期設定 = 74



RSEMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



RSEMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Trioptic Code

注: Code 32 Pharmaceutical のバーコード(7-8ページ)を読み取るときは、Trioptic Code をかならずオフにしてください。

Trioptic Code は、磁気記録媒体のラベル表示に使用するものです。



TRIENA1.
On(オン)



TRIENAO.
* Off(オフ)

Codablock A

<Default All Codablock A Settings>
(Codablock全設定の初期化)



CBADFT.

Codablock A のオン/オフ



CBAENA1.
On(オン)



CBAENAO.
* Off(オフ)

Codablock A 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について](#) (7-2 ページ)を参照してください。最長と最短 = 1 ~ 600、最短の初期設定 = 1、最長の初期設定 = 600



CBAMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



CBAMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Codablock F

<Default All Codablock F Settings>
(Codablock F 全設定の初期化)



CBFDFT.

Codablock F のオン/オフ



CBFENA1.

On(オン)



CBFENA0.

* Off(オフ)

Codablock F 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について](#)(7-2 ページ)を参照してください。最長と最短 = 1 ~ 2048、最短の初期設定 = 1、最長の初期設定 = 2048



CBFMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



CBFMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

PDF417

< Default All PDF417 Settings >
(PDF417 全設定の初期化)



PDFDFT.

PDF417 のオン/オフ



PDFENA1.
* On(オン)



PDFENAO.
Off(オフ)

PDF417 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [読み取り桁数について](#) (7-2 ページ) を参照してください。最長と最短 = 1 ~ 2750、最短の初期設定 = 1、最長の初期設定 = 2750



PDFMIN.
Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



PDFMAX.
Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

MicroPDF417

< Default All MicroPDF417 Settings >
(MicroPDF417 全設定の初期化)



MPDDFT.

MicroPDF417のオン/オフ



MPDENA1.

On(オン)



MPDENAO.

* Off(オフ)

MicroPDF417 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について\(7-2 ページ\)](#)を参照してください。最長と最短 = 1 ~ 366、最短の初期設定 = 1、最長の初期設定 = 366



MPDMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



MPDMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

GS1 Compositeコード

リニアコードと固有の2D合成成分とが複合され、GS1 Composite シンボルと呼ばれる新たなクラスを形成します。GS1 Composite シンボルにより、すでに使用されているシンボルとの共存が可能になります。



COMENA1.

On(オン)



COMENAO.

* Off(オフ)

UPC/EAN Version

UPC または EAN リニア成分のある GS1 Composite シンボルをデコードするときは、UPCもしくはEANリニア成分バーコードを読み取ります。(GS1-128 もしくはGS1リニア成分のあるGS1 Composite シンボルには影響しません。)



COMUPC1.

UPC/EAN Version On
(UPC/EAN Versionオン)



COMUPCO.

•UPC/EAN Version Off
•(UPC/EAN Versionオフ)

GS1 Compositeコード読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について\(7.2 ページ\)](#)を参照してください。
最長と最短 = 1 ~ 2435、最短の初期設定 = 1、最長の初期設定 = 2435



COMMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



COMMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

GS1 エミュレーション

スキヤナは任意の GS1 データキャリアからの出力を自動的にフォーマットし、同等の GS1-128 もしくは GS1 DataBar シンボルでデコードされる内容をエミュレーションすることができます。GS1 データキャリアには UPC-A、UPC-E、EAN-13 ならびに EAN-8、ITF-14、GS1-128 ならびに GS1-128 DataBar と GS1 Composite があります。(GS1 データに対応するアプリケーションは、すべて単純化できます。データキャリアのタイプを 1 つ認識するだけで済みます。)

GS1-128 Emulation を読み取ると、すべての小売コード (U.P.C.、UPC-E、EAN8、EAN13) は 16 桁に拡張されて出力されます。AIM ID が有効な場合、その値は GS1-128 AIM ID、Jc1 となります (A-1 ページのシンボルチャートを参照)。

GS1 DataBar Emulation を読み取ると、すべての小売コード (U.P.C.、UPC-E、EAN8、EAN13) は 16 桁に拡張されて出力されます。AIM ID が有効な場合、その値は GS1-DataBar AIM ID、Jem となります (A-1 ページのシンボルチャートを参照)。

IGS1 Code Expansion Off を読み取ると、小売コード拡張が無効となり、UPC-E 拡張は **UPC-E0 拡張** (7-26 ページ) 設定によって制御されます。AIM ID が有効な場合、その値は GS1-128 AIM ID、Jc1 となります (A-1 ページのシンボルチャートを参照)。

EAN8 to EAN13 Conversion を読み取ると、すべての EAN8 バーコードは EAN13 フォーマットに転換されます。

初期設定 = GS1 Emulation Off



EANEMU1.

GS1-128 Emulation (GS1-128 エミュレーション)



EANEMU2.

GS1 DataBar Emulation
(GS1 DataBar エミュレーション)



EANEMU3.

GS1 Code Expansion Off (GS1 コード拡張オフ)



EANEMU4.

EAN8 to EAN13 Conversion
(EAN8 から EAN13 へ転換)



EANEMU0.

* GS1 Emulation Off (GS1 エミュレーションオフ)

TCIF Linked Code 39 (TLC39)

このバーコードは、Code 39 のリニア成分と MicroPDF417 のスタックコード成分があるため、複合コードになっています。どのバーコードリーダーにも Code 39 リニア成分を読み取る能力があります。MicroPDF417 の成分をデコードできるのは、TLC39 On に設定したときだけです。リニア成分は、TLC39 がオフでも Code39 としてデコードできます。初期設定 = Off



T39ENA1.
On(オン)



T39ENA0.
* Off(オフ)

QRコード*

< Default All QR Code Settings >
(QR コード全設定の初期化)



QRCDFT.

QRコードのオン/オフ

この設定はQRコードならびにマイクロQRコードどちらにも対応しています。



QRCENA1.
* On(オン)



QRCENA0.
Off(オフ)

QRコード読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について](#)(7-2 ページ)を参照してください。
最長と最短 = 1 ~ 7089、最短の初期設定 = 1、最長の初期設定 = 7089



QRCMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



QRCMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

Data Matrix

< Default All Data Matrix Settings >
(Data Matrix 全設定の初期化)



IDMDFT.

Data Matrix オン/オフ



IDMENA1.

* On(オン)



IDMENA0.

Off(オフ)

Data Matrix 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [読み取り桁数について](#) (7-2 ページ) を参照してください。

最長と最短 = 1 ~ 3116、最短の初期設定 = 1、最長の初期設定 = 3116



IDMMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



IDMMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

マキシコード

< Default All MaxiCode Settings >
(マキシコード全設定の初期化)



MAXDFT.

マキシコードのオン/オフ



MAXENA1.

* On(オン)



MAXENA0.

Off(オフ)

マキシコードの読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について(7-2 ページ)を参照してください。
最長と最短 = 1~150、最短の初期設定 = 1、最長の初期設定 = 150



MAXMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



MAXMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

アズテックコード

< Default All Aztec Code Settings >
(アズテックコード全設定の初期化)



AZTDFT.

アズテックコードのオン/オフ



AZTENA1.

* On(オン)



AZTENAO.

Off(オフ)

アズテックコードの読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について(7-2 ページ)を参照してください。
最長と最短 = 1 ~ 3832、最短の初期設定 = 1、最長の初期設定 = 3832



AZTMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



AZTMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

中国 (Han Xin = 漢信) コード

< Default All Han Xin Settings >
(漢信コード全設定の初期化)



HX_DFT.

漢信コードのオン/オフ



HX_ENA1.
On(オン)



HX_ENA0.
* Off(オフ)

漢信コードの読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について(7-2 ページ)を参照してください。
最長と最短 = 1 ~ 7833、最短の初期設定 = 1、最長の初期設定 = 7833



HX_MIN.
Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



HX_MAX.
Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

ポスタルコード 2D

以下のリストは読み込み可能な2D郵便コードと認識可能な2D郵便コードの組み合わせです。一時には1つの2Dポスタルコードしかアクティブにできません。二つ目の2D郵便コード設定を読み取った場合、初めの設定は上書きされます。初期設定=2D Postal Codes Off



POSTAL0.

* 2D Postal Codes Off (2Dポスタルコードオフ)

2D ポスタルコード(単独)



POSTAL7.

British Post On



POSTAL10.

Intelligent Mail Bar Code On



POSTAL4.

KIX Post On



POSTAL9.

Postal-4i On



POSTAL1.

Australian Post On



POSTAL30.

Canadian Post On



POSTAL3.

Japanese Post On



POSTAL5.

Planet Code On

7-54ページのPlanet Code
チェックデジットも参照のこと。



POSTAL6.
Postnet On

7-54ページのPlanet Code
チェックデジットも参照のこと。



POSTAL11.
Postnet with B and B' Fields On



POSTAL2.
InfoMail On

2D ポスタルコード(組み合わせ)



POSTAL20.
Intelligent Mail Bar Code and
Postnet with B and B' Fields On



POSTAL8.
InfoMail and British
Post On



POSTAL16.
Postnet and
Intelligent Mail Bar Code On



POSTAL14.
Postnet and
Postal-4i On



POSTAL19.
Postal-4i and
Postnet with B and B' Fields On



POSTAL17.
Postal-4i and
Intelligent Mail Bar Code On



POSTAL18.
Planet Code and
Postnet with B and B' Fields On



POSTAL12.
Planet Code and
Postnet On



POSTAL15.
Planet Code and
Intelligent Mail Bar Code On



POSTAL22.
Planet Code,
Postnet, and
Intelligent Mail Bar Code On



POSTAL24.
Postnet,
Postal-4i, and
Intelligent Mail Bar Code On



POSTAL26.
Planet Code,
Intelligent Mail Bar Code, and
Postnet with B and B' Fields On



POSTAL28.
Planet Code,
Postal-4i,
Intelligent Mail Bar Code, and
Postnet On



POSTAL13.
Planet Code and
Postal-4i On



POSTAL21.
Planet Code,
Postnet, and
Postal-4i On



POSTAL23.
Planet Code,
Postal-4i, and
Intelligent Mail Bar Code On



POSTAL25.
Planet Code,
Postal-4i, and
Postnet with B and B' Fields On



POSTAL27.
Postal-4i,
Intelligent Mail Bar Code, and
Postnet with B and B' Fields On



POSTAL29.
Planet Code,
Postal-4i,
Intelligent Mail Bar Code, and
Postnet with B and B' Fields On

Planet Code チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できません。初期設定= Don't Transmit



PLNCKX1.

Transmit Check Digit (チェックデジットを送信する)



PLNCKX0.

- Don't Transmit Check Digit
- (チェックデジットを送信しない)

Postnet チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できません。初期設定= Don't Transmit



NETCKX1.

Transmit Check Digit (チェックデジットを送信する)



NETCKX0.

- * Don't Transmit Check Digit (チェックデジットを送信しない)

ポスタルコード - 1次元バーコード

以下に1次元のポスタルコードを挙げます。一時にリニアポスタルコードのいかなる組み合わせを行うことも可能です。

中国郵政 (Hong Kong 2 of 5)

<Default All China Post (Hong Kong 2 of 5) Settings>
(中国郵政 (Hong Kong 2 of 5) 向け全設定の初期化)



CPCDFT.

中国郵政 (Hong Kong 2 of 5) のオン/オフ



CPCENA1.

On(オン)



CPCENA0.

* Off(オフ)

中国郵政 (Hong Kong 2 of 5) の読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読み取り桁数について\(7-2 ページ\)](#)を参照してください。
最長と最短 = 2 ~ 80、最短の初期設定 = 4、最長の初期設定 = 80



CPCMIN.

Minimum Message Length
(最小メッセージ桁数)



CPCMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

韓国郵政

<Default All Korea Post Settings>
(韓国郵政向けの全設定初期化)



KPCDFT.

韓国郵政



KPCENA1.

On(オン)



KPCENA0.

* Off(オフ)

韓国郵政—読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について(7-2 ページ)を参照してください。
最長と最短 = 2 ~ 80、最短の初期設定 = 4、最長の初期設定 = 48



KPCMIN.

Minimum Message Length (最小メッセージ桁数)



KPCMAX.

Maximum Message Length
(最大メッセージ桁数)

韓国郵政—チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定 = Don't Transmit



KPCCHK1.

Transmit Check Digit
(チェックデジットを送信する)



KPCCHK0.

•Don't Transmit Check Digit
(チェックデジットを送信しない)

イメージングコマンド

スキャナは、デジタルカメラのように画像の取り込み、処理、および転送を行うことができます。以下のコマンドでスキャナの機能実行方法を変更することができます。

注: スキャナをスタンドで用いている場合は、スタンド内センサーモードをオフにして画像を取り込んでください。(4-10ページの[スタンド内センサーモードオン](#)を参照)

シングル使用ベース

モディファイ付きのイメージングコマンドは、スキャナにシングル使用ベースで命令を送信し、1つの画像取り込みに対し動作します。取り込みが終わると、スキャナはイメージングの初期設定へと戻ります。設定を恒久的に変えたければ、serial default commands (11章参照)を使います。serial default commands を用いると、設定は新しいものになり、スキャナの恒久的設定となります。

コマンドシンタクス

複数のモディファイやコマンドは1つのシーケンス内で行われます。追加モディファイが同じコマンドに適応している場合は、そのモディファイをコマンドに追加するだけです。

例えば、Image Snap command に setting the Imaging Style to 1P や Wait for Trigger to 1T のような2つのモディファイを追加するには、**IMGSNP1P1T**と入力します。

注: イメージ取り込みコマンド(IMGSNP or IMGBOX)を行ったあと、その画像をターミナルで見ると、IMGSHP command を続けます。

1つのシーケンスにコマンドを追加するには、新しいコマンドはそれぞれにセミコロンで分離してください。例えば、上記のシーケンスにImage Ship commandを追加する場合は、**IMGSNP1P1T;IMGSHP**と入力します。

イメージングコマンドは以下のとおりです。

Image Snap - **IMGSNP** (8-2ページ)

Image Ship - **IMGSHP** (8-5ページ)

Intelligent Signature Capture - **IMGBOX** (8-14ページ)

それぞれのコマンドのモディファイはコマンド説明のあとです。

注: それぞれのコマンド説明を含むイメージは単なる例であり、ご使用の結果得られる効果はこのマニュアル内のものと異なることがあります。ご使用の結果得られる出力クオリティはライトや取り込む画像や対象の質、画像や対象からの距離によって異なります。質の高い画像を得るためには、取り込む画像や対象からスキャナを10.2~15.2cm離してお使いになることをお勧めします。

Step 1 – IMGSNPを使って写真を撮る

イメージスナップ- IMGSNP

画像は、ボタンを引くたび、あるいはイメージスナップ (IMGSNP) コマンドを実行するたびに
取り込まれます。

イメージスナップコマンドには、メモリでの画像表示を変えることができる多種多様な
モディファイが用意されています。モディファイは、かならず数字で始まって文字 (大文字小文字
に関係無し) で終わります。IMGSNP コマンドには、任意の数のモディファイを追加できます。
例えば、IMGSNP2G1Bというコマンドを使用すれば、画像を撮影したりゲインを増やしたりでき、
また画像を撮影した後、ブザー音を鳴らすことができます。

IMGSNP モディファイ

P - Imaging Style (撮影スタイル)

イメージスナップのスタイルを設定します。

0P **Decoding Style**: 撮影パラメータが合うまで数フレームを撮影できます。
最後のフレームを後で利用できます。

1P **Photo Style (初期設定)**: 簡単なデジタルカメラに似ています。
視覚的に最適化された画像が得られます。..

2P **Manual Style**: 高度なスタイルなので上級者向けです。スキャナを最も
自由に設定できますが、自動撮影機能はありません。

B - Beeper (ブザー)

画像の撮影後、ブザー音を鳴らします。.

0B ブザーを鳴らさない。(初期設定)

1B 画像が取り込まれるとブザー音が鳴ります。

T - Wait for Trigger (トリガー待機)

画像撮影の前に、ボタンが引かれるのを待ちます。これはPhoto Style (1P)使用時のみ有効
です。

0T すぐに画像を撮影する(初期設定)

1T ボタンが引かれるのを待った後、画像を撮影する。

L - LED State (LEDの状態)

LED をオン/オフするのかどうか、いつオン/オフするのかを決定します。

ID カードなど、カラー文書の写真を撮影する場合、特にスキャナをスタンド
に置くときは、周囲照明 (0L)をお勧めします。スキャナを手を持つ場合は、
LED 照明 (1L)をお勧めします。LED Stateは、Decoding Style (0P) 使用時には
利用できません。

0L LED オフ(初期設定)

1L LED オン

E – Exposure(露光)

Exposureはマニュアル時(2P)のみお使いいただけ、露光時間を設定します。

これはカメラのシャッタースピードに似ています。露光時間はスキャナが画像を取り込む時間の長さを決定します。明るい日には、撮影のための光線が十分ですので露光時間も非常に短くてすみますが、夜、光がほとんどない状態では露光時間をかなり長くする必要があります。単位は127ミリ秒です。
(初期設定値 = 7874)

nE 範囲: 1 - 7874

蛍光灯下での7874Eの場合の露光例

蛍光灯下での100Eの場合の露光例



G – Gain(ゲイン)

GainはManual Style(2P)時のみお使いいただけ、ボリュームコントロールのようなものです。ゲインモディファイが信号を増幅させ、ピクセル値を修正します。ゲインを増やすと、画像の乱れも増幅されます。

1G ゲインなし(初期設定)

2G ゲイン中

4G ゲイン高

8G ゲイン最大

1Gのゲイン例



4Gのゲイン例



8Gのゲイン例



W - Target White Value (ホワイト値)

取り込む画像のグレースケールの中心値をターゲットを設定します。コントラストの高い文書の接写画像を取り込むためには、75などの低めの値を推奨します。

設定を高くすると撮影時間が長くなって画像が明るくなりますが、高すぎると画像が露出オーバーになります。Target White Value は Photo Style (1P) 使用時だけ使用できます。(初期設定 = 125)

nW 範囲: 0 ~ 255

75Wでのホワイト値例

125Wでのホワイト値例

200Wでのホワイト値例



D - Delta for Acceptance (ホワイト値許容範囲)

ホワイト値設定用の許容範囲を設定します (「[W - Target White Value](#)」を参照)。

Photo Style (1P) 使用時のみ利用できます。

(初期値 = 25)

nD 範囲: 0 ~ 255

U - Update Tries (アップデートトライ)

[D - Delta for Acceptance](#) に達するためにスキャナが取得するフレームの最大数のことです。Photo Style (1P) 使用時のみ利用できます。(初期設定 = 6)

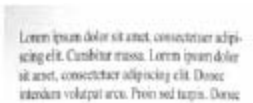
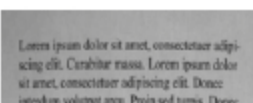
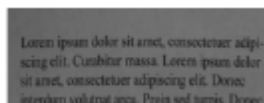
nU 範囲: 0 ~ 10

% - Target Set Point Percentage (ターゲットポイント比率)

取り込んだ画像の明暗値のターゲットポイントを設定します。設定 75% は、ピクセルの 75% がターゲットのホワイト値以下で、ピクセルの 25% がターゲットのホワイト値を超えることを意味します。通常的环境下でこの設定を初期設定から変更することは、推奨していません。グレースケール値を変更するには、[W - Target White Value](#) を使用します。(初期設定 = 50)

n% 範囲: 1 ~ 99

ターゲットポイント 97% の例 ターゲットポイント 50% の例 ターゲットポイント 40% の例



Step 2 – IMGSHPを使った画像送信

画像送信- IMGSHP

画像は、トリガーを引くたびに、あるいは画像送信 (IMGSNP) コマンドを実行することで取り込まれます。最後の画像がつねにメモリーに保存されます。IMGSHP コマンドでその画像を「送信」できます。

画像送信コマンドには、スキャナが出力する画像の設定を変更するのに使用できる多種多様のモディファイがあります。モディファイは、送信画像には効力がありますが、メモリーの画像には効力がありません。モディファイはかならず数字で始まって文字 (大文字小文字に関係無し) で終わります。IMGSHP コマンドには、任意の数のモディファイを追加できます。例えば、IMGSNP;IMGSHP8F75K26U というコマンドを使用すると、ガンマ補正と文書画像フィルタリングを行ってビットマップ画像を送ることができます。

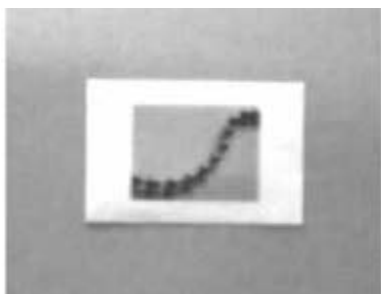
IMGSHP モディファイ

A - Infinity Filter (無限遠フィルタ)

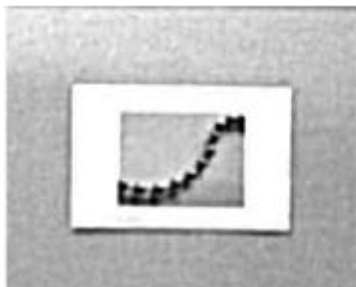
非常に長距離 (10 フィートまたは 3m 以上) から撮影した写真の質を向上させます。ただし、Infinity Filter を [IMGSHP のモディファイ \(8-5 ページ\)](#) とともに用いることはできません。

- 0A 無限遠フィルタオフ (初期設定)
- 1A 無限遠フィルタオン

3.66mの距離付近での
無限遠フィルタオフ(0A)撮影例



3.66mの距離付近での
無限遠フィルタオン(1A)撮影例



C - Compensation (圧縮)

画像全体の照度の変化を考慮するために画像をフラットにします。

- 0C 圧縮無効 (初期設定)
- 1C 圧縮有効

圧縮 が 0C のとき



圧縮 が 1C のとき



D - Pixel Depth (ピクセル濃度)

送信画像のピクセルあたりのビット数を示します。(KIMまたは BMP フォーマットのみ)

- 8D ピクセルあたり 8 ビット、グレースケール画像 (初期設定)
- 1D ピクセルあたり 1 ビット、白黒画像

E - Edge Sharpen(エッジシャープニング)

エッジシャープニングフィルタで画像の縁をクリーンにし、画像をさらにきれいにシャープにします。エッジシャープニングは画像をはっきりさせますが、元々の画像のきれいに撮影された詳細部も取り除いてしまいます。エッジシャープニングフィルタの強度は1~24から設定できます。23E を入力するとエッジが最もシャープになりますが、画像内のノイズも増えます。

0E 画像をシャープにしない(初期設定)

14E 標準画像用にエッジをシャープにする

ne n の値でエッジをシャープにする($n = 1 \sim 24$)

0Eでのエッジシャープニング例

24Eでのエッジシャープニング例



F - File Format(ファイルフォーマット)

希望する画像のフォーマットを示します。

0F KIM フォーマット

1F TIFF バイナリ

2F TIFF バイナリグループ4、圧縮

3F TIFF グレースケール

4F 非圧縮バイナリ(左上から右下、1ピクセル/ビット、行の最後を0で埋める)

5F 非圧縮グレースケール(左上から右下、ビットマップフォーマット)

6F JPEG画像(初期設定)

8F BMP フォーマット(右下から左上、非圧縮)

H - Histogram Stretch (ヒストグラムストレッチ)

送信画像のコントラストを高めます。画像フォーマットによっては利用できません。

0H ストレッチなし(初期設定)

1H ヒストグラムストレッチ

ヒストグラムストレッチ0Hの例



ヒストグラムストレッチ1Hの例



I - Invert Image (画像反転)

画像を X 軸または Y 軸周りで回転させるのに使います。

lix X 軸で画像を回転(画像の上下が反転)

liy Y 軸で画像を回転(画像の左右が反転)

回転なし



画像反転がlixの場合



画像反転がliyの場合



IF- Noise Reduction(ノイズ低減)

白黒ノイズを低減します。

0if 白黒ノイズの低減なし(初期設定)

1if 白黒ノイズの低減

白黒ノイズの低減なし(0if)



白黒ノイズの低減あり(1if)



IR - Image Rotate(画像回転)

0ir 撮影したとおり(正しい向き)の画像(初期設定)

1ir 画像を右に90度回転させる

2ir 画像を180度回転させる(上下逆)

3ir 画像を左に90度回転させる

画像回転 0ir



画像回転 1ir



画像回転 2ir



画像回転 3ir



J - JPEG Image Quality (JPEG画像の質)

JPEG 画像フォーマット選択の際の希望画質を設定します。数字を大きくすると画質が高くなりますが、ファイルは大きくなります。小さくすると、圧縮量が大きくなって転送速度が速くなり、画質は落ちますが、ファイルは小さくなります。(初期設定 = 50)

- nJ 画質係数 $n(n:1 \sim 100)$ の値で可能な限り画像を圧縮します。
- 0J 最低画質(最小ファイル)
- 100J 最高画質(最大ファイル)

K - Gamma Correction (ガンマ補正)

ガンマは、画像が生成する中間トーン値の明るさを決定します。ガンマ補正を使用すると、画像を明るくしたり暗くしたりできます。ガンマ補正を大きくすると、全体的に明るい画像が得られます。設定を低くすると、それだけ画像が暗くなります。テキスト画像に最も適した設定は 50K です。

- 0K ガンマ補正オフ(初期設定)
- 50K 標準の文書画像を明るくするためにガンマ補正を適用
- nK ガンマ補正の係数 $n(n=0 \sim 1,000)$ を適用

ガンマ補正 0K



ガンマ補正 50K



ガンマ補正 255K



L, R, T, B, M - Image Cropping (画像切り取り)

注: Image Cropping は [IMGSHIP のモディファイ](#) (8-5ページ) と一緒に使用しないでください。

この機能は上下左右のピクセル座標を指定して画像のウィンドウを送ります。

機器の列には 0 ~ 1279 の番号が、行には 0 ~ 959 の番号が付けられています。

nL: 送信画像の左端は、メモリー内の画像の n 列に対応します。

範囲: 000 ~ 640 (初期設定 = 0)

nR: 送信画像の右端は、メモリー内の画像の $n-1$ 列に対応します。

範囲: 000 ~ 640 (初期設定 = 全列)

nT: 送信画像の上端は、メモリー内の画像の n 行に対応します。

範囲: 000 ~ 480 (初期設定 = 0)

nB: 送信画像の下端は、メモリ内の画像の n-1 行に対応します。
範囲: 000 ~ 480 (初期設定 = 全行)

切り取りなし



切り取り設定: 300R



切り取り設定: 300L



切り取り設定: 200B



切り取り設定: 200T



代わりに、画像の外側マージンから切り取るピクセルの数を指定すると、中央のピクセルだけが送信されます。

nM Margin: 画像の左から n 列、右から n+1 列、上から n 行、下から n+1 行を切り取ります。残った中央のピクセルを送ります。
範囲: 0 ~ 238 (初期設定 = 0、または全画像)

切り取り設定 238Mの例



P - Protocol (プロトコル)

画像の送信に使用します。プロトコルは画像をホストに送る際、2種の機能に対応しており、データの送信に使用するプロトコル (Hmodem: 追加のヘッダ情報を持つ Xmodem 1K の変形) と、送信される画像のフォーマットに対応します。

- 0P 無し (生データ)
- 2P 無し (USB の初期設定)
- 3P 圧縮 Hmodem (RS-232 の初期設定)
- 4P Hmodem

S - Pixel Ship (ピクセル送信)

ピクセル送信はオリジナルサイズに対する比率に拡大縮小します。スペースで規則的に区切られた一定のピクセルだけを送ることで画像を間引くのに使用できます。例えば、4S では 4 行おきに 4 ピクセルごとに送信します。送るピクセルを減らすと、画像が小さくなりますが、画像がある数値まで達すると、使用できなくなります。

- 1S すべてのピクセル送信(初期設定)
- 2S 縦横両方で、2ピクセルごとに送る(初期設定)
- 3S 縦横両方で、3ピクセルごとに送る

ピクセル送信が1Sの場合



ピクセル送信が2Sの場合 ピクセル送信が3Sの場合



U - Document Image Filter (テキスト画像フィルター)

送信されたテキスト画像の縁をシャープにし、それ以外の部分を滑らかにします。このフィルターはガンマ補正 (8-10ページ)ととも 사용됩니다。スキャナをスタンドに置いた状態で、次のコマンドを使用して画像を取り込みます。

IMGSNP1POL168W90%32D

このフィルタは通常、標準のエッジシャープニングコマンド(8-13ページを参照)よりも良好なJPEG圧縮が可能です。このフィルタは、白黒のみの画像(ピクセルあたり1ビット)を送信するときにも有効です。最適設定は26Uです。

0U 文書画像フィルタオフ(初期設定)

26U 文書画像フィルタを標準的な文書画像に適用する

nU グレースケールのしきい値 n を使用して、画像コントラストが低いときに数値を下げます。1U には E-エッジシャープニング(8-7ページ) 22e と同等の効果があります。

範囲: 0 ~ 255

Image Filter が0U設定の場合



Image Filter が26U設定の場合



V - Blur Image(画像ぼかし)

境界線のハードエッジに隣接するピクセルと画像内の陰影領域を平均化して、変わり目を滑らかにします。

0V ぼかさない(初期設定)

1V ぼかす

画像ぼかしオフ(0V)



画像ぼかしオン(1V)



W - Histogram Ship(ヒストグラム送信)

ヒストグラムによって、画像の色調範囲、つまりキーのタイプをすばやく認識することができます。ローキーな画像は影に、ハイレベルな画像はハイライトに、標準的な(アベラージュレベルの)画像は中間調にディテールが集中します。このモディファイは画像用のヒストグラムを送信します。

0W ヒストグラムを送信しない(初期設定)

1W ヒストグラムを送信する

ヒストグラム使用



ヒストグラムが左にある場合



画像サイズの互換性

画像送信が正確に 640x480 ピクセルを返すようにアプリケーションを設定している場合、Force VGA Resolution バーコードを読み取ります。
初期設定 = Native Resolution



IMGVGA1.

Force VGA Resolution (VGA 解像度強制)



IMGVGA0.

* Native Resolution (元々の解像度)

インテリジェント署名取り込み - IMGBOX

IMGBOXを用いれば、バーコードに近接する対応した署名取り込みエリアのサイズや位置を修正することができます。これにより、署名取り込みエリアを特定のフォームに仕立てることができます。IMGBOXを使うためには、署名ボックスがバーコードに近い既知位置にあるようフォームを設定する必要があります。署名エリアの署名エリアがバーコードから水平、縦横にどれだけ離れていても大きさはさまざまなサイズをインプットできます。また、取り込んだ署名画像の最終出力の解像度とファイルフォーマットも設定できます。

注: IMGBOXコマンドは以下のバーコードタイプをトリガーされたときのみ使用できます: PDF417、Code 39、Code 128、アズテック、コーダバー、インターリーブド2 of 5。これらのシンボルが読み取られると、画像はIMGBOXコマンドが可能な状態を留めます。

署名取り込みの最適化

署名取り込みを頻繁に使う場合は、このための最適化をしてください。しかし、このモードを有効にすると、バーコード読み取り速度は遅くなります。
初期設定 = Off



DECBND1.

Optimize On (最適化オン)



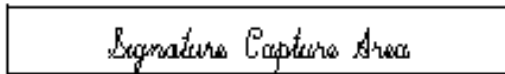
DECBND0.

* Optimize Off (最適化オフ)

以下のIMGBOXの例はQuickViewソフトを用いて実行、ビューしたものです。このソフトはwww.honeywellaidc.comから入手できます。Software Downloads をクリックし、Products listから4600rを選び、QuickView Software Utilityを選択してください。

以下に署名取り込みアプリケーションの例を示します。この例では、エイマーは署名取り込みエリアに中心を置き、トリガーが引かれたものです。一度ブザーが鳴り、スキヤンがCode 128 バーコードを読み取り、データはホストへと転送されたことを知らせます。ホストからそのコードの下の署名取り込みエリアの座標を特定するためにIMGBOX コマンドが送られ、その署名を含むエリアのみ画像としてホストに送るよう示します。

この例を試す方法:エイマーを(バーコードではなく)署名エリアにそろえ、トリガーを引きます。

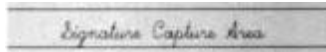


トリガーを引いた後に、以下の IMGBOX コマンドストリングを送信します。

例: IMGBOX245w37h55y.

注:コマンドストリングにおいてCaseは重要ではありません。ここでは鮮明さのためだけに用いています。

すると、以下のような画像が得られます。



IMGBOXコマンドには、スキヤナから出力される署名画像のサイズや表示を変える

ことができる多種多様なモディファイが用意されています。モディファイは転送

される画像に影響しますが、メモリの画像には影響しません。モディファイは、

かならず数字で始まって文字(大文字小文字に関係無し)で終わります。

すべての番号のモディファイがIMGBOXコマンドに付加されます。

注: IMGBOXコマンドはウィンドウサイズ(高さ&幅)が指定されない限り、

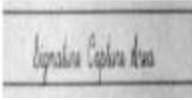
NAK返信を行います。署名取り込みエリアの高さ(8-17ページ)と署名取り込みエリアの幅(8-18ページ)を参照してください。

IMGBOX モディファイ

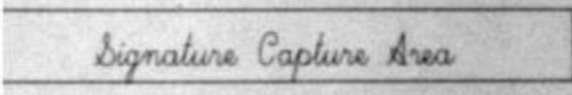
A - Output Image Width (出力画像の幅)

このオプションは、画像の幅を変えるのに使用します。このオプションを使用した場合、解像度(R)は0に設定されます。

幅を200Aに設定した場合



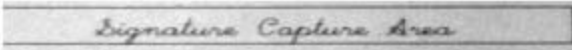
幅を600Aに設定した場合



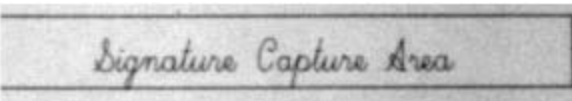
B - Output Image Height (出力画像の高さ)

このオプションは、画像の高さを変えるのに使用します。このオプションを使用した場合、解像度(R)は0に設定されます。

高さを50Bに設定した場合



高さを100Bに設定した場合



D - Pixel Depth (ピクセル濃度)

送信画像のピクセルあたりのビット数を示し、グレースケールか白黒かを設定します。

8D ピクセルあたり8ビット、グレースケール画像

1D ピクセルあたり1ビット、白黒画像

F - File Format (ファイルフォーマット)

画像を保存するファイルフォーマットの種類を示します。

0F KIMフォーマット

1F TIFF バイナリ

2F TIFF バイナリグループ4、圧縮

3F TIFF グレースケール

4F 非圧縮バイナリ

5F 非圧縮グレースケール

6F JPEG 画像 (初期設定)

7F 輪郭画像

8F BMPフォーマット

H - Height of Signature Capture Area (署名取り込みエリアの高さ)

取り込む領域の高さは0.01インチごとに測られます。例では、取り込みエリアの高さは3/8インチで、Hの値 = $.375/0.01 = 37.5$ となります。

例: `IMGBOX245w37h35y.`

K - Gamma Correction (ガンマ補正)

ガンマは、画像が生成する中間トーン値の明るさを決定します。ガンマ補正を使用すると、画像を明るくしたり暗くしたりできます。ガンマ補正を大きくすると、全体的に明るい画像が得られます。設定を低くすると、それだけ画像が暗くなります。適正設定は50Kです。

0K ガンマ補正オフ(初期設定)

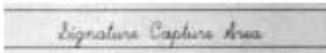
50K 標準の文書画像を明るくするためにガンマ補正を適用

nK ガンマ補正の係数 n (n = 1 ~ 255) を適用

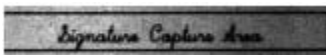
ガンマ補正 0K



ガンマ補正 50K



ガンマ補正 255K

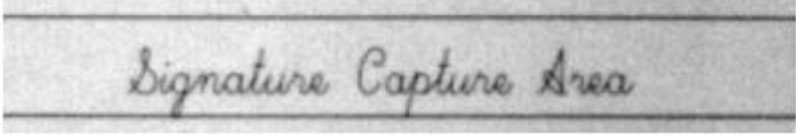


R - Resolution of Signature Capture Area (署名取り込みエリアの解像度)

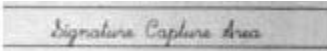
最小単位ごとにスキャナが出力するピクセル数です。Rの値を大きくすると画質が良くなりますが、ファイルサイズも大きくなります。値は1000からです。スキャナは自動的に、最初の桁と次の桁の間に小数点を挿入します。

例えば、解像度2.5を指定するには、2500を用います。AおよびBのモディファイを使用するときは、0に設定します(8-16ページの出力画像の幅と出力画像高さを参照のこと)。

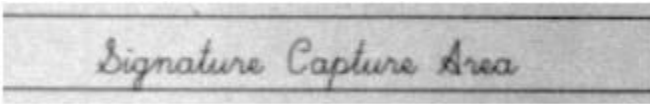
解像度設定: 0R



解像度設定: 1000R



解像度設定: 2000R



S - Bar Code Aspect Ratio (バーコード様相比)

IMGBOXに用いられる寸法はバーコードの最小エレメントサイズの倍数で測られます。Bar Code Aspect Ratioではバーコードの高さとナローエレメントの幅を設定することができます。例えば、ナローエレメントの幅が0.010インチ、バーコードの高さが0.400インチの場合、Sの値 = $0.4/0.01 = 40$ となります。

W - Width of Signature Capture Area (署名取り込みエリアの幅)

取り込む領域の高さは0.01インチごとに測られます。例えば、取り込む領域の幅が2.4インチの場合、W値 = $2.4/0.01 = 240$ となります(ここでは画像エリアを少し大きめに調節するため、245を用います)。

例: IMGBOX245w37h55y.

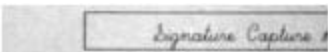
X - Horizontal Bar Code Offset (水平オフセット)

署名取り込み領域の中心を水平方向にずらしません。プラス数値は水平中心を右へ移動させ、マイナス数値は左へ移動させます。数値はバーの最小幅の倍数を用います。

水平オフセットを75Xに設定



水平オフセットを-75Xに設定



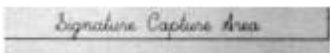
Y - Vertical Bar Code Offset(縦オフセット)

署名取り込み領域の中心を縦方向にずらします。プラス数値は水平中心を上へ移動させ、マイナス数値は下へ移動させます。数値はバーの最小幅の倍数を用います。

縦オフセットを-7Yで設定



縦オフセットを65Yで設定



RF 初期設定のイメージングデバイス

このスキャナはイメージングコマンドプロセス (IMGSHP, IMGSNP, IMG-BOX) をサポートしており、EZConfig-Scanning (10-3ページ参照) やその他のアプリケーションはスキャナと直接接続されているかのように画像機能を実行することができます。これを行うためには、RF_DID (RF Default Imaging Device) と呼ばれるメニューコマンドを使用します。RF_DID とはイメージングコマンドを受け取るスキャナ(BT_NAM)の名称です。RF_DID の初期設定は「*」で、イメージングコマンドがすべての連結するスキャナに送信されることを示します。特定のスキャナに送るようするにはRF_DIDscanner_nameに変更してください。各スキャナのポート、ワークグループ、スキャナ名とアドレスのレポートを作成するには3-9ページの「[ページング](#)」の項目を参照してください。また、各スキャナに固有のネームをつける場合は、3-22 ページの「[スキャナ名](#)」の項目を参照してください。



インターフェースキー

キーボードファンクションの対応

以下のキーボードファンクションコード、Hex/ASCII 値、Full ASCII「CTRL」+ の関係はスキャナと用いられるすべてのターミナルに対応しています。

2-19ページ Control + ASCII 有効化モードの項目をご参照ください。

ファンクションコード	HEX/ASCII 値	Full ASCII 「CTRL」+
NUL	00	@
SOH	01	A
STX	02	B
ETX	03	C
EOT	04	D
ENQ	05	E
ACK	06	F
BEL	07	G
BS	08	H
HT	09	I
LF	0A	J
VT	0B	K
FF	0C	L
CR	0D	M
SO	0E	N
SI	0F	O
DLE	10	P
DC1	11	Q
DC2	12	R
DC3	13	S
DC4	14	T
NAK	15	U
SYN	16	V
ETB	17	W
CAN	18	X
EM	19	Y
SUB	1A	Z
ESC	1B	[
FS	1C	\
GS	1D]
RS	1E	^
US	1F	_

Full ASCII「CTRL」+ のカラムの最後の 5 つのキャラクタ([\]6-)は、米国のみ対応します。次の表は、これらの 5 つのキャラクタの国別の同等キャラクタを示します。

国名	コード				
米国	[\]	6	-
ベルギー	[<]	6	-
スカンジナビア	8	<	9	6	-
フランス	^	8	\$	6	=
ドイツ		Ã	+	6	-
イタリア		\	+	6	-
スイス		<	..	6	-
英国	[¢]	6	-
デンマーク	8	\	9	6	-
ノルウェー	8	\	9	6	-
スペイン	[\]	6	-

サポートされているインターフェースキー

ASCII	HEX	IBM AT/XT、 PS/2の互換機、 WYSE PC/AT のサポートキー	IBM XTと互換機 のサポートキー	IBM、DDC、 Memorex Telex、 Harris*の サポートキー
NUL	00	Reserved	Reserved	Reserved
SOH	01	Enter (KP)	CR/Enter	Enter
STX	02	Cap Lock	Caps Lock	F11
ETX	03	ALT make	Reserved	F12
EOT	04	ALT break	Reserved	F13
ENQ	05	CTRL make	Reserved	F14
ACK	06	CTRL break	Reserved	F15
BEL	07	CR/Enter	CR/Enter	New Line
BS	08	Reserved	Reserved	F16
HT	09	Tab	Tab	F17
LF	0A	Reserved	Reserved	F18
VT	0B	Tab	Tab	Tab/Field Forward
FF	0C	Delete	Delete	Delete
CR	0D	CR/Enter	CR/Enter	Field Exit/New Line
SO	0E	Insert	Insert	Insert
SI	0F	Escape	Escape	F19
DLE	10	F11	Reserved	Error Reset
DC1	11	Home	Home	Home
DC2	12	Print	Print	F20
DC3	13	Back Space	Back Space	Back Space
DC4	14	Back Tab	Back Tab	Backfield/Back Tab
NAK	15	F12	Reserved	F21
SYN	16	F1	F1	F1
ETB	17	F2	F2	F2
CAN	18	F3	F3	F3
EM	19	F4	F4	F4
SUB	1A	F5	F5	F5
ESC	1B	F6	F6	F6
FS	1C	F7	F7	F7
GS	1D	F8	F8	F8
RS	1E	F9	F9	F9
US	1F	F10	F10	F10

ASCII

HEX

IBM AT/XT、
PS/2の互換機、
WYSE PC/AT
のサポートキー

IBM XTと互換機
のサポートキー

IBM、DDC、
Memorex Telex、
Harris*の
サポートキー

* IBM 3191/92、3471/72、3196/97、3476/77、Telex (全モデル)

サポートされているインターフェースキー

ASCII	HEX	IBM、Memorex Telex (102)*のサポートキー	Memorex Telex (88)** のサポートキー
NUL	00	Reserved	Reserved
SOH	01	Enter	Enter
STX	02	F11	PF10
ETX	03	F12	PF11
EOT	04	F13	PF12
ENQ	05	F14	Reserved
ACK	06	F15	Reserved
BEL	07	New Line	New Line
BS	08	F16	Field Forward
HT	09	F17	Field Forward
LF	0A	F18	Reserved
VT	0B	Tab/Field Forward	Field Forward
FF	0C	Delete	Delete
CR	0D	Field Exit	New Line
SO	0E	Insert	Insert
SI	0F	Clear	Erase
DLE	10	Error Reset	Error Reset
DC1	11	Home	Reserved
DC2	12	Print	Print
DC3	13	Back Space	Back Space
DC4	14	Back Tab	Back Field
NAK	15	F19	Reserved
SYN	16	F1	PF1
ETB	17	F2	PF2
CAN	18	F3	PF3
EM	19	F4	PF4
SUB	1A	F5	PF5
ESC	1B	F6	PF6
FS	1C	F7	PF7
GS	1D	F8	PF8
RS	1E	F9	PF9
US	1F	F10	Home

* IBM 3196/97、3476/77、3191/92、3471/72、102キーボード付きMemorex Telex (全モデル)

** 88キーボード付きMemorex Telex

サポートされているインターフェースキー

ASCII	HEX	Esprit 200・400 ANSIの サポートキー	Esprit 200・400 ASCIIの サポートキー	Esprit 200・400 PCのサポートキー
NUL	00	Reserved	Reserved	Reserved
SOH	01	New Line	New Line	New Line
STX	02	N/A	N/A	N/A
ETX	03	N/A	N/A	N/A
EOT	04	N/A	N/A	N/A
ENQ	05	N/A	N/A	N/A
ACK	06	N/A	N/A	N/A
BEL	07	New Line	New Line	New Line
BS	08	N/A	N/A	N/A
HT	09	Tab	Tab	Tab
LF	0A	N/A	N/A	N/A
VT	0B	Tab	Tab	Tab
FF	0C	N/A	N/A	Delete
CR	0D	New Line	New Line	New Line
SO	0E	N/A	N/A	Insert
SI	0F	Escape	Escape	Escape
DLE	10	F11	F11	F11
DC1	11	Insert	Insert	Home
DC2	12	F13	F13	Print
DC3	13	Back Space	Back Space	Back Space
DC4	14	Back Tab	Back Tab	Back Tab
NAK	15	F12	F12	F12
SYN	16	F1	F1	F1
ETB	17	F2	F2	F2
CAN	18	F3	F3	F3
EM	19	F4	F4	F4
SUB	1A	F5	F5	F5
ESC	1B	F6	F6	F6
FS	1C	F7	F7	F7
GS	1D	F8	F8	F8
RS	1E	F9	F9	F9
US	1F	F10	F10	F10

サポートされているインターフェースキー

ASCII	HEX	Apple Mac/iMacの サポートキー
NUL	00	Reserved
SOH	01	Enter/Numpad Enter
STX	02	CAPS
ETX	03	ALT make
EOT	04	ALT break
ENQ	05	CNTRL make
ACK	06	CNTRL break
BEL	07	RETURN
BS	08	APPLE make
HT	09	TAB
LF	0A	APPLE break
VT	0B	TAB
FF	0C	Del
CR	0D	RETURN
SO	0E	Ins Help
SI	0F	ESC
DLE	10	F11
DC1	11	Home
DC2	12	Prnt Scrn
DC3	13	BACKSPACE
DC4	14	LSHIFT TAB
NAK	15	F12
SYN	16	F1
ETB	17	F2
CAN	18	F3
EM	19	F4
SUB	1A	F5
ESC	1B	F6
FS	1C	F7
GS	1D	F8
RS	1E	F9
US	1F	F10
DEL	7F	BACKSPACE



全シンボルへのテストコードIDプレフィックス追加

これを選択すると、デコードされたシンボルの前にコード ID を送信することができます。(各シンボルを識別する単独のシンボルキャラクタコードについては、A-1 ページからの[シンボルチャート](#)を参照してください。)ここでは、まず現在のプレフィックスをすべて消去し、その後すべてのシンボルについてコード IDプレフィックスを設定します。これは、電源を入れなおすと削除される一時設定です。



PRECA2,BK2995C80!
Add Code I.D. Prefix to

All Symbolgies (Temporary)

(全シンボルへのコードIDプレフィックス追加(一時設定))

デコーダの改訂情報表示

次のバーコードを読み取り、デコーダの改訂情報を出力します。



REV_DR.

Show Decoder Revision(デコーダ改訂情報表示)

読み取りドライバの改訂情報表示

次のバーコードを読み取り、ドライバの改訂情報を出力します。読み取りドライバは画像の取り込みを制御します。



REV_SD.

Show Scan Driver Revision(読み取りドライバ改訂情報表示)

ソフトウェアの改訂情報表示

次のバーコードを読み取り、スキャナならびにベースに関する現在のソフトウェアの改訂情報、シリアルナンバー、およびその他の製品情報を出力します。



REVINF.

Show Revision(改訂情報表示)

データフォーマットの表示

次のバーコードを読み取り、現在のデータフォーマット設定を表示します。



DFMBK3?.

Data Format Settings (データフォーマット設定)

テストメニュー

テストメニューの On バーコードを読み取り、次に本書のプログラミングコードを読み取ると、スキャナはプログラミングコードの内容を表示します。プログラミングファンクションはまだ存在しますが、それに加えてそのプログラミングコードの内容もターミナルに出力されます。

注:この機能は、通常のスキャナ操作では使用しないでください。



TSTMNU1.

On (オン)



TSTMNU0.

* Off (オフ)

TotalFreedom

TotalFreedomとはご使用のスキャナ中にアプリケーションを作成することができるオープンシステムアーキテクチャです。このTotalFreedomで画像処理、デコード、データフォーマットの三種のアプリケーションの作成が可能です。TotalFreedomについて詳しくはwww.honeywellaidc.comのウェブサイトをご覧ください。

アプリケーションのプラグイン (Apps)

以下のバーコードを読み取ることで、ご使用のいかなるアプリケーションもオフ/オンにすることができます。アプリケーションはイメージング、デコード、フォーマットというグループごとに保存されています。以下にあるこれらのグループのOn/Offバーコードを読み取り、アプリケーションを立ち上げたり、閉じたりすることができます。また、List Appsバーコードを読み取ると、すべてのアプリケーションのリストを出力します。



PLGIPE1.

- Imaging Apps On
- (画像アプリオン)



PLGIPE0.

- Imaging Apps Off
- f(画像アプリ、オフ)



PLGDCE1.

- Decoding Apps On
- (デコードアプリ、オン)



PLGDCE0.

- Decoding Apps Off
- (デコードアプリ、オフ)



PLGFOE1.

- Formatting Apps On
- (フォーマットアプリ、オン)



PLGFOE0.

- Formatting Apps Off
- (フォーマットアプリ、オフ)



PLGINF.

List Apps (アプリリスト)

注: アプリケーションを有効にするためには、デバイスを再起動しなければなりません。

EZConfig について

EZConfigはPCのCOMポートにスキャナを接続することにより、多様なPCベースのプログラミング機能を提供することができます。EZConfigを用いると、スキャナのアップグレードの為にファームウェアをダウンロードしたり、設定済みのパラメータを変更したり、プログラミングバーコードを作成して印刷することができます。さらに、スキャナのプログラミングパラメータを保存したり開いたりすることもできます。この保存ファイルは電子メールで送信でき、必要であれば、カスタマイズされたプログラミングパラメータをすべて含む単一のバーコードを作成し、どこへでもメールやファックスで送信することができます。他の場所にいるユーザは、そのバーコードを読み取り、カスタマイズされたプログラミングに組み込むことができます。

スキャナとの通信のため、EZConfigではコンピュータに少なくとも1つの空きシリアル通信ポートか、または物理的なUSBポートを使用したシリアルポートのエミュレーションが必要です。シリアルポートとRS-232ケーブルをご使用の場合は、外部電源が必要です。USBシリアルポートのエミュレーションを使用している場合は、USBケーブルのみ必要です。

EZConfig の操作

EZConfigソフトウェアでは、以下の操作を実行します。

データの読み取り

データの読み取りにより、バーコードを読み取って、ウィンドウにバーコードデータを表示することができます。また、シリアルコマンドをスキャナに送信したり、スキャナからの応答を受信したりでき、Scan Data ウィンドウでこれらを確認することができます。Scan Data ウィンドウに表示されるデータは、ファイルに保存したり、印刷することもできます。

環境設定

環境設定は、スキャナのプログラミングと環境設定データを表示します。イメージャのプログラミングと環境設定データは、異なるカテゴリに分類されます。各カテゴリは、アプリケーションエクスプローラの「Configure」ツリーノードの下にツリーアイテムとして表示されます。これらのツリーノードのうちの1つをクリックすると、その特定のカテゴリに所属するパラメータのフォームが右側に表示されます。「Configure」ツリーオプションには、スキャナ用に指定したプログラミングと環境設定パラメータのすべてが含まれています。これらのパラメータは、必要に応じて設定または変更できます。後で、変更した設定値をスキャナに書き込んだり、dcfファイルに保存したりできます。

イメージング

イメージングは、2Dスキャナが実行できる画像関連のすべての機能を提供します。現在の設定を利用して画像を取り込むことができます。画像はイメージウィンドウに表示されます。スキャナから取り込んだ画像は、いろいろな画像フォーマットでファイルに保存できます。画像設定を変更してINIファイルに保存することもできます。また、後でこの設定を読み込んで新しい画像を取り込むこともできます。イメージングにより、スキャナが取り込んだ画像を連続的にプレビューできます。

ウェブからのEZConfigのインストール

注: EZConfigには.NETソフトウェアが必要です。お使いのPCに.NETがインストールされていない場合、EZConfigのインストール時に.NETのインストールを促すメッセージが表示されます。

1. www.honeywellaidc.com からHoneywellウェブサイトアクセスします。
2. Resourcesタブをクリックし、Product Downloads-Softwareを選択します。
3. ドロップダウンメニューからSelect Product Numberをクリックし、次にXenonをクリックします。
4. EZConfigのリストをクリックします。
5. 指示が出たら、Save Fileを選択し、ファイルをc:\windows\tempディレクトリに保存します。

-
6. ファイルのダウンロードが終了したらウェブサイトを閉じます。
 7. エクスプローラを使用し、c:\windows\temp のファイルに進みます。
 8. **Setup.exe** ファイルをダブルクリックします。画面の指示に従ってEZConfigプログラムをインストールします。
 9. インストール時にデフォルトを選択した場合は、**Start Menu-All Programs-Honeywell-EZConfig**をクリックしてください。



シリアルプログラミングコマンド

シリアルプログラミングコマンドをプログラミングバーコードの代わりに使用できます。シリアルコマンドとプログラミングバーコードは、どちらもスキャナをプログラム設定します。各シリアルプログラミングコマンドの解説と例については、本書の対応するプログラミングバーコードを参照してください。

機器は、RS-232 インタフェース用に設定する必要があります(2-2 ページを参照)。下記のコマンドは、ターミナルエミュレーションソフトを用いてPC COM 経由で送信できます。

記述上の語句

メニューと質問コマンドの記述には、以下の取り決めが用いられています。

Parameter コマンドの一部として送信する実際の値

[option] コマンドのオプション部分

{Data} コマンド内の選択肢

bold 画面に表示されるメニュー名、メニューコマンド、ボタン、ダイアログボックス、およびウィンドウ

メニューコマンドシンタックス

メニューコマンドのシンタックスは以下のとおりです。スペースを用いているのは、単にわかりやすくするためです。)

Prefix [:Name:] Tag SubTag {Data} [, SubTag {Data}] [; Tag SubTag {Data}] [...]
Storage

Prefix 3 つの ASCII キャラクタ: **SYN M CR** (ASCII 22、77、13)

:Name: 「:Xenon:」を用いて、情報をスキャナに送信する(ホストに連結したベースとともに)。

工場出荷時のXenonスキャナの初期設定はXenonスキャナです。この設定は

BT_NAM コマンドを用いて変更ができ、アルファベット値を受け付けます。

ネームがわからない場合は、「*」を:*の形で用います。

注:ベースはすべてのワークグループの設定を保存し、それらと接続されると

すぐにスキャナに転送します。変更はベースに対してのみ行われ、スキャナには行われません。

Tag メニューコマンドグループを識別する大文字小文字の区別が無い
3 キャラクタのフィールド。例えば、RS232 の環境設定は、すべて
232 という Tag で識別されます。

SubTag タググループの中のメニューコマンドグループを識別する大文字
小文字の区別が無い 3 キャラクタのフィールド。例えば、RS232
ボーレートの SubTag は **BAD**。

Data メニュー設定の新規値。Tag と SubTag で識別されます。

Storage コマンドを適用するストレージテーブルを指定する 1 つのキャラクタ。感嘆符 (!) は、機器の一時的なメモリー上でコマンド操作を実行します。ピリオド (.) の場合は、機器の不揮発性メモリー上でコマンド操作を実行します。不揮発性メモリー上は、始動時に保存したい半恒久的な変更の場合だけに使用します。

質問コマンド

設定について機器から返答を得るためのいくつかの特殊キャラクタを使用できます。

- ^ 設定の初期値
- ? 機器の現在の設定値
- * 設定で可能な範囲 (機器のレスポンスでは、ダッシュ (-) で値の連続範囲を示し、パイプ (|) で不連続値の一覧の項目を区切ります。

:Name: フィールドの使い方 (オプション)

このコマンドを用いると、スキャンからの質問情報を返送します。

Tag フィールドの使い方

Tag フィールドに代わって質問を使用すると、コマンドの Storage フィールドで示された特定のストレージテーブルで使用可能なコマンドのセット全体に質問します。この場合、機器には無視されるため、SubTag および Data フィールドは使用しないでください。

SubTag フィールドの使い方

SubTag フィールドに代わって質問を使用すると、Tag フィールドに一致する使用可能なコマンドのサブセットだけに質問します。この場合、機器には無視されるので Data フィールドは使用しないでください。

Data フィールドの使い方

Data フィールドに代わって質問を使用すると、Tag および SubTag フィールドで識別される特定コマンドだけに質問します。

複数コマンドの連結機能

複数のコマンドを 1 つの Prefix/Storage シーケンス内で使用できます。シーケンスのコマンドごとに繰り返す必要があるのは、Tag、SubTag、および Data フィールドだけです。同じ Tag でコマンドを追加する場合は、新しいコマンドシーケンスをコンマ (,) で区切り、追加コマンドの SubTag および Data フィールドだけを記述します。追加コマンドで異なる Tag フィールドが必要な場合は、そのコマンドをセミコロン (;) で前のコマンドと区切ります。

レスポンス

機器は、次の3つのレスポンスの1つによってシリアルコマンドに応答します。

ACK 正しくコマンドを実行した。

ENQ Tag または SubTag コマンドが無効。

NAK コマンドは正しいが、Data フィールドの入力がこのTag および SubTag 組み合わせの許容範囲外。例えば、フィールドが2キャラクタしか受け付けないときに最小読み取り桁数の入力が100になっている場合。
応答の際、機器はコマンドの各句読点(ピリオド、感嘆符、コンマ、またはセミコロン)の直前にステータスキャラクタを挿入したコマンドシーケンスを返します。

質問コマンドの例

以下の例では、角カッコ [] は非表示レスポンスを示します。

例: Codabar Coding Enableで可能な値の範囲は？

入力: cbrena*.

レスポンス: CBRENA0-1[ACK]

Codabar Coding Enable (CBRENA)の値の範囲が0 - 1(オフとオン)であることを示します。

例: Codabar Coding Enableの初期設定値は？

入力: cbrena^.

レスポンス: CBRENA1[ACK]

Codabar Coding Enable (CBRENA)の初期設定が1、またはオンであることを示しています。

例: Codabar Coding Enable に関する現在の機器設定は？

入力: cbrena?.

レスポンス: CBRENA1[ACK]

機器のCodabar Coding Enable (CBRENA) が1、またはオンに設定されていることを示します。

例: すべてのコーダバー選択項目に対する機器の設定は？

入力: cbr?.

レスポンス: CBRENA1[ACK],

SSX0[ACK],

CK20[ACK],

CCT1[ACK],

MIN2[ACK],

MAX60[ACK], DFT[ACK].

このレスポンスは、機器のCodabar Coding Enable (CBRENA) が1、またはオンに設定され、スタート/ストップキャラクタ(SSX)は 0、または Don't Transmit に、チェックキャラクタ(CK2)は 0、または Not Required に、連結機能(CCT)は 1、または Enabled に、最小読み取り桁数(MIN)は 2 キャラクタに、最大読み取り桁数(MAX)は 60 キャラクタに、また初期設定(DFT)には値が無いことを示しています。

トリガーコマンド

シリアルトリガーコマンドでスキャナをアクティブまたは非アクティブにできます。まず、マニュアル/シリアルトリガーモードのバーコード(4-6 ページ)を読み取るか、トリガー用のシリアルメニューコマンド(11-18 ページ)を送り、スキャナをマニュアルトリガーモードにします。スキャナがいったんシリアルトリガーモードになると、以下のコマンドを送ってトリガーをアクティブ/非アクティブにできます。

アクティブにする: SYN T CR

非アクティブにする: SYN U CR

スキャナはバーコードを読み取るか、非アクティブ化コマンドが送信されるか、シリアルタイムアウトになるまで読み取りを実行します。(説明については4-7 ページの「リードタイムアウト」を、また11-18 ページのシリアルコマンドを参照。)

標準の製品初期設定のリセット

スキャナに保存されているデフォルト設定をカスタマイズしたいときは、次の **Activate Custom Defaults** のバーコードを読み取ります。これで、スキャナのお客様のデフォルト設定を再設定します。カスタムデフォルトがない場合は、工場出荷時設定へと再設定します。カスタムデフォルトを通じて指定されていない設定はすべて工場出荷時設定へとデフォルトされます。



DEFAULT.
Activate Custom Defaults

注:コードレスシステムをご使用の場合、スキャナとベースもしくはアクセスポイントがともにリセットされてしまい、非接続になってしまいます。接続を再度確立するには、スキャナをベースに置いてください。アクセスポイントを用いている場合は、接続バーコードを読み取る必要があります。詳細は [3-1ページからのコードレスシステム操作](#) をご覧ください。

以下のページからのチャートは、各メニューコマンド(プログラミングページでスタリスク(*)で表示)の標準の工場出荷時設定一覧です。

メニューコマンド

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Product Default Settings (製品の初期設定)			
Setting Custom Defaults	Set Custom Defaults	MNUCDF	1-9
	Save Custom Defaults	DEFAULT	1-9
Resetting the Custom Defaults	Activate Custom Defaults	DEFAULT	1-10
Resetting the Factory Defaults	Remove Custom Defaults	DEFOVR	1-10
	Activate Defaults	DEFAULT	1-10
Resetting the Factory Defaults - cordless scanners	Factory Default Settings: All Application Groups	PAPDFT&	3-25
Resetting the Custom Defaults - cordless scanners	CustomDefault Settings: All Application Groups	PAPDFT	3-26
Programming the Interface (インターフェース設定)			
Plug and Play Codes	Keyboard Wedge: IBM PC AT and Compatibles with CR suffix	PAP_AT	2-1
	Laptop Direct Connect with CR suffix	PAPLTD	2-1
	RS232 Serial Port	PAP232	2-2

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数字入力を示す	ページ
Plug and Play Codes: RS485	IBM Port 5B Interface	PAPP5B	2-2
	IBM Port 9B HHBCR-1 Interface	PAP9B1	2-2
	IBM Port 17 Interface	PAPP17	2-2
	IBM Port 9B HHBCR-2 Interface	PAP9B2	2-2
	RS485 Packet Mode On	RTLPDF1	2-3
	RS485 Packet Mode Off	RTLPDF0	2-3
	RS485 Packet Length (20-256)	RTLMP5	2-3
Plug and Play Codes: IBM SurePos	USB IBM SurePos Handheld	PAPSPH	2-4
	USB IBM SurePos Tabletop	PAPSPT	2-4
Plug and Play Codes: USB	USB Keyboard (PC)	PAP124	2-4
	USB Keyboard (Mac)	PAP125	2-4
	USB Japanese Keyboard (PC)	TRMUSB134	2-4
	USB HID	PAP131	2-5
	USB Serial	TRMUSB130	2-5
	CTS/RTS Emulation On	USBCTS1	2-5
	CTS/RTS Emulation Off*	USBCTS0	2-5
	ACK/NAK Mode On	USBACK1	2-6
	ACK/NAK Mode Off*	USBACK0	2-6

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Plug and Play Codes	Verifone Ruby Terminal	PAPRBY	2-6
	Gilbarco Terminal	PAPGLB	2-7
	Honeywell Bioptic Aux Port	PAPBIO	2-7
	Datalogic Magellan Bioptic Aux Port	PAPMAG	2-7
	NCR Bioptic Aux Port	PAPNCR	2-8
	Wincor Nixdorf Terminal	PAPWNX	2-8
	Wincor Nixdorf Beetle	PAPBTL	2-9
Program Keyboard Country	*U.S.A.	KBDCTY0	2-10
	Albania	KBDCTY35	2-10
	Azeri (Cyrillic)	KBDCTY81	2-10
	Azeri (Latin)	KBDCTY80	2-10
	Belarus	KBDCTY82	2-10
	Belgium	KBDCTY1	2-10
	Bosnia	KBDCTY33	2-10
	Brazil	KBDCTY16	2-10
	Brazil (MS)	KBDCTY59	2-11
	Bulgaria (Cyrillic)	KBDCTY52	2-11
	Bulgaria (Latin)	KBDCTY53	2-11
	Canada (French legacy)	KBDCTY54	2-11
	Canada (French)	KBDCTY18	2-11
	Canada (Multilingual)	KBDCTY55	2-11
	Croatia	KBDCTY32	2-11
	Czech	KBDCTY15	2-11

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Program Keyboard Country	Czech (Programmers)	KBDCTY40	2-11
	Czech (QWERTY)	KBDCTY39	2-11
	Czech (QWERTZ)	KBDCTY38	2-11
	Denmark	KBDCTY8	2-11
	Dutch (Netherlands)	KBDCTY11	2-11
	Estonia	KBDCTY41	2-12
	Faeroese	KBDCTY83	2-12
	Finland	KBDCTY2	2-12
	France	KBDCTY3	2-12
	Gaelic	KBDCTY84	2-12
	Germany	KBDCTY4	2-12
	Greek	KBDCTY17	2-12
	Greek (220 Latin)	KBDCTY64	2-12
	Greek (220)	KBDCTY61	2-12
	Greek (319 Latin)	KBDCTY65	2-12
	Greek (319)	KBDCTY62	2-12
	Greek (Latin)	KBDCTY63	2-12
	Greek (MS)	KBDCTY66	2-12
	Greek (Polytonic)	KBDCTY60	2-13
	Hebrew	KBDCTY12	2-13
	Hungarian (101 key)	KBDCTY50	2-13
	Hungary	KBDCTY19	2-13
	Iceland	KBDCTY75	2-13
	Irish	KBDCTY73	2-13
	Italian (142)	KBDCTY56	2-13
	Italy	KBDCTY5	2-13
	Japan ASCII	KBDCTY28	2-13
	Kazakh	KBDCTY78	2-13
	Kyrgyz (Cyrillic)	KBDCTY79	2-13
	Latin America	KBDCTY14	2-13
	Latvia	KBDCTY42	2-13

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Program Keyboard Country	Latvia (QWERTY)	KBDCTY43	2-14
	Lithuania	KBDCTY44	2-14
	Lithuania (IBM)	KBDCTY45	2-14
	Macedonia	KBDCTY34	2-14
	Malta	KBDCTY74	2-14
	Mongolian (Cyrillic)	KBDCTY86	2-14
	Norway	KBDCTY9	2-14
	Poland	KBDCTY20	2-14
	Polish (214)	KBDCTY57	2-14
	Polish (Programmers)	KBDCTY58	2-14
	Portugal	KBDCTY13	2-14
	Romania	KBDCTY25	2-14
	Russia	KBDCTY26	2-14
	Russian (MS)	KBDCTY67	2-15
	Russian (Typewriter)	KBDCTY68	2-15
	SCS	KBDCTY21	2-15
	Serbia (Cyrillic)	KBDCTY37	2-15
	Serbia (Latin)	KBDCTY36	2-15
	Slovakia	KBDCTY22	2-15
	Slovakia (QWERTY)	KBDCTY49	2-15
	Slovakia (QWERTZ)	KBDCTY48	2-15
	Slovenia	KBDCTY31	2-15
	Spain	KBDCTY10	2-15
	Spanish variation	KBDCTY51	2-15
	Sweden	KBDCTY23	2-15
	Switzerland (French)	KBDCTY29	2-15
	Switzerland (German)	KBDCTY6	2-16
	Tatar	KBDCTY85	2-16
	Turkey F	KBDCTY27	2-16
	Turkey Q	KBDCTY24	2-16

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数字入力を示す	ページ
Program Keyboard Country	Ukrainian	KBDCTY76	2-16
	United Kingdom	KBDCTY7	2-16
	United States (Dvorak right)	KBDCTY89	2-16
	United States (Dvorak left)	KBDCTY88	2-16
	United States (Dvorak)	KBDCTY87	2-16
	United States (International)	KBDCTY30	2-16
	Uzbek (Cyrillic)	KBDCTY77	2-16
Keyboard Conversion	*Keyboard Conversion Off	KBDCNV0	2-18
	Convert all Characters to Upper Case	KBDCNV1	2-18
	Convert all Characters to Lower Case	KBDCNV1	2-18
Keyboard Style	*Regular	KBDSTY0	2-17
	Caps Lock	KBDSTY1	2-17
	Shift Lock	KBDSTY2	2-17
	Automatic Caps Lock	KBDSTY6	2-17
	Emulate External Keyboard	KBDSTY5	2-18
Control Character Output	*Control Character Output Off	KBDNPE0	2-19
	*Control Character Output On	KBDNPE1	2-19

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Keyboard Modifiers	*Control + ASCII Off	KBDCAS0	2-20
	DOS Mode Control + ASCII	KBDCAS1	2-20
	Windows Mode Control + ASCII	KBDCAS2	2-20
	Windows Mode Prefix/Suffix Off	KBDCAS3	2-20
	*Turbo Mode Off	KBDTMD0	2-20
	Turbo Mode On	KBDTMD1	2-20
	*Numeric Keypad Off	KBDNPS0	2-20
	Numeric Keypad On	KBDNPS1	2-20
	*Auto Direct Connect Off	KBDADC0	2-21
	Auto Direct Connect On	KBDADC1	2-21
Baud Rate	300 BPS	232BAD0	2-22
	600 BPS	232BAD1	2-22
	1200 BPS	232BAD2	2-22
	2400 BPS	232BAD3	2-22
	4800 BPS	232BAD4	2-22
	*9600 BPS	232BAD5	2-22
	19200 BPS	232BAD6	2-22
	38400 BPS	232BAD7	2-22
	57600 BPS	232BAD8	2-22
	115200 BPS	232BAD9	2-22

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Word Length: Data Bits, Stop Bits, and Parity	7 Data, 1 Stop, Parity Even	232WRD3	2-23
	7 Data, 1 Stop, Parity None	232WRD0	2-23
	7 Data, 1 Stop, Parity Odd	232WRD6	2-23
	7 Data, 2 Stop, Parity Even	232WRD4	2-23
	7 Data, 2 Stop, Parity None	232WRD1	2-23
	7 Data, 2 Stop, Parity Odd	232WRD7	2-23
	8 Data, 1 Stop, Parity Even	232WRD5	2-23
	*8 Data, 1 Stop, Parity None	232WRD2	2-23
	8 Data, 1 Stop, Parity Odd	232WRD8	2-23
RS232 Receiver Time-out	Range 0 - 300 seconds	232LPT###	2-24
RS232 Handshaking	*RTS/CTS Off	232CTS0	2-24
	Flow Control, No Timeout	232CTS1	2-24
	Two-Direction Flow Control	232CTS2	2-24
	Flow Control with Timeout	232CTS3	2-24
	RS232 Timeout	232DEL####	2-25
	*XON/XOFF Off	232XON0	2-25
	XON/XOFF On	232XON1	2-25
	*ACK/NAK Off	232ACK0	2-26
	ACK/NAK On	232ACK1	2-26
Scanner-Biopic Packet Mode	*Packet Mode Off	232PKT0	2-26
	Packet Mode On	232PKT2	2-3

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Scanner-Bioptic ACK/NAK Mode	*Bioptic ACK/NAK Off	232NAK0	2-27
	Bioptic ACK/NAK On	232NAK1	2-27
Scanner-Bioptic ACK/NAK Timeout	ACK/NAK Timeout *5100	232DLK#####	2-27
Cordless System Operation (コードレスシステム操作) 注: この部分はコードレスの場合のみ当てはまります。コード付きスキャナには対応していません。			
Base Power Communication Indicator	*On	BASRED1	3-8
	Off	BASRED0	3-8
Reset Scanner	Reset Scanner	RESET_	3-8
Scanning while in Base Cradle	Scanning in Cradle Off	BT_SIC0	3-8
	*Scanning in Cradle On	BT_SIC1	3-8
Paging Mode	*On	BEPPGE1	3-9
	Off	BEPPGE0	3-9
Paging Pitch	Range 400 - 9000 Hz (*1000)	BEPPFQ#####	3-9
Beeper Pitch - Base Error	*Razz (250) (min 200Hz)	BASFQ2250	3-10
	Medium (3250)	BASFQ23250	3-10
	High (4200) (max 9000Hz)	BASFQ24200	3-10
Number of Beeps - Base Error	*1	BASERR3	3-10
	Range 1 - 9	BASERR#	3-10
Scanner Report	Scanner Report	RPTSCN	3-10
Scanner Address	Scanner Address	BT_LDA	3-11
Base Address	Base Address	BASLDA	3-11

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Scanner Modes	Charge Only Mode	BASLNK0	3-11
	*Charge and Link Mode	BASLNK1	3-12
	Locked Link Mode	BASCON0,DNG1	3-13
	*Open Link Mode	BASCON1,DNG1	3-13
	Unlink Scanner	BT_RMV	3-13
	Override Locked Scanner	BT_RPL1	3-13
Out-of-Range Alarm	Base Alarm Duration (Range 1 - 3000 sec (*0))	BASORD	3-14
	Scanner Alarm Duration (Range 1 - 3000 sec (*0))	BT_ORD	3-14
Alarm Sound Type	Base Alarm Type	BASORW	3-14
	Scanner Alarm Type	BT_ORW	3-14
Flexible Power Management	*Full Power	BT_TXP100	3-15
	Medium Power	BT_TXP35	3-15
	Medium Low Power	BT_TXP5	3-15
	Low Power	BT_TXP1	3-15
	Reset Base	RESET_	3-16
	Reset Scanner	:*RESET_	3-16
Batch Mode	Automatic Batch Mode	BATENA1	3-17
	*Batch Mode Off	BATENA0	3-17
	Inventory Batch Mode	BATENA2	3-17
Batch Mode Beep	Off	BATBEP0	3-17
	*On	BATBEP1	3-17
Batch Mode Storage	*Flash Storage	BATNVS1	3-18
	RAM Storage	BATNVS0	3-18
Batch Mode Quantity	*Off	BATQTY0	3-18
	On	BATQTY1	3-18

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Quantity Codes	0	BATNUM0	3-19
	*1	BATNUM1	3-19
	2	BATNUM2	3-19
	3	BATNUM3	3-19
	4	BATNUM4	3-19
	5	BATNUM5	3-19
	6	BATNUM6	3-19
	7	BATNUM7	3-19
	8	BATNUM8	3-20
9	BATNUM9	3-20	
Batch Mode Output Order	FIFO	BATLIF0	3-20
	LIFO	BATLIF1	3-20
Delete Last Code	Delete Last Code	BATUND	3-20
Clear All Codes	Clear All Codes	BATCLR	3-20
Transmit Records to Host	Transmit Inventory Records	BAT_TX	3-21
Batch Mode Transmit Delay	*Off	BATDLY0	3-21
	Short (ms)	BATDLY250	3-21
	Medium (ms)	BATDLY500	3-21
	Long (ms)	BATDLY1000	3-21
Multiple Scanner Operation	Multiple Scanner Operation	BASCON2,DNG3	3-22
Scanner Name	Name 1-7	BT_NAME#####	3-23
	Reset	RESET_	3-23
	Scanner Name	BT_NAME	3-23
Application Work Group Selections	*Group 0	GRPSEL0	3-25
	Group 1-6	GRPSEL#	3-25
Resetting the Factory Defaults: All Application Work Groups	Factory Default Settings: All Work Groups	PAPDFT&	3-25

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Resetting the Custom Defaults: All Application Work Groups	Custom Default Settings: All Work Groups	PAPDFT	3-26
Bluetooth Connection	PCs/Laptops: Non-Base BT Connection	BT_DNG5	3-27
	BT Connection - PDA/Mobility Systems Device	BT_DNG1	3-27
Bluetooth PIN Code	Bluetooth PIN	BT_PIN	3-27
Auto Reconnect Mode	*Auto Reconnect On	BT_ACM1	3-28
	Auto Reconnect Off	BT_ACM0	3-28
Maximum Link Attempts	Maximum Link Attempts	BT_MLA	3-29
Relink Time-Out	Relink Time-Out	BT_RLT	3-30
Host Command Acknowledgment	Host ACK On	HSTACK1	3-32
	*Host ACK Off	HSTACK0	3-32
Input/Output Selections (入力・出力設定)			
Power Up Beeper	Power Up Beeper Off - Scanner	BEPPWR0	4-1
	*Power Up Beeper On - Scanner	BEPPWR1	4-1
	Power Up Beeper Off - Cordless Base	BASPWR0	4-1
	Power Up Beeper On - Cordless Base	BASPWR1	4-1
Beep on BEL Character	Beep on BEL On	BELBEP1	4-1
	*Beep on BEL Off	BELBEP0	4-1
Trigger Click	On	BEPTRG1	4-2
	*Off	BEPTRG0	4-2
Beeper - Good Read	Off	BEPBEP0	4-3
	*On	BEPBEP1	4-2

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Beeper Volume - Good Read	Off	BEPLVL0	4-2
	Low	BEPLVL1	4-3
	Medium	BEPLVL2	4-3
	*High	BEPLVL3	4-3
Beeper Pitch - Good Read (Frequency)	Low (1600) (min 400Hz)	BEPFQ11600	4-3
	*Medium 2700)	BEPFQ12700	4-3
	High (4200) (max 9000Hz)	BEPFQ14200	4-3
Beeper Pitch - Error (Frequency)	*Razz (250) (min 200Hz)	BEPFQ2800	4-4
	Medium (3250)	BEPFQ23250	4-4
	High (4200) (max 9000Hz)	BEPFQ24200	4-4
Beeper Duration - Good Read	*Normal Beep	BEPBIP0	4-4
	Short Beep	BEPBIP1	4-4
LED - Good Read	Off	BEPLD0	4-4
	*On	BEPLD1	4-4
Number of Beeps - Error	*1	BEPERR3	4-5
	Range 1 - 9	BEPERR#	4-5
Number of Beeps - Good Read	*1	BEPRPT1	4-5
	Range 1 - 9	BEPRPT#	4-5
Good Read Delay	*No Delay	DLYGRD0	4-6
	Short Delay (500 ms)	DLYGRD500	4-6
	Medium Delay (1000 ms)	DLYGRD1000	4-6
	Long Delay (1500 ms)	DLYGRD1500	4-6
User-Specified Good Read Delay	Range 0 - 30,000 ms	DLYGRD#####	4-6

選択項目	設定 •初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Manual/Serial Trigger Modes	*Manual Trigger - Normal	PAPHHF	4-7
	Manual Trigger - Enhanced	PAPHHS	4-7
	Read Time-Out (0 - 300,000 ms) *30,000	TRGSTO#####	4-7
	Scanner Power Time-Out Timer (0-7200 seconds) *3600	BT_LPT0	4-8
		BT_LPT200	4-8
		BT_LPT400	4-8
		BT_LPT900	4-8
BT_LPT3600		4-8	
BT_LPT7200	4-8		
In-Stand Sensor Mode	Sensor On	TRGSSW1	4-10
	Sensor Off	TRGSSW0	4-10
Presentation	Presentation Mode	TRGMOD3	4-9
Presentation LED Behavior After Decode	*LEDs On	TRGPCK1	4-9
	LEDs Off	TRGPCK0	4-9
Presentation Sensitivity	Range 0-20 (*1)	TRGPMS##	4-9
Streaming Presentation	Streaming Presentation Mode - Normal	PAPSPN	4-10
	Streaming Presentation Mode - Enhanced	PAPSPE	4-10
Mobile Phone Read Mode	Hand Held Scanning - Mobile Phone	PAPHHC	4-11
	Streaming Presentation - Mobile Phone	PAPSPC	4-11
Image Snap and Ship	Image Snap and Ship	TRGMOD6	4-12

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Hands Free Time-Out	Range 0 - 300,000 ms	TRGPT0#####	4-12
Reread Delay	Short (500 ms)	DLYRRD500	4-13
	*Medium (750 ms)	DLYRRD750	4-13
	Long (1000 ms)	DLYRRD1000	4-13
	Extra Long (2000 ms)	DLYRRD2000	4-12
User-Specified Reread Delay	Range 0 - 30,000 ms	DLYRRD#####	4-13
Illumination Lights	*Lights On	SCNLED1	4-13
	Lights Off	SCNLED0	4-13
Aimer Delay	200 milliseconds	SCNDLY200	4-14
	400 milliseconds	SCNDLY400	4-14
	*Off (no delay)	SCNDLY0	4-14
User-Specified Aimer Delay	Range 0 - 4,000 ms	SCNDLY#####	4-14
Scanner Time-Out	0 - 999,999 ms	SDRTIM#####	4-14
Aimer Mode	Off	SCNAIM0	4-15
	*Interlaced	SCNAIM2	4-15
Centering Window	Centering On	DECWIN1	4-16
	*Centering Off	DECWIN0	4-16
	Left of Centering Window (*40%)	DECLFT###	4-16
	Right of Centering Window (*60%)	DECRGT###	4-16
	Top of Centering Window (*40%)	DECTOP###	4-16
	Bottom of Centering Window (*60%)	DECBOT###	4-16

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Preferred Symbology	On	PRFENA1	4-17
	*Off	PRFENA0	4-17
	High Priority Symbology	PRFCOD##	4-17
	Low Priority Symbology	PRFBLK##	4-18
	Preferred Symbology Timeout (*500) Range 100-3000	PRFPTO####	4-18
	Preferred Symbology Default	PRFDFT	4-18
Output Sequence Editor	Enter Sequence	SEQBLK	4-21
	Default Sequence	SEQDFT	4-21
Partial Sequence	Transmit Partial Sequence	SEQTTS1	4-22
	*Discard Partial Sequence	SEQTTS0	4-22
Require Output Sequence	Required	SEQ_EN2	4-22
	On/Not Required	SEQ_EN1	4-22
	*Off	SEQ_EN0	4-22
Multiple Symbols	On	SHOTGN1	4-23
	*Off	SHOTGN0	4-23
No Read	On	SHWNRD1	4-23
	*Off	SHWNRD0	4-23
Video Reverse	Video Reverse Only	VIDREV1	4-24
	Video Reverse and Standard Bar Codes	VIDREV2	4-24
	*Video Reverse Off	VIDREVO	4-24
Prefix/Suffix Selections (プレフィックス・サフィックス設定)			
Add CR Suffix to All Symbologies		VSUFRCR	5-3

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Prefix	Add Prefix	PREBK2##	5-3
	Clear One Prefix	PRECL2	5-3
	Clear All Prefixes	PRECA2	5-3
Suffix	Add Suffix	SUFBK2##	5-4
	Clear One Suffix	SUFCL2	5-4
	Clear All Suffixes	SUFCA2	5-4
Function Code Transmit	*Enable	RMVFNC0	5-4
	Disable	RMVFNC1	5-4
Intercharacter Delay	Range 0 - 1000 (5ms increments)	DLYCHR##	5-5
User Specified Intercharacter Delay	Delay Length 0 - 1000 (5ms increments)	DLYCRX##	5-5
	Character to Trigger Delay	DLY_XX##	5-5
Interfunction Delay	Range 0 - 1000 (5ms increments)	DLYFNC##	5-6
Intermessage Delay	Range 0 - 1000 (5ms increments)	DLYMSG##	5-6
Data Formatter Selections (データフォーマット選択)			
Data Format Editor	*Default Data Format (None)	DFMDF3	6-1
	Enter Data Format	DFMBK3##	6-2
	Clear One Data Format	DFMCL3	6-3
	Clear All Data Formats	DFMCA3	6-3

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Data Formatter	Data Formatter Off	DFM_EN0	6-8
	*Data Formatter On, Not Required, Keep Prefix/Suffix	DFM_EN1	6-9
	Data Format Required, Keep Prefix/Suffix	DFM_EN2	6-9
	Data Formatter On, Not Required, Drop Prefix/Suffix	DFM_EN3	6-9
	Data Format Required, Drop Prefix/Suffix	DFM_EN4	6-9
Data Format Non- Match Error Tone	*Data Format Non- Match Error Tone On	DFMDECO	6-9
	Data Format Non- Match Error Tone Off	DFMDEC1	6-9
Primary/Alternate Data Formats	Primary Data Format	ALTFNM0	6-10
	Data Format 1	ALTFNM1	6-10
	Data Format 2	ALTFNM2	6-10
	Data Format 3	ALTFNM3	6-10
Single Scan Data Format Change	Single Scan-Primary Data Format	VSAF_0	6-11
	Single Scan-Data Format 1	VSAF_1	6-11
	Single Scan-Data Format 2	VSAF_2	6-11
	Single Scan-Data Format 3	VSAF_3	6-11
Symbologies (シンボル)			
All Symbologies	All Symbologies Off	ALLENA0	7-2
	All Symbologies On	ALLENA1	7-2

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Codabar	Default All Codabar Settings	CBRDFT	7-3
	Off	CBRENA0	7-3
	*On	CBRENA1	7-3
Codabar Start/Stop Char.	*Don't Transmit	CBRSSX0	7-3
	Transmit	CBRSSX1	7-3
Codabar Check Char.	*No Check Char.	CBRCK20	7-4
	Validate, But Don't Transmit	CBRCK21	7-4
	Validate, and Transmit	CBRCK22	7-4
Codabar Concatenation	*Off	CBRCCT0	7-4
	On	CBRCCT1	7-4
	Require	CBRCCT2	7-4
Codabar Message Length	Minimum (2 - 60) *4	CBRMIN##	7-5
	Maximum (2 - 60) *60	CBRMAX##	7-5
Code 39	Default All Code 39 Settings	C39DFT	7-6
	Off	C39ENA0	7-6
	*On	C39ENA1	7-6
Code 39 Start/Stop Char.	*Don't Transmit	C39SSX0	7-6
	Transmit	C39SSX1	7-6
Code 39 Check Char.	*No Check Char.	C39CK20	7-7
	Validate, But Don't Transmit	C39CK21	7-7
	Validate, and Transmit	C39CK22	7-7
Code 39 Message Length	Minimum (0 - 48) *0	C39MIN##	7-7
	Maximum (0 - 48) *48	C39MAX##	7-7
Code 39 Append	*Off	C39APP0	7-8
	On	C39APP1	7-8

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)	*Off	C39B320	7-8
	On	C39B321	7-8
Code 39 Full ASCII	*Off	C39ASC0	7-9
	On	C39ASC1	7-9
	Code 39 Code Page	C39DCP	7-10
Interleaved 2 of 5	Default All Interleaved 2 of 5 Settings	I25DFT	7-10
	Off	I25ENA0	7-10
	*On	I25ENA1	7-10
Interleaved 2 of 5 Check Digit	*No Check Char.	I25CK20	7-11
	Validate, But Don't Transmit	I25CK21	7-11
	Validate, and Transmit	I25CK22	7-11
Interleaved 2 of 5 Message Length	Minimum (2 - 80) *4	I25MIN##	7-11
	Maximum (2 - 80) *80	I25MAX##	7-11
NEC 2 of 5	Default All NEC 2 of 5 Settings	N25DFT	7-12
	Off	N25ENA0	7-12
	*On	N25ENA1	7-12
NEC 2 of 5 Check Digit	*No Check Char.	N25CK20	7-12
	Validate, But Don't Transmit	N25CK21	7-12
	Validate, and Transmit	N25CK22	7-12
NEC 2 of 5 Message Length	Minimum (2 - 80) *4	N25MIN##	7-13
	Maximum (2 - 80) *80	N25MAX##	7-13

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Code 93	Default All Code 93 Settings	C93DFT	7-14
	Off	C93ENA0	7-14
	*On	C93ENA1	7-15
Code 93 Message Length	Minimum (0 - 80) *0	C93MIN##	7-14
	Maximum (0 - 80) *80	C93MAX##	7-14
	Code 93 Code Page	C93DCP	7-15
Straight 2 of 5 Industrial	Default All Straight 2 of 5 Industrial Settings	R25DFT	7-15
	*Off	R25ENA0	7-15
	On	R25ENA1	7-15
Straight 2 of 5 Industrial Message Length	Minimum (1 - 48) *4	R25MIN##	7-15
	Maximum (1 - 48) *48	R25MAX##	7-15
Straight 2 of 5 IATA	Default All Straight 2 of 5 IATA Settings	A25DFT	7-16
Straight 2 of 5 IATA	*Off	A25ENA0	7-16
	On	A25ENA1	7-16
Straight 2 of 5 IATA Message Length	Minimum (1 - 48) *4	A25MIN##	7-16
	Maximum (1 - 48) *48	A25MAX##	7-16
Matrix 2 of 5	Default All Matrix 2 of 5 Settings	X25DFT	7-17
	*Off	X25ENA0	7-17
	On	X25ENA1	7-17
Matrix 2 of 5 Message Length	Minimum (1 - 80) *4	X25MIN##	7-17
	Maximum (1 - 80) *80	X25MAX##	7-17

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Code 11	Default All Code 11 Settings	C11DFT	7-18
	*Off	C11ENA0	7-18
	On	C11ENA1	7-18
Code 11 Check Digits Required	1 Check Digit	C11CK20	7-18
	*2 Check Digits	C11CK21	7-18
Code 11 Message Length	Minimum (1 - 80) *4	C11MIN##	7-19
	Maximum (1 - 80) *80	C11MAX##	7-19
Code 128	Default All Code 128 Settings	128DFT	7-19
	Off	128ENA0	7-19
	*On	128ENA1	7-19
ISBT Concatenation	*Off	ISBENA0	7-20
	On	ISBENA1	7-20
Code 128 Message Length	Minimum (0 - 80) *0	128MIN##	7-20
	Maximum (0 - 80) *80	128MAX##	7-20
Code 128 Code Page	Code 128 Code Page (*2)	128DCP##	7-20
GS1-128	Default All GS1-128 Settings	GS1DFT	7-21
	*On	GS1ENA1	7-21
	Off	GS1ENA0	7-21
GS1-128 Message Length	Minimum (1 - 80) *1	GS1MIN	7-21
	Maximum (0 - 80) *80	GS1MAX	7-21
Telepen	Default All Telepen Settings	TELDFT	7-22
	*Off	TELENA0	7-22
	On	TELENA1	7-22

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Telepen Output	*AIM Telepen Output	TELOLD0	7-22
	Original Telepen Output	TELOLD1	7-22
Telepen Message Length	Minimum (1 - 60) *1	TELMIN##	7-23
	Maximum (1 - 60) *60	TELMAX##	7-23
UPC-A	Default All UPC-A Settings	UPADFT	7-23
	Off	UPAENA0	7-23
	*On	UPAENA1	7-23
UPC-A Check Digit	Off	UPACKX0	7-23
	*On	UPACKX1	7-23
UPC-A Number System	Off	UPANSX0	7-24
	*On	UPANSX1	7-24
UPC-A 2 Digit Addenda	*Off	UPAAD20	7-24
	On	UPAAD21	7-24
UPC-A 5 Digit Addenda	*Off	UPAAD50	7-24
	On	UPAAD51	7-24
UPC-A Addenda Required	*Not Required	UPAARQ0	7-24
	Required	UPAARQ1	7-24
UPC-A Addenda Separator	Off	UPAADS0	7-25
	*On	UPAADS1	7-25
UPC-A/EAN-13 with Extended Coupon Code	*Off	CPNENA0	7-25
	Allow Concatenation	CPNENA1	7-25
	Require Concatenation	CPNENA2	7-25
UPC-E0	Default All UPC-E Settings	UPEDFT	7-26
	Off	UPEEN00	7-26
	*On	UPEEN01	7-26
UPC-E0 Expand	*Off	UPEEXP0	7-26
	On	UPEEXP1	7-26

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
UPC-E0 Addenda Required	Required	UPEARQ1	7-27
	*Not Required	UPEARQ0	7-27
UPC-E0 Addenda Separator	*On	UPEADS1	7-27
	Off	UPEADS0	7-27
UPC-E0 Check Digit	Off	UPECKX0	7-27
	*On	UPECKX1	7-27
UPC-E0 Number System	Off	UPENSX0	7-28
	*On	UPENSX1	7-28
UPC-E0 Addenda	2 Digit Addenda On	UPEAD21	7-28
	*2 Digit Addenda Off	UPEAD20	7-28
	5 Digit Addenda On	UPEAD51	7-28
	*5 Digit Addenda Off	UPEAD50	7-28
UPC-E1	*Off	UPEEN10	7-29
	On	UPEEN11	7-29
EAN/JAN-13	Default All EAN/ JAN Settings	E13DFT	7-29
	Off	E13ENA0	7-29
	*On	E13ENA1	7-29
EAN/JAN-13 Check Digit	Off	E13CKX0	7-29
	*On	E13CKX1	7-29
EAN/JAN-13 2 Digit Addenda	2 Digit Addenda On	E13AD21	7-30
	*2 Digit Addenda Off	E13AD20	7-30
	5 Digit Addenda On	E13AD51	7-30
	*5 Digit Addenda Off	E13AD50	7-30
EAN/JAN-13 Addenda Required	*Not Required	E13ARQ0	7-30
	Required	E13ARQ1	7-30
EAN/JAN-13 Addenda Separator	Off	E13ADS0	7-31
	*On	E13ADS1	7-31
ISBN Translate	*Off	E13ISB0	7-31
	On	E13ISB1	7-31

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
EAN/JAN-8	Default All EAN/ JAN 8 Settings	EA8DFT	7-32
	Off	EA8ENA0	7-32
	*On	EA8ENA1	7-32
EAN/JAN-8 Check Digit	Off	EA8CKX0	7-32
	*On	EA8CKX1	7-32
EAN/JAN-8 Addenda	*2 Digit Addenda Off	EA8AD20	7-33
	2 Digit Addenda On	EA8AD21	7-33
	*5 Digit Addenda Off	EA8AD50	7-33
	5 Digit Addenda On	EA8AD51	7-33
EAN/JAN-8 Addenda Required	*Not Required	EA8ARQ0	7-33
	Required	EA8ARQ1	7-33
EAN/JAN-8 Addenda Separator	Off	EA8ADS0	7-33
	*On	EA8ADS1	7-33
MSI	Default All MSI Settings	MSIDFT	7-34
	*Off	MSIENA0	7-34
	On	MSIENA1	7-34

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
MSI Check Character	*Validate Type 10, but Don't Transmit	MSICK0	7-35
	Validate Type 10 and Transmit	MSICK1	7-35
	Validate 2 Type 10 Chars, but Don't Transmit	MSICK2	7-35
	Validate 2 Type 10 Chars and Transmit	MSICK3	7-35
	Validate Type 10 then Type 11 Char, but Don't Transmit	MSICK4	7-35
	Validate Type 10 then Type 11 Char and Transmit	MSICK5	7-35
	Disable MSI Check Characters	MSICK6	7-35
MSI Message Length	Minimum (4 - 48) *4	MSIMIN##	7-35
	Maximum (4 - 48) *48	MSIMAX##	7-35
GS1 DataBar Omnidirectional	Default All GS1 DataBar Omnidirectional Settings	RSSDFT	7-36
	Off	RSENA0	7-36
	*On	RSENA1	7-36
GS1 DataBar Limited	Default All GS1 DataBar Limited Settings	RSLDFT	7-36
	Off	RSENA0	7-36
	*On	RSENA1	7-36

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	Page
GS1 DataBar Expanded	Default All GS1 DataBar Expanded Settings	RSEDFE	7-37
	Off	RSEENA0	7-37
	*On	RSEENA1	7-37
GS1 DataBar Expanded Msg. Length	Minimum (4 - 74) *4	RSEMIN##	7-37
	Maximum (4 - 74) *74	RSEMAX##	7-37
Trioptic Code	*Off	TRIENA0	7-38
	On	TRIENA1	7-38
Codablock A	Default All Codablock A Settings	CBADFE	7-38
	*Off	CBAENA0	7-38
	On	CBAENA1	7-38
Codablock A Msg. Length	Minimum (1 - 600) *1	CBAMIN####	7-39
	Maximum (1 - 600) *600	CBAMAX####	7-39
Codablock F	Default All Codablock F Settings	CBDFE	7-38
	*Off	CBFENA0	7-40
	On	CBFENA1	7-40
Codablock F Msg. Length	Minimum (1 - 2048) *1	CBFMIN####	7-40
	Maximum (1 - 2048) *2048	CBFMAX####	7-40
PDF417	Default All PDF417 Settings	PDFDFE	7-41
	*On	PDFENA1	7-41
	Off	PDFENA0	7-41

選択項目	設定 * は初期設定を示す	シリアルコマンド # は数値入力を示す	ページ
PDF417 Msg. Length	Minimum (1-2750) *1	PDFMIN	7-41
	Maximum (1-2750) *2750	PDFMAX	7-41
MicroPDF417	Default All Micro PDF417 Settings	MPDDFT	7-42
	On	MPDENA1	7-42
	*Off	MPDENA0	7-42
MicroPDF417 Msg. Length	Minimum (1-366) *1	MPDMIN	7-42
	Maximum (1-366) *366	MPDMAX	7-42
GS1 Composite Codes	On	COMENA1	7-43
	*Off	COMENA0	7-43
UPC/EAN Version	On	COMUPC1	7-43
	*Off	COMUPC0	7-43
GS1 Composite Codes Msg. Length	Minimum (1-2435) *1	COMMIN	7-43
	Maximum (1-2435) *2435	COMMAX	7-43
GS1 Emulation	GS1-128 Emulation	EANEMU1	7-44
	GS1 DataBar Emulation	EANEMU2	7-44
	GS1 Code Expansion Off	EANEMU3	7-44
	EAN8 to EAN13 Conversion	EANEMU4	7-44
	*GS1 Emulation Off	EANEMU0	7-44
TCIF Linked Code 39	On	T39ENA1	7-45
	*Off	T39ENA0	7-45
QR Code	Default All QR Code Settings	QRCDFT	7-50
	*On	QRCENA1	7-45
	Off	QRCENA0	7-45

選択項目	設定 * 初期設定を示す	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
QR Code Msg. Length	Minimum (1-7089) *1	QRCMIN	7-46
	Maximum (1-7089) *7089	QRCMAX	7-46
Data Matrix	Default All Data Matrix Settings	IDMDFT	7-47
	*On	IDMENA1	7-47
	Off	IDMENA0	7-47
Data Matrix Msg. Length	Minimum (1-3116) *1	IDMMIN	7-47
	Maximum (1-3116) *3116	IDMMAX	7-47
MaxiCode	Default All MaxiCode Settings	MAXDFT	7-48
	*On	MAXENA1	7-48
	Off	MAXENA0	7-48
MaxiCode Msg. Length	Minimum (1-150) *1	MAXMIN	7-48
	Maximum (1-150) *150	MAXMAX	7-48
Aztec Code	Default All Aztec Code Settings	AZTDFT	7-49
	*On	AZTENA1	7-49
	Off	AZTENA0	7-49
Aztec Code Msg. Length	Minimum (1-3832) *1	AZTMIN	7-49
	Maximum (1-3832) *3832	AZTMAX	7-49
Chinese Sensible (Han Xin) Code	Default All Han Xin Code Settings	HX_DFT	7-50
	On	HX_ENA1	7-50
	*Off	HX_ENA0	7-50

選択項目	設定 *は初期設定を示す	シリアルコマンド # は数値入力を示す	ページ
Chinese Sensible (Han Xin) Code Msg. Length	Minimum (1-7833) *1	HX_MIN	7-50
	Maximum (1-7833) *7833	HX_MAX	7-50
Postal Codes - 2D (ポスタルコードー2D)			
2D Postal Codes	*Off	POSTAL0	7-51
Single 2D Postal Codes	Australian Post On	POSTAL1	7-51
	British Post On	POSTAL7	7-51
	Canadian Post On	POSTAL30	7-51
	Intelligent Mail Bar Code On	POSTAL10	7-51
	Japanese Post On	POSTAL3	7-51
	KIX Post On	POSTAL4	7-51
	Planet Code On	POSTAL5	7-51
	Postal-4i On	POSTAL9	7-51
	Postnet On	POSTAL6	7-52
	Postnet with B and B' Fields On	POSTAL11	7-52
Combination 2D Postal Codes	InfoMail On	POSTAL2	7-52
	InfoMail and British Post On	POSTAL8	7-52
	Intelligent Mail Bar Code and Postnet with B and B' Fields On	POSTAL20	7-52
	Postnet and Postal- 4i On	POSTAL14	7-52
	Postnet and Intelligent Mail Bar Code On	POSTAL16	7-52
Postal-4i and Intelligent Mail Bar Code On	POSTAL17	7-52	

選択項目	設定 * 印は初期設定	シリアルコマンド # は数値入力を示す	ページ
Combination 2D Postal Codes (continued)	Postal-4i and Postnet with B and B' Fields On	POSTAL19	7-52
	Planet and Postnet On	POSTAL12	7-52
	Planet and Postnet with B and B' Fields On	POSTAL18	7-52
	Planet and Postal-4i On	POSTAL13	7-53
	Planet and Intelligent Mail Bar Code On	POSTAL15	7-53
	Planet, Postnet, and Postal-4i On	POSTAL21	7-53
	Planet, Postnet, and Intelligent Mail Bar Code On	POSTAL22	7-53
	Planet, Postal-4i, and Intelligent Mail Bar Code On	POSTAL23	7-53
	Postnet, Postal-4i, and Intelligent Mail Bar Code On	POSTAL24	7-53
	Planet, Postal-4i, and Postnet with B and B' Fields On	POSTAL25	7-53
	Planet, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet with B and B' Fields On	POSTAL26	7-53
	Postal-4i, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet with B and B' Fields On	POSTAL27	7-53

選択項目	設定 * 印は初期設定	シリアルコマンド # 印は数値入力を示す	ページ
Combination 2D Postal Codes (continued)	Planet, Postal-4i, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet On	POSTAL28	7-53
	Planet, Postal-4i, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet with B and B' Fields On	POSTAL29	7-53
Planet Code Check Digit	Transmit	PLNCKX1	7-54
	*Don't Transmit	PLNCKX0	7-54
Postnet Check Digit	Transmit	NETCKX1	7-54
	*Don't Transmit	NETCKX0	7-54
Postal Codes – Linear (ポスタルコード – 二次元バーコード)			
China Post (Hong Kong 2 of 5)	Default All China Post (Hong Kong 2 of 5) Settings	CPCDFT	7-54
	*Off	CPCENA0	7-55
	On	CPCENA1	7-55
China Post (Hong Kong 2 of 5) Msg. Length	Minimum (2 - 80) *4	CPCMIN##	7-55
	Maximum (2 - 80) *80	CPCMAX##	7-55
Korea Post	Default All Korea Post Settings	KPCDFT	7-56
	*Off	KPCENA0	7-56
	On	KPCENA1	7-56
Korea Post Msg. Length	Minimum (2 - 80) *4	KPCMIN##	7-56
	Maximum (2 - 80) *48	KPCMAX##	7-56
Korea Post Check Digit	Transmit Check Digit	KPCCHK1	7-56
	*Don't Transmit Check Digit	KPCCHK0	7-56

選択項目	設定 *印は初期設定を示す	シリアルコマンド #印は数値入力を示す	ページ
Imaging Default Commands (画像デフォルトコマンド)			
Image Snap	Default all Imaging Commands	IMGDFT	8-1
	Imaging Style - Decoding	SNPSTY0	8-2
	*Imaging Style - Photo	SNPSTY1	8-2
	Imaging Style - Manual	SNPSTY2	8-2
	Beeper On	SNPBEP1	8-2
	*Beeper Off	SNPBEP0	8-2
	*Wait for Trigger Off	SNPTRG0	8-2
	Wait for Trigger On	SNPTRG1	8-2
	*LED State - Off	SNPLED0	8-2
	LED State - On	SNPLED1	8-2
	Exposure (1-7874 microseconds)	SNPEXP	8-3
	*Gain - None	SNPGAN1	8-3
	Gain - Medium	SNPGAN2	8-3
	Gain - Heavy	SNPGAN4	8-3
	Gain - Maximum	SNPGAN8	8-3
	Target White Value (0-255) *125	SNPWHT###	8-4
	Delta for Acceptance (0-255) *25	SNPDEL###	8-4
	Update Tries (0-10) *6	SNPTRY##	8-4
Target Set Point Percentage (1-99) *50	SNPPCT##	8-4	

選択項目	設定 * 印は初期設定を示す	シリアルコマンド # 印は数値入力を示す	ページ
Image Ship	*Infinity Filter - Off	IMGINFO	8-5
	Infinity Filter - On	IMGINF1	8-5
	*Compensation Off	IMGCOR0	8-6
	Compensation On	IMGCOR1	8-6
	*Pixel Depth - 8 bits/ pixel (grayscale)	IMGBPP8	8-6
	Pixel Depth - 1 bit/ pixel (B&W)	IMGBPP1	8-6
	*Don't Sharpen Edges	IMGEDG0	8-7
	Sharpen Edges (0- 23)	IMGEDG##	8-7
	*File Format - JPEG	IMGFMT6	8-7
	File Format - KIM	IMGFMT0	8-7
	File Format - TIFF binary	IMGFMT1	8-7
	File Format - TIFF binary group 4, compressed	IMGFMT2	8-7
	File Format - TIFF grayscale	IMGFMT3	8-7
	File Format - Uncompressed binary	IMGFMT4	8-7
	File Format - Uncompressed grayscale	IMGFMT5	8-7
	File Format - BMP	IMGFMT8	8-7
	*Histogram Stretch Off	IMGHIS0	8-8
	Histogram Stretch On	IMGHIS1	8-8
	*Noise Reduction Off	IMGFSP0	8-9
	Noise Reduction On	IMGFSP1	8-9

選択項目	設定 * 印は初期設定を示す	シリアルコマンド # 印は数値入力を示す	ページ
Image Ship (continued)	Invert Image around X axis	IMGNVX1	8-8
	Invert Image around Y axis	IMGNVY1	8-8
	Rotate Image none	IMGROT0	8-9
	Rotate Image 90° right	IMGROT1	8-9
	Rotate Image 180° right	IMGROT2	8-9
	Rotate Image 90° left	IMGROT3	8-9
	JPEG Image Quality (0-100) *50	IMGJQ####	8-10
	*Gamma Correction Off	IMGGAM0	8-10
	Gamma Correction On (0-1000)	IMGGAM####	8-10
	Image Crop - Left (0- 640) *0	IMGWNL####	8-10
	Image Crop - Right (0-640) *639	IMGWNR####	8-10
	Image Crop - Top (0- 480) *0	IMGWNT####	8-10
	Image Crop - Bottom (0-480) *479	IMGWNB####	8-11
	Image Crop - Margin (1-238) *0	IMGMAR####	8-11
	Protocol - None (raw)	IMGXFR0	8-11
	Protocol - None (default USB)	IMGXFR2	8-11
	Protocol - Hmodem Compressed	IMGXFR3	8-11
	Protocol - Hmodem	IMGXFR4	8-11
Ship Every Pixel	IMGSUB1	8-12	

選択項目	設定 * 印は初期設定を示す	シリアルコマンド # 印は数値入力を示す	ページ
Image Ship (continued)	Ship Every 2nd Pixel	IMGSUB2	8-12
	Ship Every 3rd Pixel	IMGSUB3	8-12
	*Document Image Filter Off	IMGUSH0	8-12
	Document Image Filter On (0-255)	IMGUSH###	8-12
	*Don't Ship Histogram	IMGHST0	8-13
	Ship Histogram	IMGHST1	8-13
Image Size Compatibility	Force VGA Resolution	IMGVGA1	8-14
	*Native Resolution	IMGVGA0	8-14
Intelligent Signature Capture	Optimize On	DECBND1	8-14
	*Optimize Off	DECBND0	8-14

1900 スキャナ製品仕様

項目	仕様
外形寸法(代表値)	
高さ	16 cm (6.3 インチ)
長さ	10.41cm (4.1インチ)
幅	7.11cm (2.8インチ)
重量	147.42g (5.2 オンス)
照明	
スキャン・エイミングLED	617nm + 18nm
LED 出力	0.339mW
画像サイズ	838 x 640 ピクセル
スキュー角	65°
ピッチ角	45°
モーションの許容範囲 ストリーミングプレゼンテーショントリ ガー	13 mm UPCバーコードの場合、240インチ/秒まで
シンボルコントラスト	グレード 1.0 (20%以上)
電圧条件	インプットコネクタで4~5.5 VDC
消費電流 (@5VDC)	動作時 待機時 450mA、2.3W 90mA、45W
電源ノイズ防止	ピークで100mV以下、10 ~ 100 kHz
温度範囲	
動作温度	0° C ~ 50° C (+32° F ~ +122° F)
保管温度	-40° C ~ 70° C (-40° F ~ +158° F)
湿度	0 ~ 95%、結露無きこと
衝撃	1.83mの高さから23° C でコンクリートに50回落下させた衝撃に耐えること
振動	22~300 Hzで最大5Gに耐えること
ESD耐性	空気直接の場合15kVまで 間接的結合面の場合は8 kVまで

1902 スキャナ製品仕様

項目	仕様
外形寸法(代表値) 高さ 長さ 幅 重量	16 cm (6.3 インチ) 10.41cm (4.1 インチ) 7.11cm (2.8インチ) 212.62g (7.5 オンス)
照明 スキャン・エイミング LED LED 出力	617nm + 18nm 0.339mW
画像サイズ	838 x 640 ピクセル
スキュー角	65°
ピッチ角	45°
モーションの許容範囲 ストリーミングプレゼンテー シヨントリガー	13 mm UPC/バーコードの場合、240インチ/秒まで
シンボルコントラスト	グレード 1.0 (20%以上)
バッテリー リチウムイオン スキャン数 期待動作持続時間 期待充電時間	最低1800 mAhr 1回の充電ごとに50,000回まで 14 4.5 時間
無線 周波数 無線範囲 データ伝送速度	2.4 to 2.5 GHz (ISM バンド)通信周波数ホッピング Bluetooth v.2.1 一般10 m (33 ft) 最高1 MBps
温度範囲 動作温度 保管温度*	0° C ~ 50° C (32° F ~ + 122° F) -40° C ~ 70° C (-40° F ~ +158° F)
湿度	95%まで、結露無きこと
衝撃	1.83mの高さからコンクリートに50回落下させた衝撃に耐えること
振動	22~300 Hzで最大5Gに耐えること
ESD耐性	空気直接の場合15kVまで 間接的結合面の場合は8 kVまで
環境シールド	IP41

*この温度範囲を超えた保管は、バッテリーの寿命に影響します。

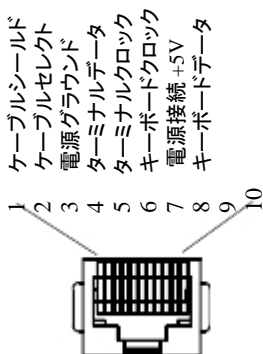
CCB01-010BT チャージベース 製品仕様

項目	仕様
外形寸法(代表値) 高さ 長さ 幅 重量	8.128cm (3.2 インチ) 13.183cm (5.19 インチ) 10.109cm (3.98 インチ) 179g (6.3 オンス)
電圧条件	4.5 ~ 5.5ボルト
消費電力 ホスターミナルポート 補助パワーポート	500mA 1A
充電時間	5 時間
無線 周波数 無線範囲 データ伝送速度	22.4 to 2.5 GHz (ISM バンド)通信周波数ホッピング Bluetooth v.2.1 一般10 m (33 ft) 最高1 MBps
温度範囲 動作温度 バッテリー充電 保管温度	0° C ~ 50° C (32° F ~ +122° F) 5° C ~ +40° C (41° F ~ +104° F) -40° C ~ +70° C (-40° F ~ + 158° F)
湿度	95%まで、結露無きこと
衝撃	1mの高さからコンクリートに50回落下させた衝撃に耐えること
振動	22~300 Hzで最大5Gに耐えること
ESD耐性	空気直接の場合15kVまで 間接的結合面の場合は8 kVまで

標準ケーブルピンアウト

キーボードウェッジ

10ピンのRJ41モジュラープラグ
ベースに接続

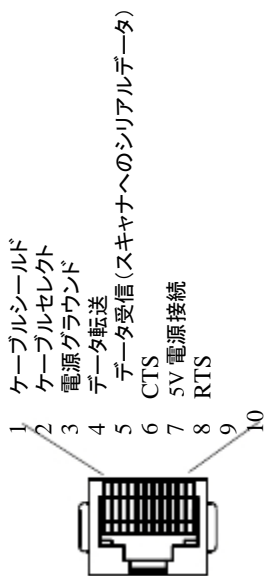


注: ピンアサインメントは、ハネウェルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピンアサインメントのケーブル使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

標準ケーブルピンアウト

シリアルアウトプット

10ピンRJ41モジュラープラグ
ベースに接続



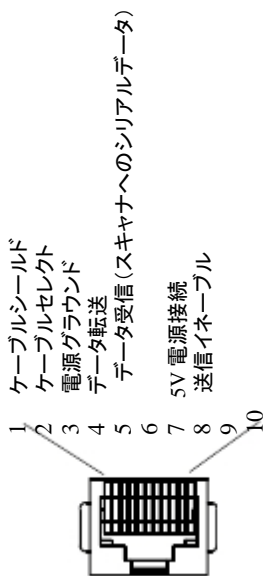
注: ピンアサインメントはハネウェルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピンアサインメントのケーブル使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

標準ケーブルピンアウト

RS485 アウトプット

10ピンRJ41モジュラープラグ

ベースに接続

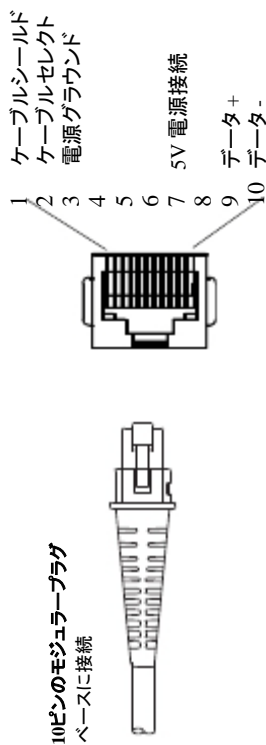


注: RS485 の信号変換はケーブル内で行われます。

ピンアサインメントは、ハネウェルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピンアサインメントのケーブル使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

標準ケーブルピンアウト

USB



注：ピンアサインメントはハネウェルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピンアサインメントのケーブル使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。



保守

修理

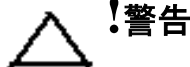
修理、アップグレードはこの製品に付属しておりません。これらのサービスは、かならず正規のサービスセンターで受けてください(14-1 ページの「[テクニカルサポート](#)」を参照)。

保守

スキャナは、最低限の手入れで確実に効率的な動作を提供します。特別な保守は不要ですが、以下の定期点検によって信頼性の高いスキャナの動作を確保できます。

機器の清掃

スキャナの窓が汚れていると、読み取り性能が低下することがあります。汚れが目立ったり、十分に動作しない場合は、柔らかい布やレンズ用ティッシュを水(または水で薄めた中性洗剤)で軽く濡らして窓を拭いてください。洗剤を使用する場合は、水だけで濡らしたきれいなレンズ用ティッシュで拭き取ってください。スキャナやベースのハウジングも同様に清掃できます。



!警告

スキャナを水に浸けないでください。
スキャナのハウジングに耐水性はありません。

研磨剤入りの布やティッシュを使用しないでください。
窓を傷つけることがあります。ハウジングや窓には溶剤
(アルコールやアセトンなど)を絶対に使用しないでください。
表面や窓を傷めることがあります。

ケーブルとコネクタの点検

傷みやその他損傷の痕跡が無いかインターフェースケーブルとコネクタを点検してください。ケーブルがひどく傷んでいたりコネクタが損傷していると、スキャナの動作を妨げることがあります。ケーブル交換については、お買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。ケーブルの交換手順は [13-1 ページ](#)に記載されています。

コード付きスキャナケーブル交換

標準のインターフェースケーブルが10ピンのモジュラコネクタとともに付属しています。

適切に設置された場合、コネクタはフレキシブルリテンションタブによってスキャナのハンドルに収まります。インターフェースケーブルは現場で交換できるように設計されています。

- ・ 交換用ケーブルはハネウェル社もしくは正規の販売店よりお求めください。
- ・ 交換用ケーブルご注文の際は、元々のインターフェースケーブルのケーブル部品番号をご指定ください。

インターフェースケーブルの交換

1. ホストシステムの電源をオフにします。
2. スキャナのケーブルをターミナルまたはコンピュータからはずします。
3. スキャナのハンドルの裏側にある小さな穴を確認します。これがケーブルリリースです。

4. ペーパークリップの片方の先端をまっすぐにします。

5. まっすぐにしたペーパークリップの先端を小さな穴に差し込んで押します。これがリテンションタブを押し、コネクタのロックが解除されます。ペーパークリップを押したままコネクタを引き抜きます。



6. 新しいケーブルと交換します。コネクタを穴に差し込んで確実に押します。コネクタには、一方向だけに入るようにキーが付いています。所定の位置でカチッと音がします。

コードレスシステムでのケーブルとバッテリーの交換

ベースのインターフェースケーブルの交換

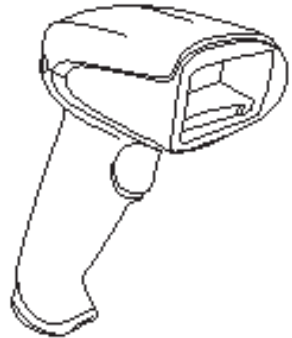
1. ホストシステムの電源をオフにします。
2. スキャナのケーブルをターミナルまたはコンピュータからはずします。
3. ベースを上下逆にします。
4. コネクタリリースクリップを押した状態でコネクタを引き抜きます。
5. 新しいケーブルと交換します。

コネクタを穴に差し込み、強く押してください。コネクタには、一方向だけに入るようにキーが付いています。所定の位置でカチッと音がします。



スキャナのバッテリー交換

1. エンドキャップのサムホイール式ネジを手か六角レンチでゆるめます。
2. ハンドルからバッテリーを抜きます。
3. 交換バッテリーを入れます。
4. エンドキャップとネジを元の位置に付けます。



トラブルシューティング エンドキャップ

電源を入れると、スキャナはそのつどセルフテストを自動的に実行します。お使いのスキャナが正常に機能しない場合は、以下のトラブルシューティングガイドに従って問題点を明らかにしてください。

電源が入っていますか？赤のエイミング照明ラインが点灯していますか？
赤のエイミング照明ラインが点灯していない場合は、以下の項目を確認してください。

- ケーブルが正しく接続されているか。
- ホストシステムの電源がオンになっているか(外部電源を使用しない場合)。
- トリガーが動作するか。

シンボルの読み取りでスキャナに問題がありますか？

シンボルを正しく読み取らない場合は、以下の項目を確認してください。

- シンボルに汚れ、荒れ、傷、あるいは欠けがないか。
- シンボルの表面に霜や水滴が付いていないか。
- シンボルがスキャナ、またはスキャナが接続されているデコーダで有効になっているか。

バーコードが表示されても入力されませんか？

バーコードはホスト機器で正常に表示されていますが、入力するためにはまだキーを押す必要があります(Enter/Return キーや Tab キーなど)。

- サフィックスを設定する必要があります。サフィックスを設定すると、スキャナはバーコードデータと必要なキー(「CR」など)を出力し、アプリケーションにデータを入力することができます。詳細については、5-1 ページの「[プレフィックス／サフィックスについて](#)」を参照してください。

スキャナがバーコードを間違っ読み取っていますか？

スキャナがバーコードを読み取っても、データがホスト画面に正しく表示されない場合は

- スキャナが適切なターミナルインタフェース用に設定されていない可能性があります。
例えば、「12345」を読み取っても、ホストが「 @es% 」と表示する場合など。
正しいプラグ & プレイバーコードでスキャナを再設定してください。
2-1ページからの **インターフェースの設定** を参照してください。
- スキャナがバーコードデータを正しく出力するように設定されていない可能性があります。
例えば、「12345」を読み取ってもホストが「A12345B」と表示する場合など。
正しいシンボルを選択してスキャナを再設定してください。これについては **第7章** を参照してください。

スキャナがバーコードをまったく読み取らない。

1. 本書の後ろにあるサンプルバーコードを読み取ります。スキャナがサンプルバーコードを読み取る場合は、お使いのバーコードが読み取り可能か確認してください。お使いのバーコードシンボルが有効になっているか確認してください。
(**第7章** を参照)
2. それでもサンプルバーコードを読み取れない場合は、7-2 ページの **All Symbologies** を読み取ってください。

スキャナで設定されているプログラミングオプションが不明の場合、または出荷時初期設定を復元したい場合は、1-10 ページの「**標準の製品初期設定のリセット**」のバーコードを読み取ります。

コードレスシステムのトラブルシューティング

ベースのトラブルシューティング

注: スキャナならびにベース用の最新のソフトについては、当社ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) のサービス & サポートセクションにアクセスください。

お使いのベースが正常に機能しない場合は、以下のトラブルシューティングガイドに従って問題点を明らかにしてください。

赤いLED ライトがつかまずか。

赤いLEDライトがつかない場合は、以下の点をご確認ください。

- 電源ケーブルが正しく接続されており、電源に電気があるか。
- ホストシステムの電源がオンになっているか (外部電源を使用しない場合)。

青いLED ライトがつかまずか。

緑のLEDライトがつかない場合は、以下の点をご確認ください。

- スキャナがベースにきちんと置かれているか。
- 外部電源か、12ボルトのホストからの電源があるか。
- 充電モードがオンになっているか。(3-6ページの**ブザー・LEDのシーケンスと意味**を参照)

- ・ バッテリーに異常がないか、重度の充電不足ではないか。この場合は、スキャナの許容レベルまでバッテリートリクル充電を行い、その後、一般の充電サイクルに転じます。

コードレススキャナのトラブルシューティング

注: スキャナのバッテリーが充電されていることをご確認ください。
スキャナやベース、アクセスポイントについての最新のソフトについては、当社ウェブサイト(www.honeywellaid.com)のサービス&サポートセクションにアクセスください。

シンボルの読み取りでスキャナに問題がありますか？

シンボルを正しく読み取らない場合は、以下の項目を確認してください。

- ・ シンボルに汚れ、荒れ、傷、あるいは欠けがないか。
- ・ シンボルの表面に霜や水滴が付いていないか。
- ・ スキャナと接続されているベースもしくはアクセスポイントが有効か。

バーコードが表示されても入力されませんか？

バーコードはホスト機器で正常に表示されていますが、入力するためにはまだキーを押す必要があります。(Enter/Return キーや Tab キーなど。)

- ・ サフィックスを設定する必要があります。サフィックスを設定すると、スキャナはバーコードデータと必要なキー(「CR」など)を出力し、アプリケーションにデータを入力することができます。詳細については、5-1 ページの「[プレフィックス/サフィックスについて](#)」を参照してください。

スキャナがバーコードを間違っ読み取っていますか？

スキャナがバーコードを読み取っても、データがホスト画面に正しく表示されない場合は

スキャナが適切なターミナルインターフェース用に設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取っても、ホストが「@es%」と表示する場合など。正しいプラグ & プレイバーコードでスキャナを再設定してください。2-1 ページからの[インターフェースの設定](#)を参照してください。

- ・ バスもしくはアクセスポイントがスキャナがバーコードデータを正しく出力するように設定されていない可能性があります。
例えば、「12345」を読み取ってもホストが「A12345B」と表示する場合など。
正しいシンボルを選択してベースかアクセスポイントを再設定してください。
これについては[第 7 章](#)を参照してください。

スキャナがバーコードをまったく読み取らない。

1. 本書の後ろにあるサンプルバーコードを読み取ります。スキャナがサンプルバーコードを読み取る場合は、お使いのバーコードが読み取り可能か確認してください。
お使いのバーコードシンボルが有効になっているか確認してください。
([第 7 章](#)を参照)
2. それでもサンプルバーコードを読み取れない場合は、7-2 ページの [All Symbologies](#) を読み取ってください。



テクニカルサポート

インストールやトラブルシューティングに関するサポートが必要な場合は、次の販売店または最寄りのテクニカルサポートオフィスにご連絡ください。

北アメリカ/カナダ

Telephone: (800) 782-4263

E-mail: hsmnasupport@honeywell.com

ラテンアメリカ

Telephone: (803) 835-8000

Telephone: (800) 782-4263

E-mail: hsmlasupport@honeywell.com

ブラジル

Telephone: +55 (11) 5185-8222

Fax: +55 (11) 5185-8225

E-mail: brsuporte@honeywell.com

メキシコ

Telephone: 01-800-HONEYWELL (01-800-466-3993)

E-mail: soporte.hsm@honeywell.com

ヨーロッパ、中東、アフリカ

Telephone: +31 (0) 40 7999 393

Fax: +31 (0) 40 2425 672

E-mail: hsmeurosupport@honeywell.com

香港

Telephone: +852-29536436

Fax: +852-2511-3557

E-mail: aptechsupport@honeywell.com

シンガポール

Telephone: +65-6842-7155

Fax: +65-6842-7166

E-mail: aptechsupport@honeywell.com

中国

Telephone: +86 800 828 2803

Fax: +86-512-6762-2560

E-mail: aptechsupport@honeywell.com

日本

Telephone: +81-3-3839-8511

Fax: +81-3-3839-8519

E-mail: aptechsupport@honeywell.com

オンラインでのテクニカルサポート

www.honeywellaidc.comからオンラインでのテクニカルサポートがご利用いただけます。

製品のサービスと修理

ハネウェル社は世界中のサービスセンターを通して全製品に対するサービスを提供しています。保証または保証外のサービスを受けられる場合は、返品前に、以下の該当ロケーションに連絡し、RMA (Return Material Authorization) 番号を取得してください。

北アメリカ

Telephone: (800) 782-4263
E-mail: hsmnaservice@honeywell.com

ラテンアメリカ

Telephone: (803) 835-8000
Telephone: (800) 782-4263
Fax: (239) 263-9689
E-mail: laservice@honeywell.com

ブラジル

Telephone: +55 (11) 5185-8222
Fax: +55 (11) 5185-8225
E-mail: brservice@honeywell.com

メキシコ

Telephone: 01-800-HONEYWELL (01-800-466-3993)
Fax: +52 (55) 5531-3672
E-mail: mxservice@honeywell.com

ヨーロッパ、中東、アフリカ

Telephone: +31 (0) 40 2901 633
Fax: +31 (0) 40 2901 631
E-mail: euroservice@honeywell.com

香港

Telephone: +852-29536436
Fax: +852-2511-3557
E-mail: apservice@honeywell.com

シンガポール

Telephone: +65-6842-7155
Fax: +65-6842-7166
E-mail: apservice@honeywell.com

中国

Telephone: +86 800 828 2803
Fax: +86-512-6762-2560
E-mail: apservice@honeywell.com

日本

Telephone: +81-3-3839-8511
Fax: +81-3-3839-8519
E-mail: apservice@honeywell.com

オンラインでの製品のサービスと修理

www.honeywellaidc.com より製品のサービスならびに修理に関するオンラインサポートをご利用いただけます。

条件付保証

Honeywell International Inc. (以下ハネウェル社)は、出荷時にはその製品の材料および製造品質に欠陥がなく、お買い上げいただいた製品に適用されるハネウェル社の公式な仕様に適合することを保証いたします。ただし、この保証は、以下の場合はハネウェル社の製品であっても対象外となります。

(i) 設置または使用方法が不適切。ii) 正しい保守、サービス、および清掃手順に従わなかった場合を含めた事故や不注意での損傷。または (iii) 以下の結果損傷した場合: (A) お客様または第三者が行った変更や改造、(B) インタフェース接続に過大な電圧や電流がかかったり流れたりした。C) 静電気または静電気放電、(D) 指定の動作パラメータを超える条件での使用、(E) ハネウェル社または正規代理店以外が行った製品の修理や整備。

この保証期間は、出荷時点から、ご購入時に製品に対してハネウェル社が公式に示した期間(「保証期間」)とします。欠陥品は、点検のために保証期間内にハネウェル社の工場または正規サービスセンターにかならず返却してください。RMA(Return Material Authorization)が取得できれば、ハネウェル社はどんな製品も受け付けません。RMA は、ハネウェル社に連絡すれば無くて済みます。保証期間内にハネウェル社または正規サービスセンターに製品が返却され、材料または製造品質の欠陥によって製品が故障したことを確認した場合、ハネウェル社は自社の選択によって製品を無償で修理または交換いたします。ただし、ハネウェル社への返却送料はご負担ください。

該当する法律によって規定されている場合を除き、上記の保証は、明示的であっても暗黙のものであっても、また口頭であっても書面であっても限定されることなく、特定の目的に対する商品性や適合のあらゆる暗黙の保証を含む他のあらゆる契約に代わるものです。

この保証によるハネウェル社の賠償責任とお客様が受けられる唯一の補償は、欠陥品の修理または交換に限られます。いかなる場合も、ハネウェル社は直接的、間接的、あるいは結果的な損害には一切責任を負いません。また、ここでお買い上げいただいた製品に関して生じたハネウェル社の賠償額は(そうした賠償責任が契約、保証、不法行為などに基づく請求によるものであっても関係なく)、その製品のためにハネウェル社にお支払いいただいた実際の金額を限度とします。これらの賠償責任の限度は、そのような、けが、損失、損害などの可能性についてハネウェル社が知らされていた場合であっても有効です。一部の州、地区、あるいは国などでは、偶発的または結果的な損害の除外または制限を認めていません。その場合は、上記の制限または除外が適用にならないことがあります。

この条件付保証項目はすべて区分されており、分離が可能です。つまり、いずれかの条項が無効のまま実施できない場合でも、その決定は他の項目を実施する有効性には関係ありません。この製品の製造者自身が製造または販売していない周辺装置を使用した場合には、この保証は無効になります。この周辺装置には、ケーブル、電源、クレイドル、およびドッキングステーションが含まれます。ハネウェル社は、これらの保証を製品の最初のエンドユーザーにのみ適用します。これらの保証は譲渡できません。

Xenon 1900スキャナの保証期間は5年とします。
Xenon 1902 スキャナならびにCCB01-010BT チャージベースの保証期間は3年です。
また、Xenon バッテリーの保証期間は1年です。

シンボルチャート

シンボル	AIM ID	AIM ID モディファイ (m)	コードID (hex)
All Symbologies			(0x99)
Australian Post]X0		A (0x41)
Aztec Code]zm	0-9, A-C	z (0x7A)
British Post]X0		B (0x42)
Canadian Post]X0		C (0x43)
China Post]X0		Q (0x51)
Chinese Sensible Code (Han XinCode)]X0		H (0x48)
Codabar]Fm	0-1	a (0x61)
Codablock A]Om	0, 1, 4, 5, 6	V (0x56)
Codablock F]Om	0, 1, 4, 5, 6	q (0x71)
Code 11]H3		h (0x68)
Code 128]Cm	0, 1, 2, 4	j (0x6A)
GS1-128]C1		l (0x49)
Code 16K]Km	0, 1, 2, 4	o (0x6F)
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)]X0		< (0x3C)
Code 39 (supports Full ASCII mode)]Am	0, 1, 3, 4, 5, 7	b (0x62)
Code 49]Tm	0, 1, 2, 4	l (0x6C)
Code 93 and 93i]Gm	0-9, A-Z, a-m	i (0x69)
Data Matrix]dm	0-6	w (0x77)
EAN-13 (including Bookland EAN)]E0		d (0x64)
EAN-13 with Add-On]E3		d (0x64)
EAN-13 with Extended Coupon Code]E3		d (0x64)
EAN-8]E4		D (0x44)

シンボル	AIM ID	AIM ID モディファイ(m)	コード ID (hex)
EAN-8 with Add-On]E3		D (0x44)
GS1 Composite]em	0-3	y (0x79)
GS1 DataBar]em	0	y (0x79)
InfoMail]X0		, (0x2c)
Intelligent Mail Barcode]X0		M (0x4D)
Interleaved 2 of 5]Im	0, 1, 3	e (0x65)
Japanese Post]X0		J (0x4A)
KIX (Netherlands) Post]X0		K (0x4B)
Korea Post]X0		? (0x3F)
Matrix 2 of 5]X0		m (0x6D)
MaxiCode]Um	0-3	x (0x78)
MicroPDF417]Lm	3-5	R (0x52)
MSI]Mm	0	g (0x67)
NEC 2 of 5]X0		Y (0x59)
OCR MICR (E 13 B)]o3		O (0x4F)
OCR SEMI Font]o3		O (0x4F)
OCR-A]o1		O (0x4F)
OCR-B]o2		O (0x4F)
PDF417]Lm	0-2	r (0x72)
Planet Code]X0		L (0x4C)
Postal-4i]X0		N (0x4E)
Postnet]X0		P (0x50)
QR Code and Micro QR Code]Qm	0-6	s (0x73)
Straight 2 of 5 IATA]Rm	0, 1, 3	f (0x66)
Straight 2 of 5 Industrial]S0		f (0x66)
TCIF Linked Code 39 (TLC39)]L2		T (0x54)
Telepen]Bm		t (0x54)
UPC-A]E0		c (0x63)

シンボル	AIM ID	AIM ID モディファイ (m)	コードID (hex)
UPC-A with Add-On]E3		c (0x63)
UPC-A with Extended Coupon Code]E3		c (0x63)
UPC-E]E0		E (0x45)
UPC-E with Add-On]E3		E (0x45)
UPC-E1]X0		E (0x45)

注: 「m」は、AIM モディファイのキャラクタを示します。AIM モディファイキャラクタの詳細については、「International Technical Specification」の「Symbology Identifiers」を参照してください。

特定のシンボルに対するプレフィックス／サフィックスの入力は、汎用 (All Symbologies, 99) 入力に優先します。

コード ID と AIM ID の使用方法については、5-1 ページからの[データ編集](#)と 6-1 ページからの[データフォーマット](#)を参照してください。

ASCII 換算チャート (コードページ1252)

注:この表は、米国方式のキーボードに適用されます。特定のキャラクタは、国コード/PCの地域設定によって異なる場合があります。

Dec	Hex	Char	Dec	Hex	Char	Dec	Hex	Char	Dec	Hex	Char
0	00	NUL	32	20		64	40	@	96	60	'
1	01	SOH	33	21	!	65	41	A	97	61	a
2	02	STX	34	22	"	66	42	B	98	62	b
3	03	ETX	35	23	#	67	43	C	99	63	c
4	04	EOT	36	24	\$	68	44	D	100	64	d
5	05	ENQ	37	25	%	69	45	E	101	65	e
6	06	ACK	38	26	&	70	46	F	102	66	f
7	07	BEL	39	27	'	71	47	G	103	67	g
8	08	BS	40	28	(72	48	H	104	68	h
9	09	HT	41	29)	73	49	I	105	69	i
10	0A	LF	42	2A	*	74	4A	J	106	6A	j
11	0B	VT	43	2B	+	75	4B	K	107	6B	k
12	0C	FF	44	2C	,	76	4C	L	108	6C	l
13	0D	CR	45	2D	-	77	4D	M	109	6D	m
14	0E	SO	46	2E	.	78	4E	N	110	6E	n
15	0F	SI	47	2F	/	79	4F	O	111	6F	o
16	10	DLE	48	30	0	80	50	P	112	70	p
17	11	DC1	49	31	1	81	51	Q	113	71	q
18	12	DC2	50	32	2	82	52	R	114	72	r
19	13	DC3	51	33	3	83	53	S	115	73	s
20	14	DC4	52	34	4	84	54	T	116	74	t
21	15	NAK	53	35	5	85	55	U	117	75	u
22	16	SYN	54	36	6	86	56	V	118	76	v
23	17	ETB	55	37	7	87	57	W	119	77	w
24	18	CAN	56	38	8	88	58	X	120	78	x
25	19	EM	57	39	9	89	59	Y	121	79	y
26	1A	SUB	58	3A	:	90	5A	Z	122	7A	z
27	1B	ESC	59	3B	;	91	5B	[123	7B	{
28	1C	FS	60	3C	<	92	5C	\	124	7C	
29	1D	GS	61	3D	=	93	5D]	125	7D	}
30	1E	RS	62	3E	>	94	5E	^	126	7E	~
31	1F	US	63	3F	?	95	5F	_	127	7F	

Dec	Hex	Char	Dec	Hex	Char	Dec	Hex	Char	Dec	Hex	Char
128	80	€	160	A0		192	C0	À	224	E0	à
129	81		161	A1	¡	193	C1	Á	225	E1	á
130	82	,	162	A2	¢	194	C2	Â	226	E2	â
131	83	f	163	A3	£	195	C3	Ã	227	E3	ã
132	84	„	164	A4	¤	196	C4	Ä	228	E4	ä
133	85	...	165	A5	¥	197	C5	Å	229	E5	å
134	86	†	166	A6	¦	198	C6	Æ	230	E6	æ
135	87	‡	167	A7	§	199	C7	Ç	231	E7	ç
136	88	^	168	A8	¨	200	C8	È	232	E8	è
137	89	‰	169	A9	©	201	C9	É	233	E9	é
138	8A	Š	170	AA	ª	202	CA	Ê	234	EA	ê
139	8B	<	171	AB	«	203	CB	Ë	235	EB	ë
140	8C	Œ	172	AC	¬	204	CC	Ì	236	EC	ì
141	8D		173	AD	-	205	CD	Í	237	ED	í
142	8E	Ž	174	AE	®	206	CE	Î	238	EE	î
143	8F		175	AF	¯	207	CF	Ï	239	EF	ï
144	90		176	B0	°	208	D0	Ð	240	F0	ð
145	91	‘	177	B1	±	209	D1	Ñ	241	F1	ñ
146	92	’	178	B2	²	210	D2	Ò	242	F2	ò
147	93	“	179	B3	³	211	D3	Ó	243	F3	ó
148	94	”	180	B4	´	212	D4	Ô	244	F4	ô
149	95	•	181	B5	µ	213	D5	Õ	245	F5	õ
150	96	–	182	B6	¶	214	D6	Ö	246	F6	ö
151	97	—	183	B7	·	215	D7	×	247	F7	÷
152	98	~	184	B8	,	216	D8	Ø	248	F8	ø
153	99	™	185	B9	¹	217	D9	Ù	249	F9	ù
154	9A	š	186	BA		218	DA	Ú	250	FA	ú
155	9B	›	187	BB	»	219	DB	Û	251	FB	û
156	9C	œ	188	BC	¼	220	DC	Ü	252	FC	ü
157	9D		189	BD	½	221	DD	Ý	253	FD	ý
158	9E	ž	190	BE	¾	222	DE	Þ	254	FE	þ
159	9F	ÿ	191	BF	¿	223	DF	ß	255	FF	ÿ

印刷バーコードのコードページマッピング

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、バーコードが作成されたときのコードページを選択してください。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。

注:コードページオプションが利用できるのは、Code 39、Code 93、およびCode 128 です。

コードページ	標準	内容
1	CP ISO646	
2 (初期設定)	ISO 2022	自動置換キャラクタ
3	CP Binary	
82	ISO 2022 11 Swe	スウェーデン置換キャラクタ
83	ISO 2022 69 Fra	フランス/ベルギー置換キャラクタ
81	ISO 2022 25 Fra	フランス/ベルギー置換キャラクタ
84	ISO 2022 11 Ger	ドイツ置換キャラクタ
85	ISO 2022 11 Ita	イタリア置換キャラクタ
86	ISO 2022 11 Swi	スイス置換キャラクタ
87	ISO 2022 11 UK	イギリス置換キャラクタ
88	ISO 2022 11 Dan	デンマーク置換キャラクタ
89	ISO 2022 11 Nor	ノルウェー置換キャラクタ
90	ISO 2022 11 Spa	スペイン置換キャラクタ

シンボルサンプル

UPC-A



0 123456 7890

Interleaved 2 of 5



1234567890

Code 128



Code 128

EAN-13



9 780330 290951

Code 39



BC321

Codabar



A13579B

Code 93



123456-9\$

Straight 2 of 5 Industrial



123456

シンボルサンプル

Matrix 2 of 5



6543210

GS1 DataBar



(01)00123456789012

PDF417



Car Registration

Postnet



Zip Code

Data Matrix



Test Symbol

QR Code



Numbers

4-CB (4-State Customer Bar Code)



01,234,567094,987654321,01234567891

ID-tag (UPU 4-State)



J18CUSA8E6N062315014880T

シンボルサンプル

Aztec



Package Label
(パッケージラベル)

MaxiCode



Test Message
(テストメッセージ)

Micro PDF417



Test Message
(テストメッセージ)

プログラミングチャート



K0K
0



K1K
1



K2K
2



K3K
3



K4K
4



K5K
5



K6K
6



K7K
7



K8K
8



K9K
9

プログラミングチャート



KAK
A



KBK
B



KCK
C



KDK
D



KEK
E



KFK
F



MNUSAV.
Save (保存して終了)



MNUABT.
Discard (設定中止)



RESET_
Reset (リセット)

注: 文字または数字 (Save を読み取る前に) をスキャンしエラーした場合は、Discard を読み取り、正確に文字または数字をもう一度スキャンして、Save を読み取ってください。

Honeywell Scanning & Mobility

9680 Old Bailes Road
Fort Mill, SC 29707